
Multi LABELIST V5

操作ガイド

フォルダ監視発行

株式会社サトー

2020年4月30日

はじめに

この度は、「Multi LABELIST V5」(以下 MLV5)をお求めいただきありがとうございます。MLV5は、様々なラベル・タグを作成・発行出来るアプリケーションです。

本マニュアルでは MLV5 をご理解いただくためにフォルダ監視発行について説明しております。

ご注意

- 本ソフトウェアの著作権は、株式会社サトーにあります。
 - 本ソフトウェアおよび本マニュアルの一部または全部を弊社の許可なく複写・複製することは、その形態を問わず禁じます。
 - 本ソフトウェアおよび本マニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
 - 本ソフトウェアおよび本マニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
 - 本マニュアルの内容は、訂正・改善のため予告なく変更することがあります。
 - 本マニュアルの内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。
-
- SATO、Multi LABELIST は、サトーホールディングス株式会社の登録商標または商標です。
 - Microsoft、Windows は、米国マイクロソフト社の登録商標です。
 - Adobe、Adobe Reader は、アドビシステム社の登録商標です。
 - その他記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

目次

はじめに.....	2
ご注意.....	2
目次.....	3
第 1 章 フォルダ監視発行.....	5
1-1.フォルダ監視発行を理解する.....	6
■概要.....	6
■各設定値の最大.....	7
1-2.フォルダ監視発行を利用する.....	8
■MLV5 をインストールする.....	8
■プリンタドライバをインストールする.....	13
■データファイル（発行データ）について.....	14
■監視フォルダ.....	15
1-3.データファイルの形式を設定する.....	16
■入力項目をすべて[行]エリアへ変更する.....	16
■データファイルの形式を設定する.....	20
■データファイルとレイアウトファイルを紐付ける.....	24
1-4.フォルダ監視発行を設定する.....	28
■設定ツールを表示する.....	28
■フォルダ監視の周期を変更する.....	30
■監視フォルダを指定する.....	30
■データファイルを指定する.....	32
■レイアウトファイルを指定する.....	33
■出力先を指定する.....	40
■設定値のインポート・エクスポートする.....	51
1-5.フォルダ監視発行を活用する.....	52
■レコード単位でカットする.....	52
■ファイル単位でカットする.....	55
■任意のタイミングでカットする.....	56
■発行枚数が未指定のデータを発行する.....	57
■複数のプリンタに出力する.....	60
■ログを表示する.....	63
■データファイルをバックアップする.....	64
■OS 起動時の動作を設定する.....	65
■セットファイルでデータ作成完了を監視する.....	66
第 2 章 補足情報.....	68
2-1.ログの出力内容.....	69

■ログ名とイベントソース名.....	69
■サービス開始・終了ログ (SATO MLV5 MLWatch)	69
■アプリケーション起動ログ (SATO MLV5 MLWatch)	69
■フォルダ監視ログ (SATO MLV5 MLWatch Folder)	70
■発行履歴ログ(SATO MLV5 MLWatch Folder PrintHistory)	74
2-2.注意事項.....	75
■Windows 8 以降の 64 ビット OS でカラープリンタレイアウトが印刷できない。	75

第1章

フォルダ監視 発行

1-1

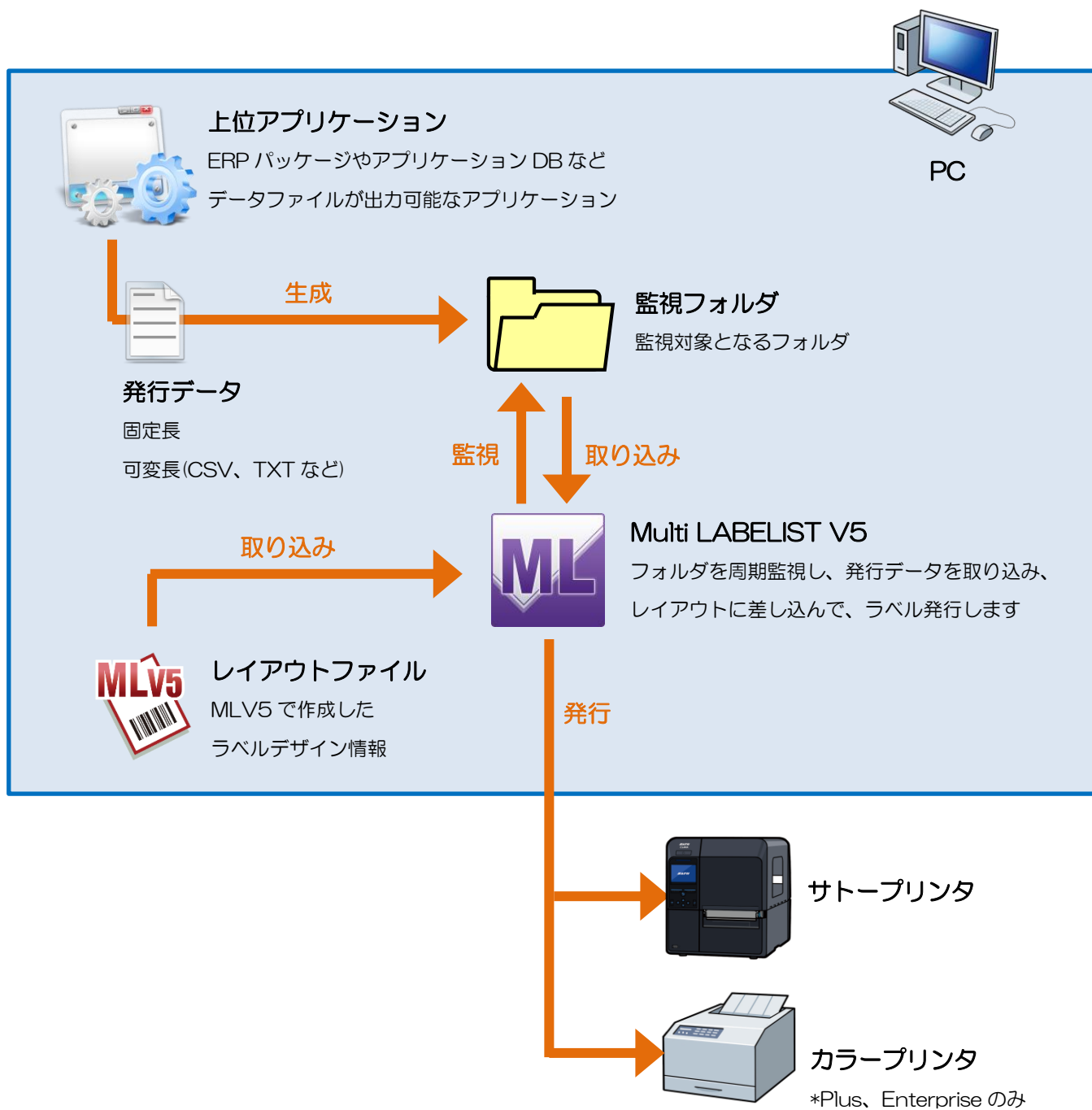
フォルダ監視発行を理解する

■概要 ■各設定値の最大

■概要

「フォルダ監視発行」は、指定したフォルダを周期的に監視し、対象のデータファイルを取り込んで、対応するレイアウトファイルを読み込み、自動的に発行する機能です。

お客様のアプリケーションは指定のフォルダにデータファイルを生成するだけで、簡単にラベル発行システムが構築できます。



■各設定値の最大

設定値	Standard / Lite / Plus	Enterprise
監視フォルダの設定	100	500
出力先判別の登録数	30	50
出力先判別の登録数(拡張時*)	100	500
レイアウト判別の登録数	1000	1000
マルチスレッド有効時の出力先	10	50

*登録件数を増加した場合は、処理速度に影響を与える場合がありますのでご注意ください。
推奨プリンタ台数は Standard / Lite / Plus が最大 30 台、Enterprise が最大 50 台です。

1-2

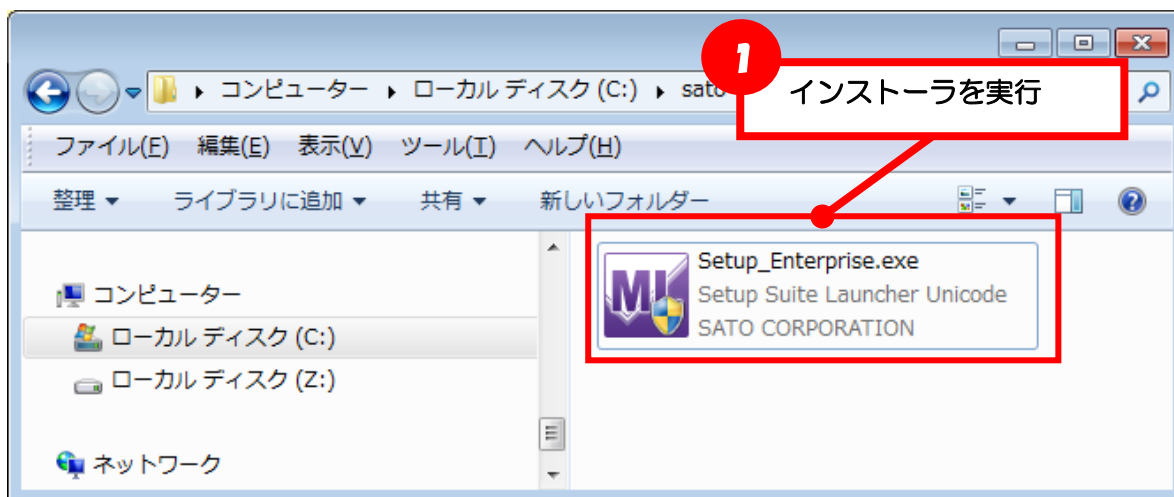
フォルダ監視発行を利用する

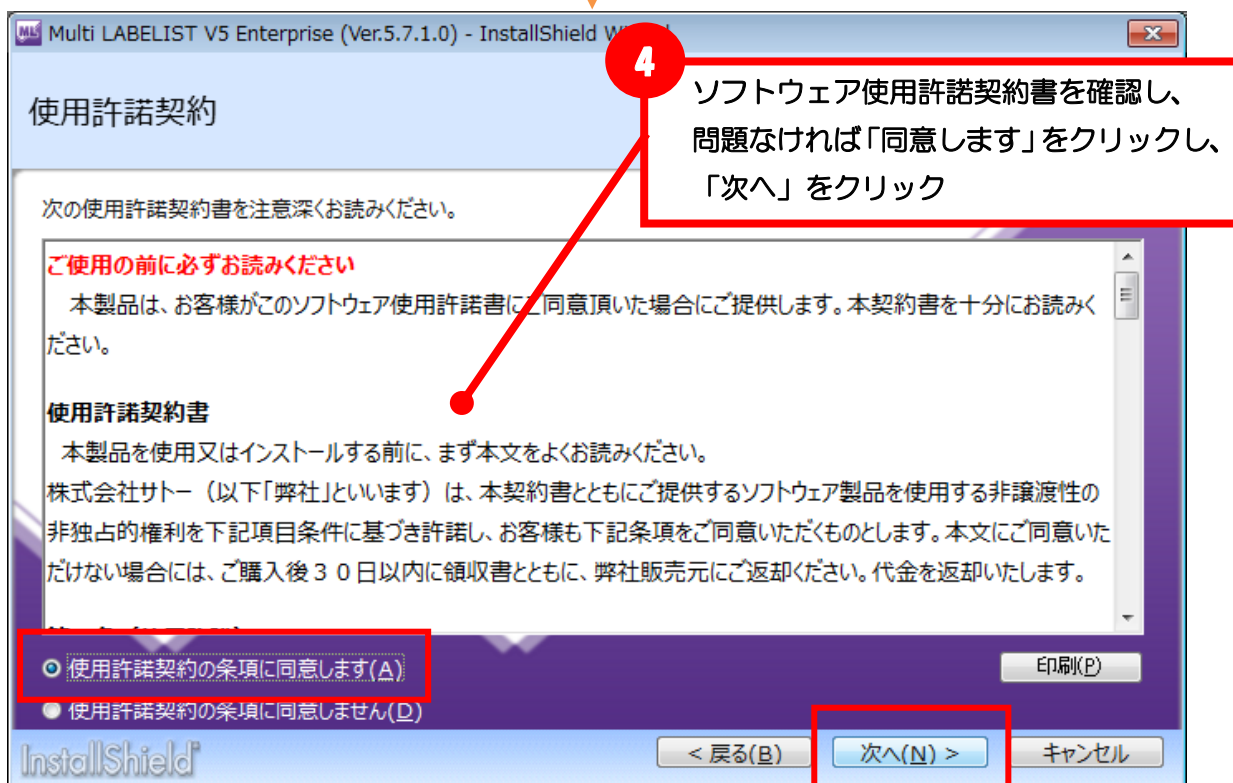
■インストール ■データファイル ■監視フォルダ

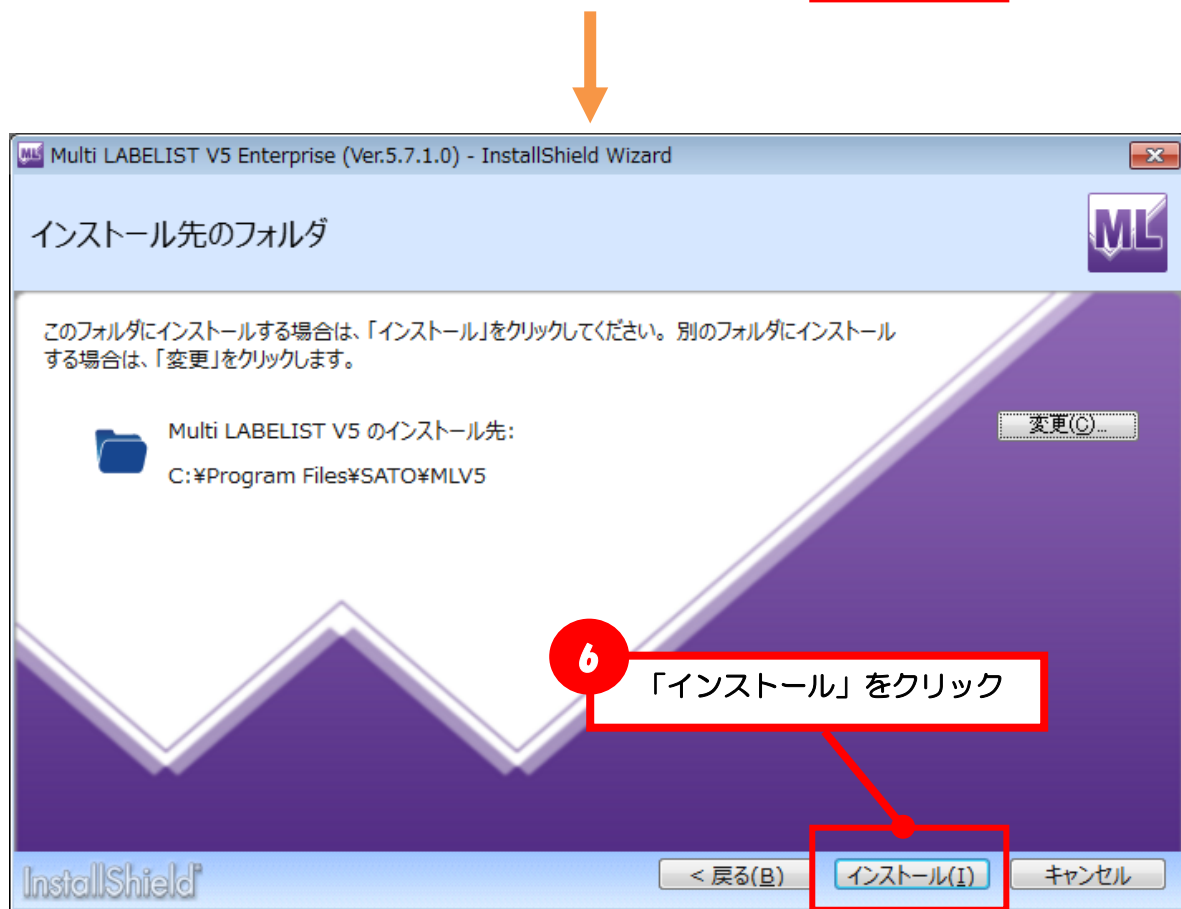
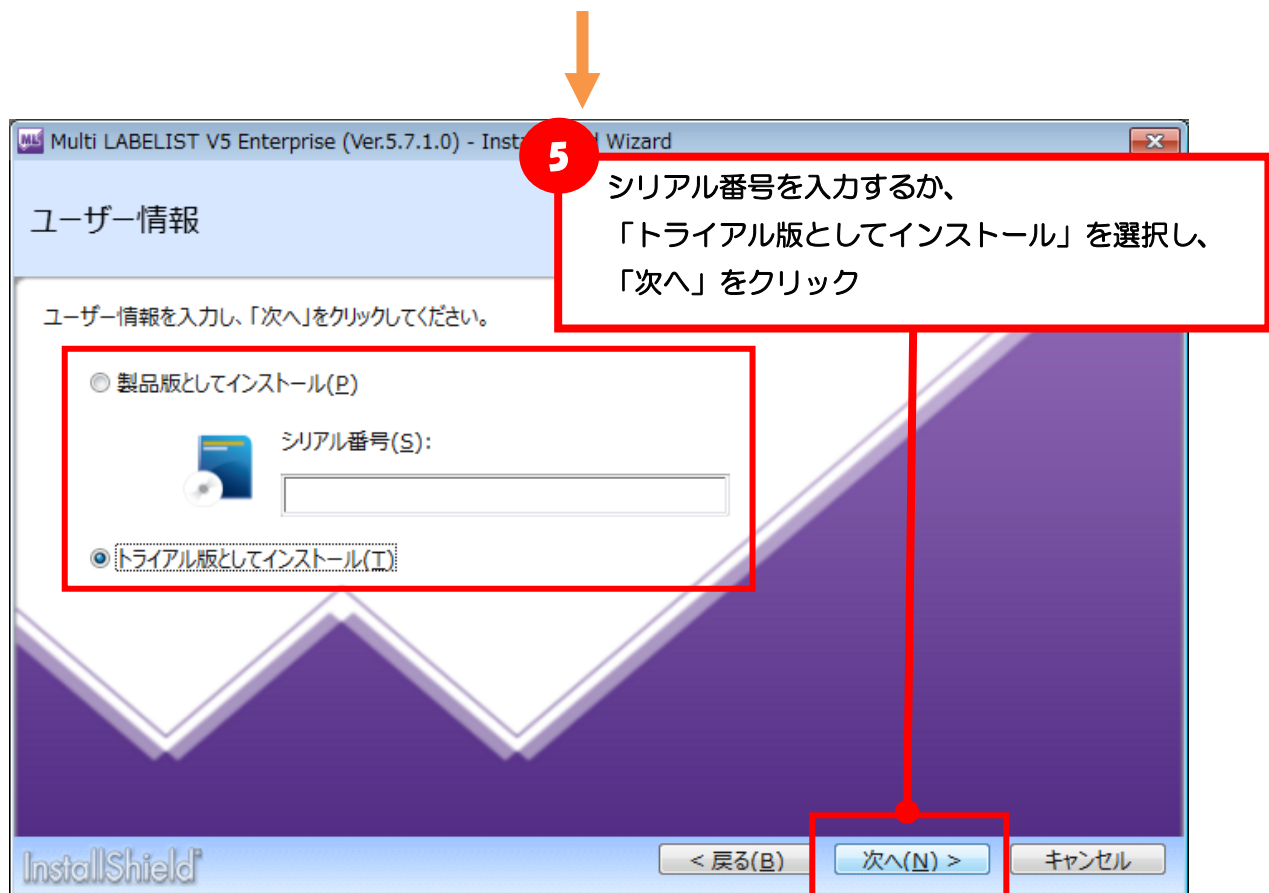
■MLV5 をインストールする

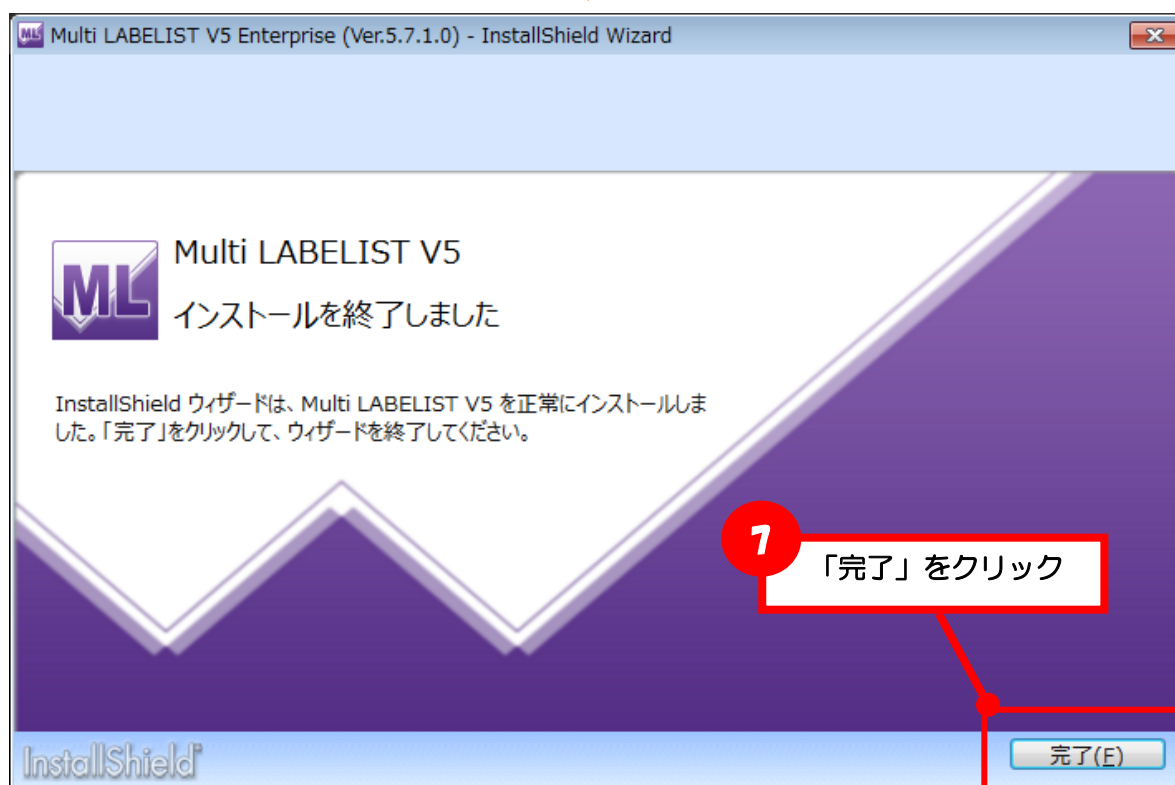
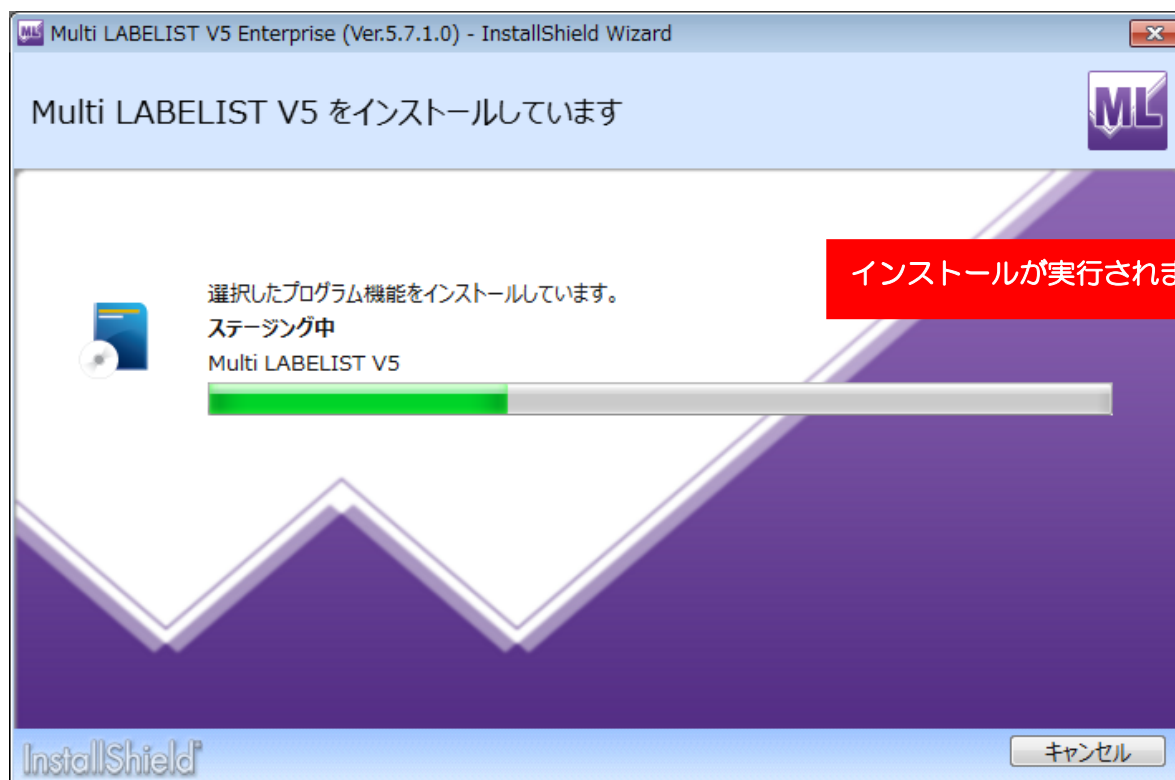
フォルダ監視発行は、MLV5 のインストールが必須です。

Enterprise 版で説明しておりますが、Plus、Standard、Lite も同様な操作です。









MLV5 を利用するには、ライセンスが必要です。ライセンスが確認できない場合は、Trial 版として動作せず、ライセンスエラーとなり、発行されません。

Enterprise をご利用の場合は、ライセンス発行サイト*1 でライセンス認証を行ってください。

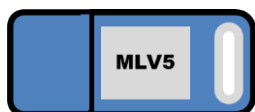
Plus、Standard、Lite をご利用の場合は、ハードウェアキー (HASP) *2 を PC に接続してください。

*1 ライセンス発行サイト

https://license.sato.co.jp/mlv5_license/

*2 ハードウェアキー (HASP)

USB 接続で利用するライセンス認証用のキーです。



■プリンタドライバをインストールする

出力するプリンタ機種のプリンタドライバをインストールします。

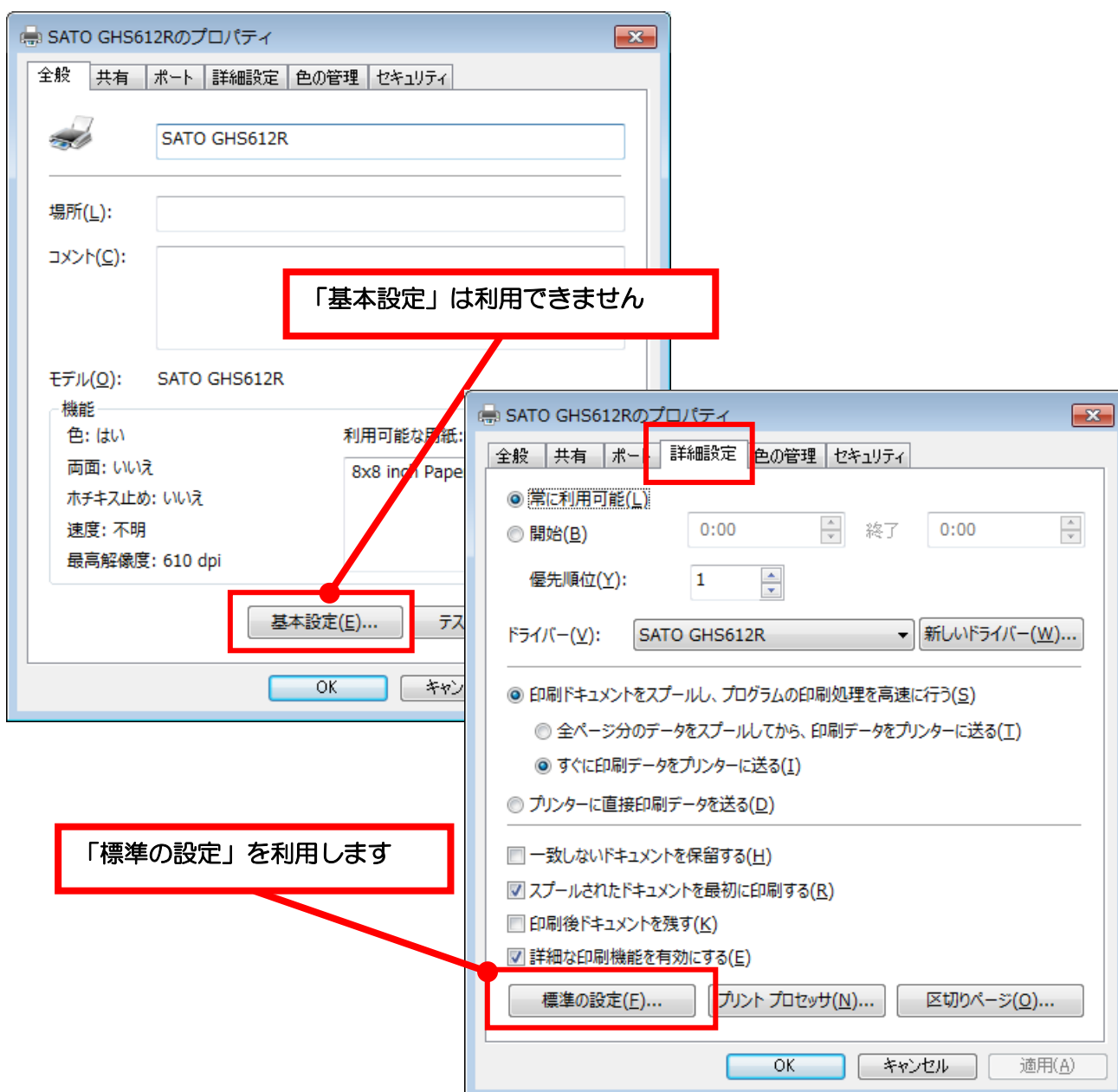
プリンタドライバは、弊社ソフトウェア・ダウンロード・サイトまたは各プリンタメーカーのHP からダウンロードしてください。入手先が不明な場合は、弊社販売代理店までお問合せください。

- ・ ソフトウェア・ダウンロード・サイト

<http://www.sato.co.jp/download/manual/>

カラープリンタを利用する場合、プリンタドライバの設定はプリンタのプロパティの「標準の設定」で行ってください。フォルダ監視発行は Windows サービスとして特別な権限で動作するため、PC にログイン中のユーザアカウントの設定は利用されません。

例：SATO GHS612R の場合



■データファイル（発行データ）について

データファイルの形式や入力項目とデータフィールドの紐付けは、レイアウトファイルの「[ファイル形式設定](#)」で行います。



ファイル形式設定

ファイル種類（固定長・可変長、桁数・項目数）

フィールド定義

（レイアウトの入力項目とファイルのフィールド紐付け）

発行のキーとなるデータファイルには、ラベルに印字する内容の他に、レイアウトファイルや出力先（プリンタドライバ）、カット動作を指定することが可能です。

項目	区分	設定方法
印字データ	必須	品名や品番などラベル・タグに印字するデータを指定します。 ファイル形式設定
発行枚数	任意	1レコードで1枚発行する場合、データファイルに発行枚数がない場合は、入力項目「発行枚数」を省略して1枚固定で発行することが可能です。 発行枚数が未指定のデータを発行する
レイアウトファイルの指定	任意	一つのデータファイルで複数のレイアウトファイルを切替えて発行する場合に、判別フィールドと判別値を設定して、データを指定します。 レイアウト判別設定
出力先の指定	任意	一つのデータファイルで複数の出力先（プリンタ）を切替えて発行する場合に、判別フィールドと判別値を設定して、データを指定します。 出力先判別設定
カット動作	任意	1レコードに「EjectCut」のみ記述すると、任意のタイミングで排出カットを行うことが可能です。（カラープリンタでは利用できません。） 任意のタイミングでカットする

■監視フォルダ

監視対象のフォルダは、ローカルドライブを指定してください。

ネットワークドライブ、共有フォルダなどは**正常に発行されない場合があるため推奨しません**。

セキュリティソフト*1 でファイルを常時スキャンする機能が有効になっている場合、発行時にデータファイルがロックされて発行ができないことがあります。セキュリティソフトの例外設定で、監視フォルダやフォルダ監視発行のプログラム*2 を例外登録してください。

*1 影響が確認されているセキュリティソフト

- MacAfee VirusScanEnterprise のオンアクセススキャン機能
<https://community.mcafee.com/thread/79610?start=0&tstart=0>
- ESET Smart Security のリアルタイムファイルシステム保護
https://help.eset.com/ess/8/ja-JP/index.html?idh_config_amon.htm
http://eset-support.canon-its.jp/faq/show/168?site_domain=private

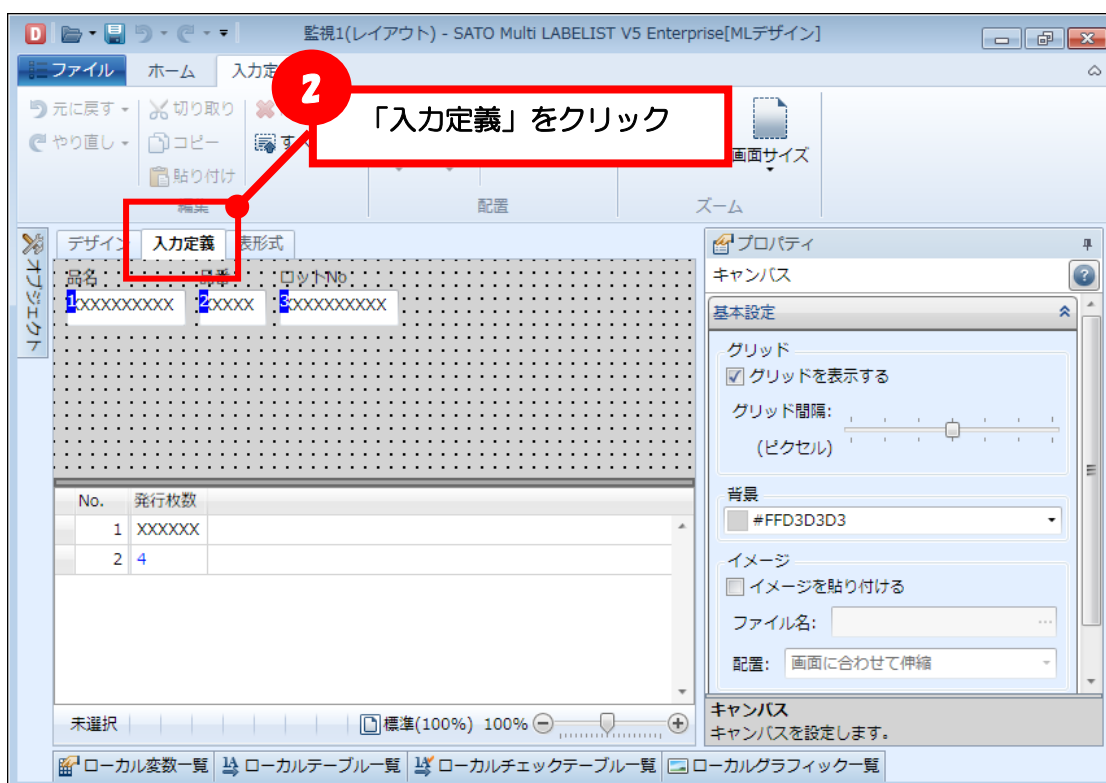
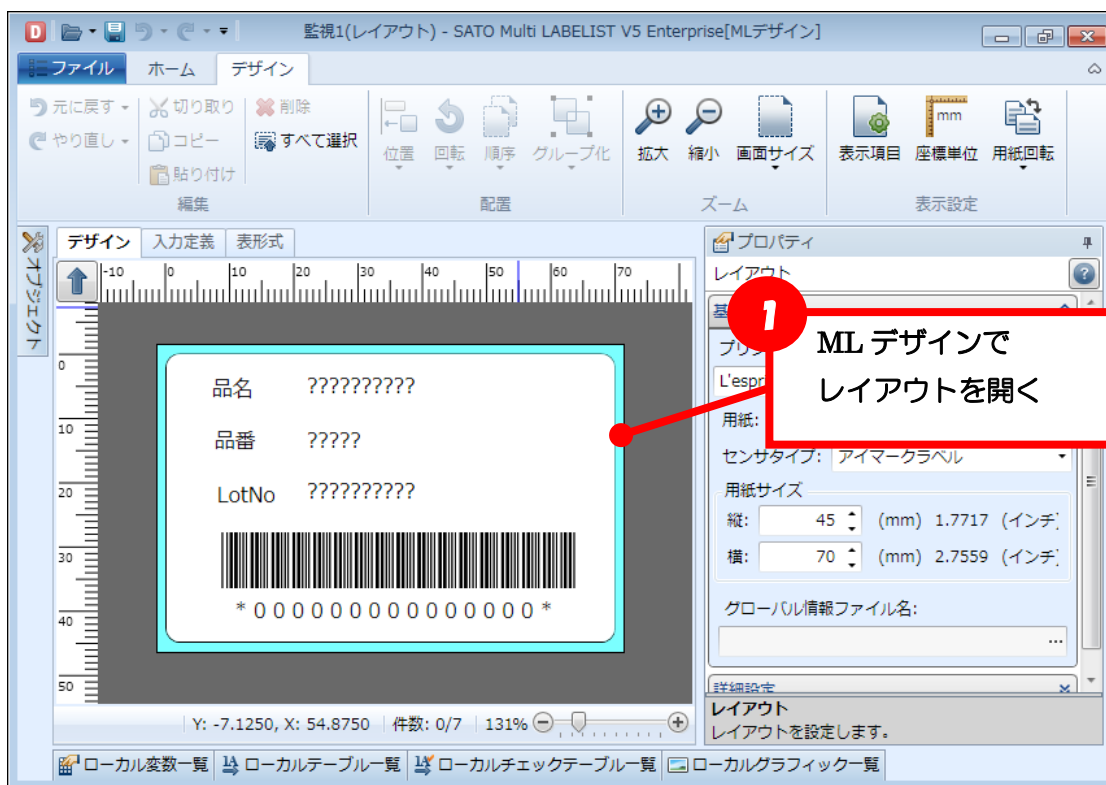
*2 プログラム : C:\Program Files\SATO\MLV5\MLWatch.exe

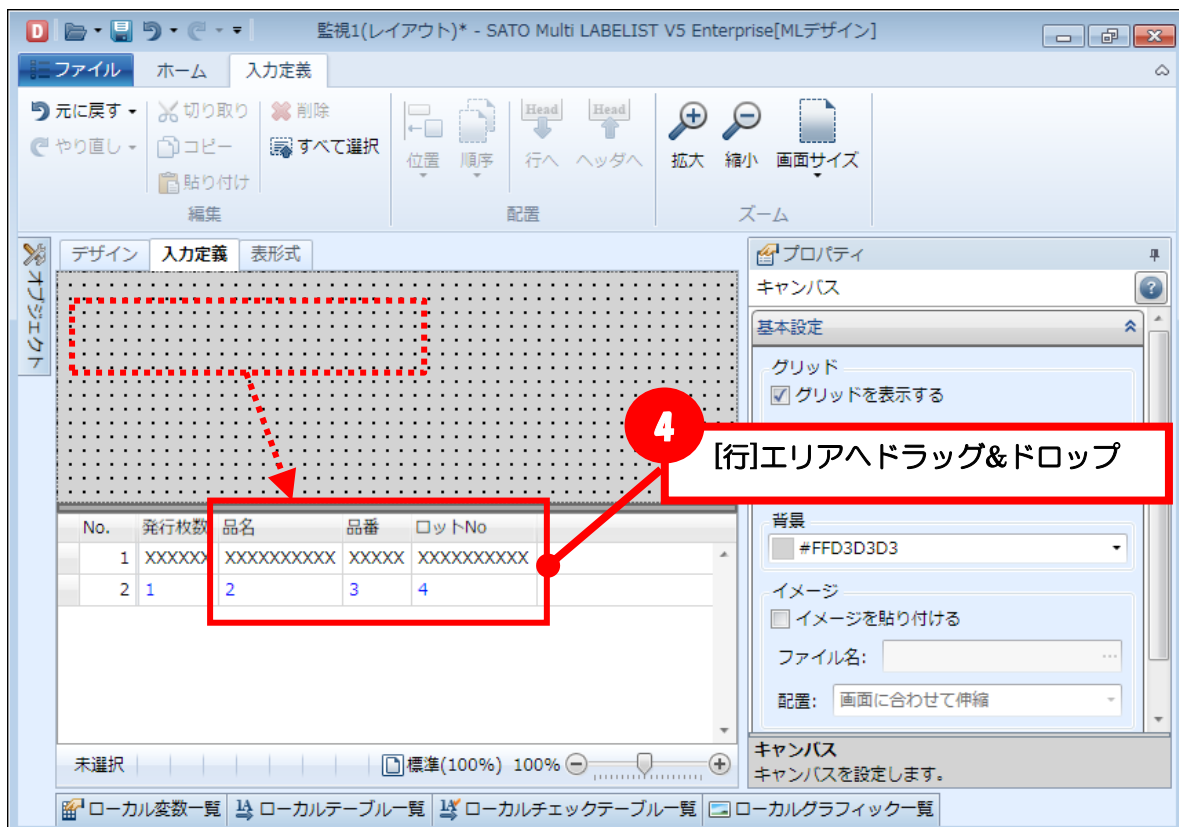
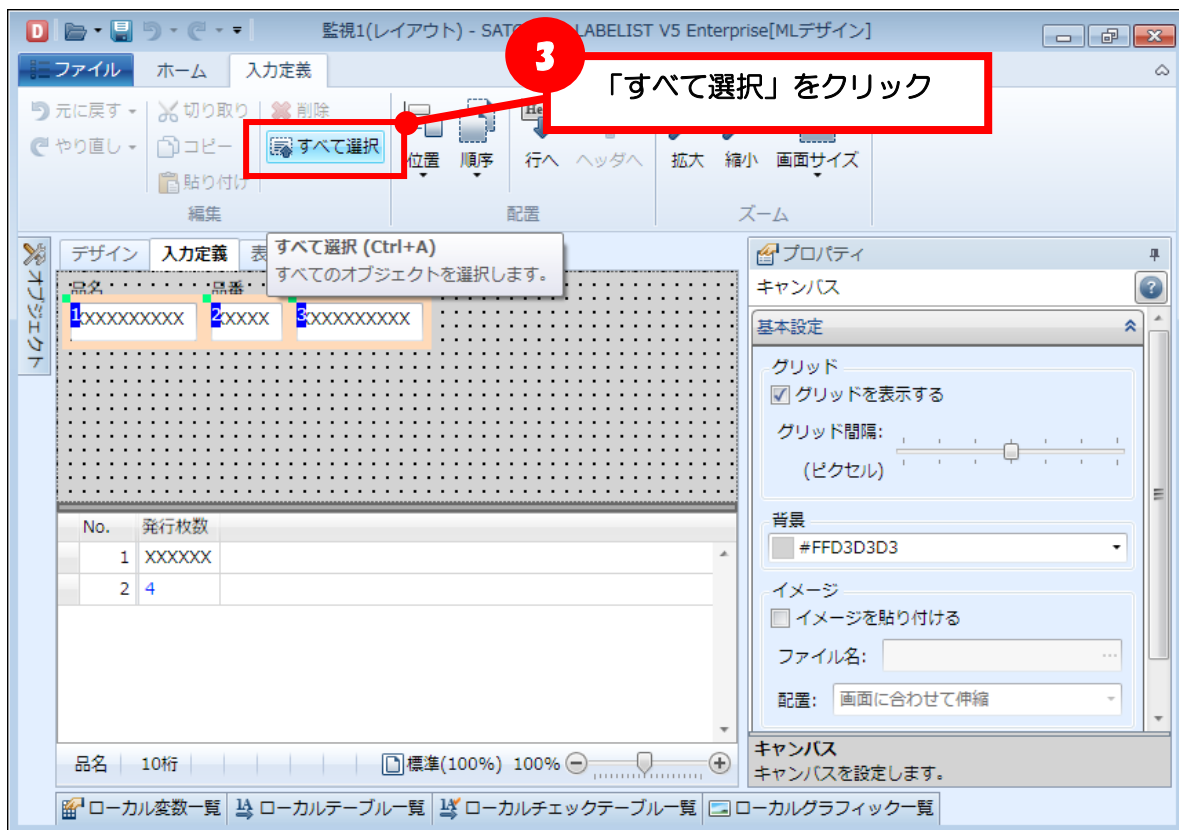
1-3

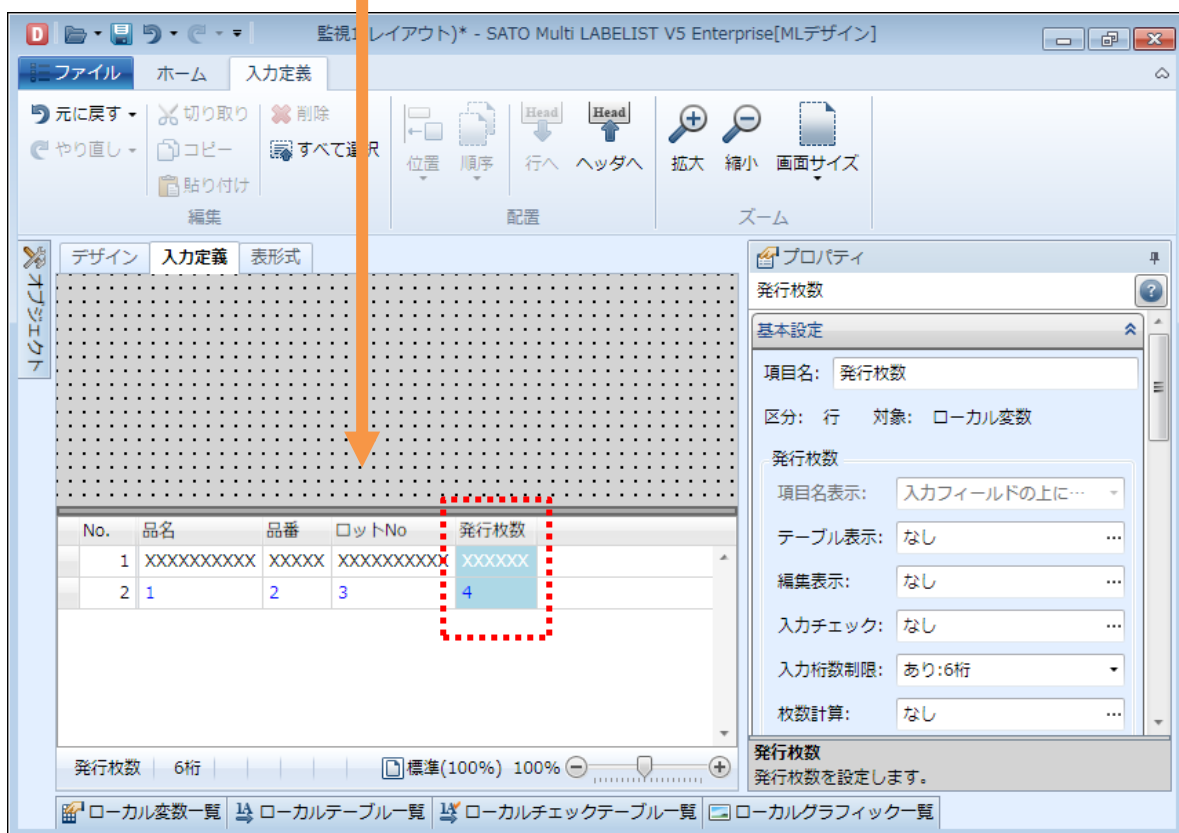
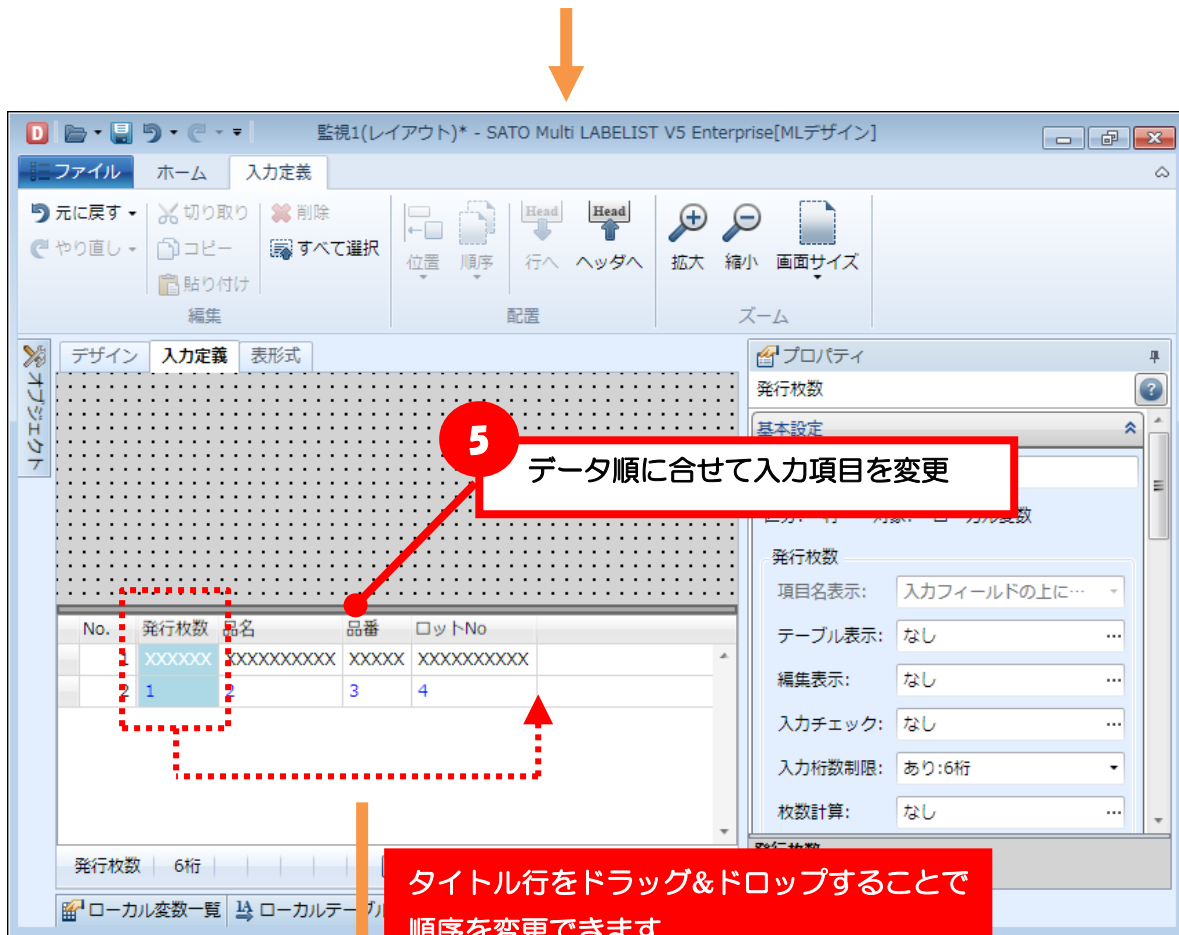
データファイルの形式を設定する

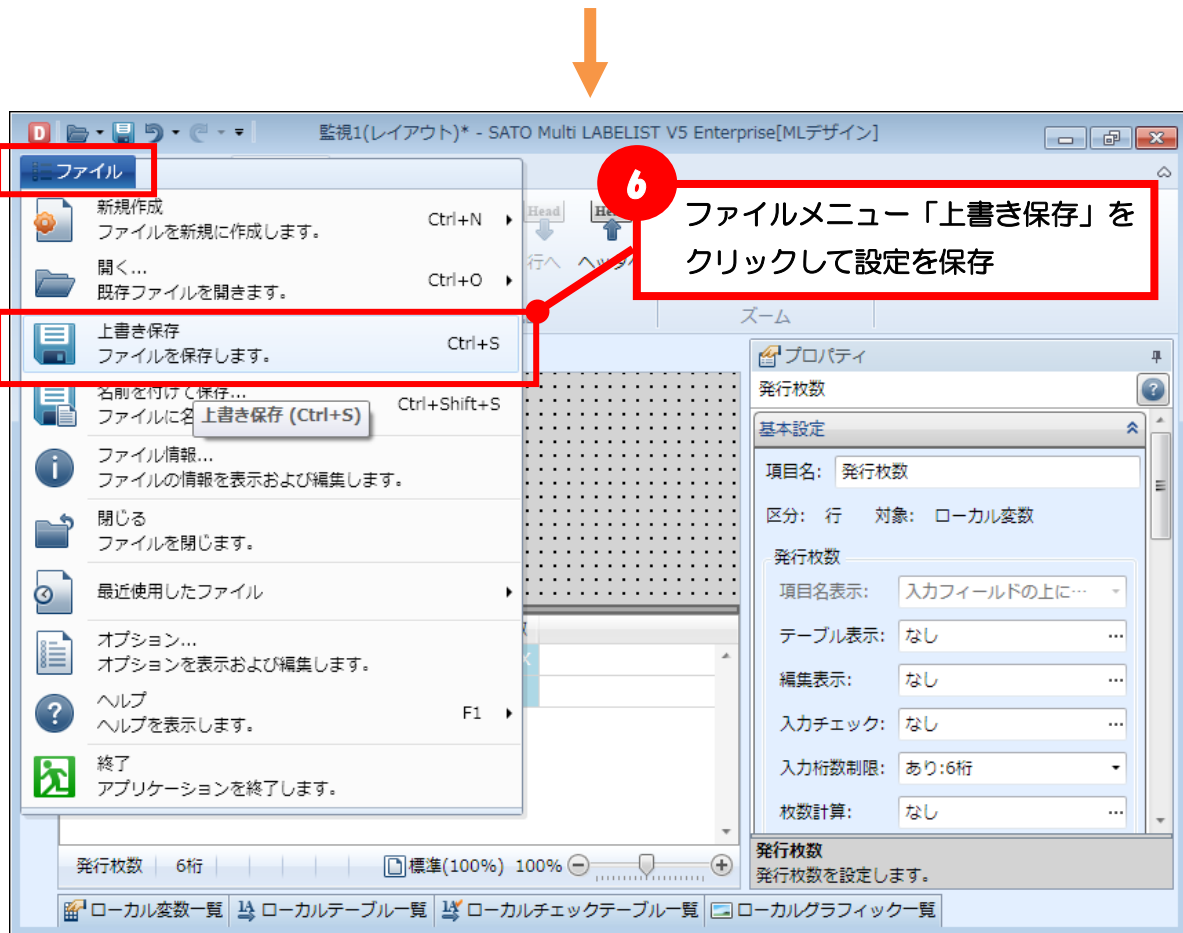
■入力項目の変更 ■ファイル形式設定 ■項目の紐付け

■入力項目をすべて[行]エリアへ変更する

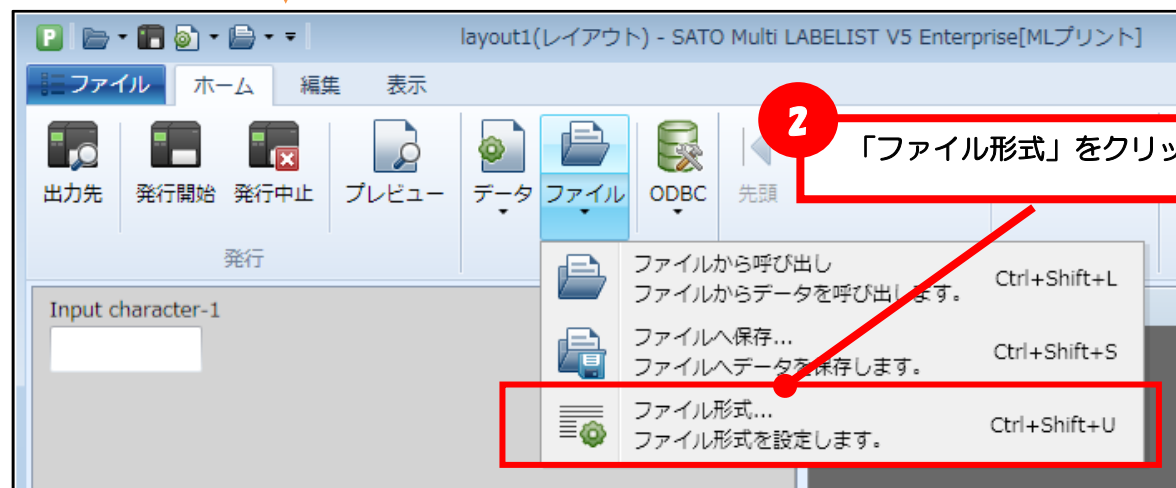
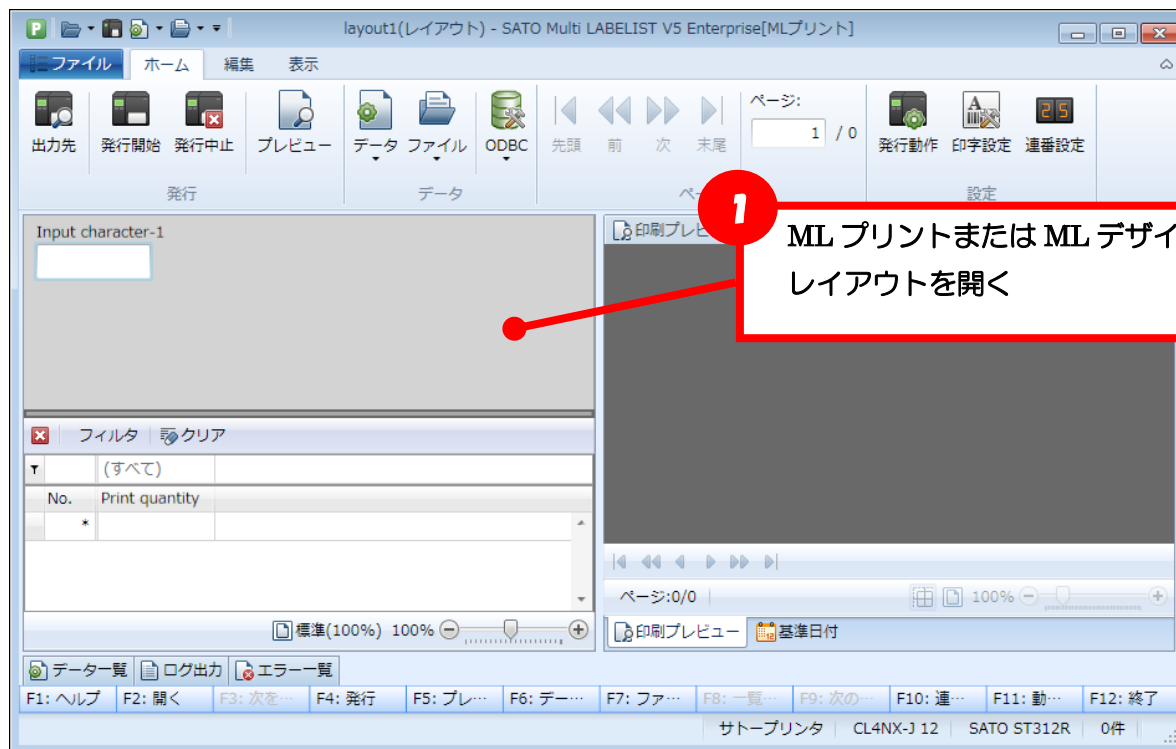


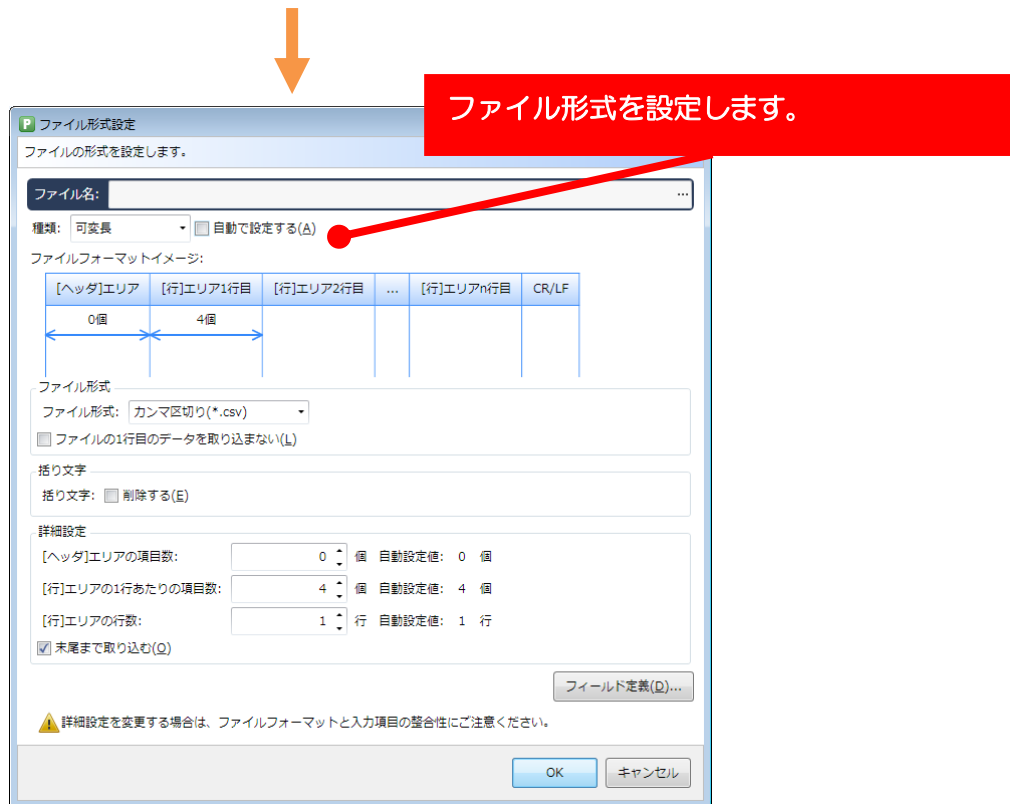






■データファイルの形式を設定する





種類（可変長・固定長）によって設定項目が異なります。

- [可変長ファイルを設定する。](#)
- [固定長ファイルを設定する。](#)

• 可変長ファイル

1 種類「可変長」を選択
「自動で設定する」のチェックをはずす

2 ファイル形式（区切り文字）を選択

3 データファイルの項目数を入力

ファイル形式設定
ファイルの形式を設定します。

ファイル名: _____

種類: 可変長 自動で設定する(A)

ファイルフォーマットイメージ:

[ヘッダ]エリア	[行]エリア1行目	[行]エリア2行目	...	[行]エリアn行目	CR/LF
0個	20個				

ファイル形式
ファイル形式: カンマ区切り(*.csv)

ファイルの1行目のデータを取り込まない(L)

括り文字
括り文字: 削除する(E)

詳細設定

[ヘッダ]エリアの項目数: 0 個 自動設定値: 0 個

[行]エリアの1行あたりの項目数: 20 個 自動設定値: 4 個

[行]エリアの行数: 1 行 自動設定値: 1 行

末尾まで取り込む(Q)

フィールド定義(D)...

⚠ 詳細設定を変更する場合は、ファイルフォーマットと入力項目の整合性にご注意ください。

OK キャンセル

- ! ファイルに項目名のタイトル行が存在する
「ファイルの1行目のデータを取り込まない」をチェックします。

ファイル形式
ファイル形式: カンマ区切り(*.csv)

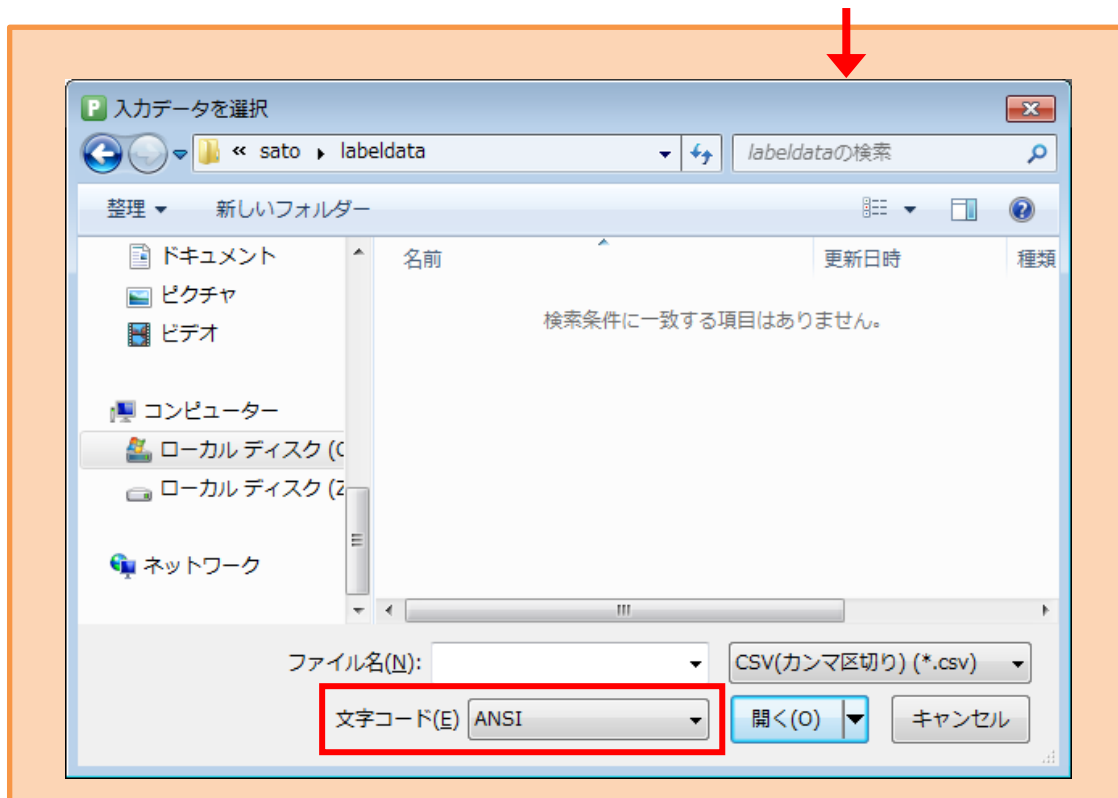
ファイルの1行目のデータを取り込まない(L)

- ! 各項目に括り文字が使用されている
括り文字の「削除する」をチェックし、括り文字を指定します。

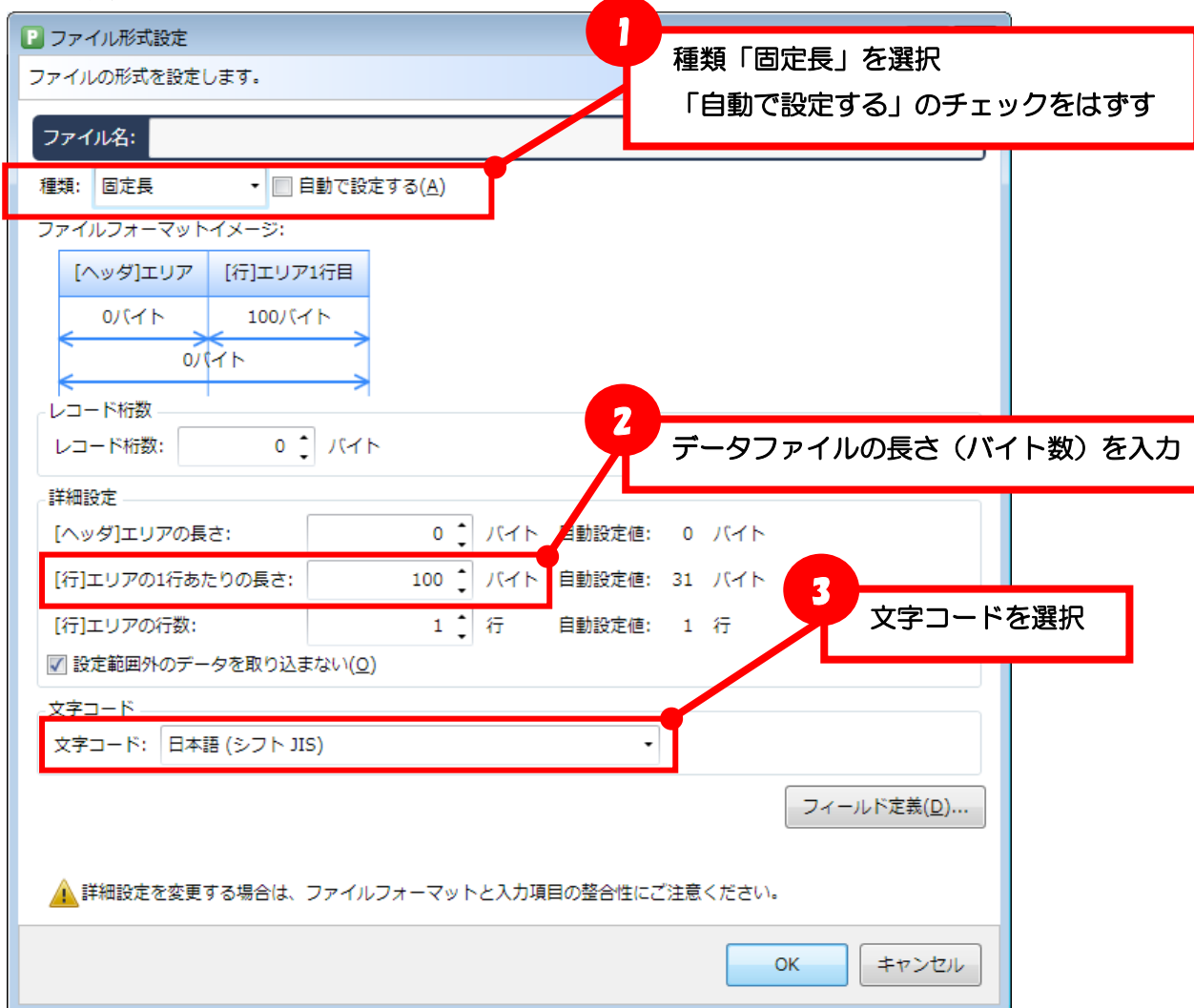
括り文字
括り文字: 削除する(E) 括り文字: "

- ! ファイルの文字コードが Shift-JIS または BOM が付加されていない Unicode データファイルを取込んで文字コードを指定します。

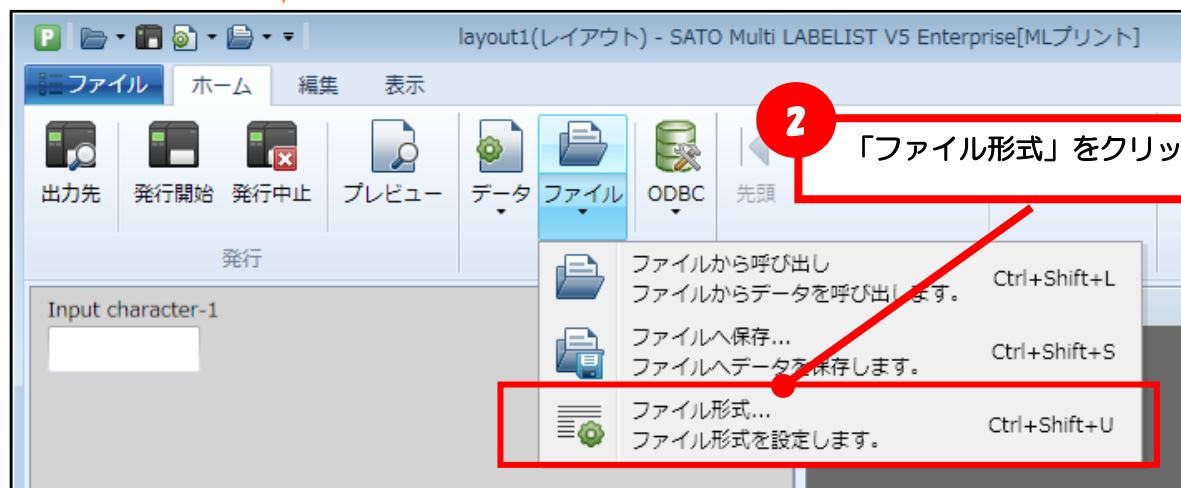
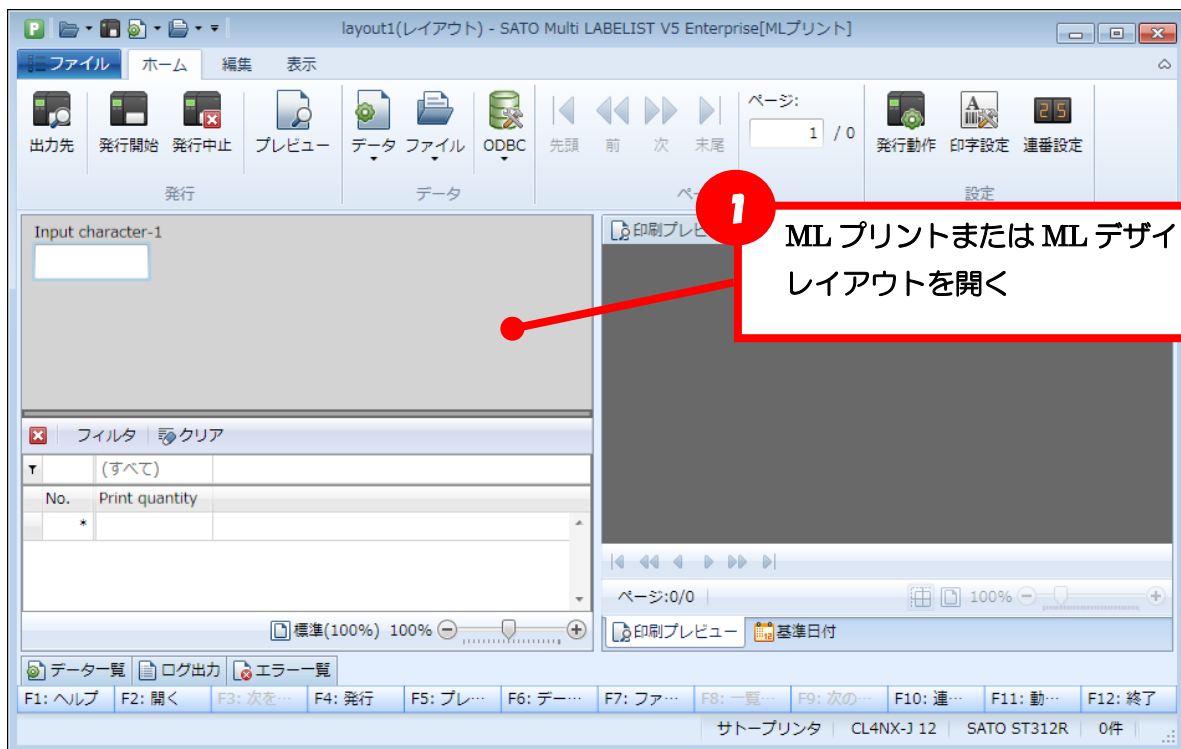
ファイル名: _____

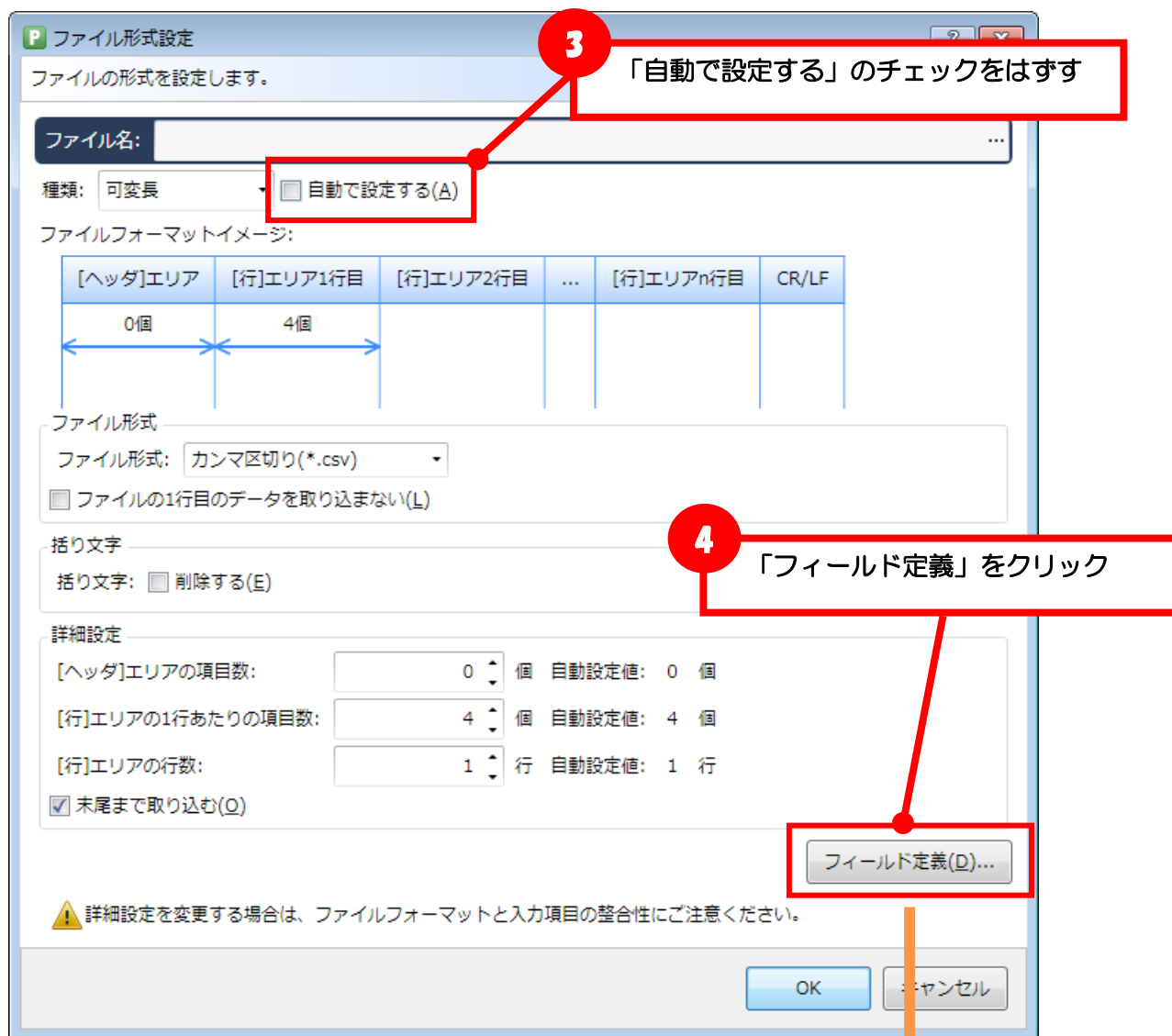


・固定長ファイル



■データファイルとレイアウトファイルを紐付ける





可変長ファイルフィールド定義

可変長ファイルのフィールド定義を設定します。

ファイル名:

No.	区分	入力項目	項目番号	詳細
1	行	品名	1	設定範囲:0~4
2	行	品番	2	設定範囲:0~4
3	行	ロットNo	3	設定範囲:0~4
4	行	発行枚数	4	設定範囲:0~4

5 入力項目に紐付けるファイル項目を指定
可変長の場合は、項目番号
固定長の場合は、開始・終了位置

No.	区分	入力項目	開始位置(バイト)	終了位置(バイト)	詳細
1	行	品名	1	10	設定範囲:0~31
2	行	品番	11	15	設定範囲:0~31
3	行	ロットNo	16	25	設定範囲:0~31
4	行	発行枚数	26	31	設定範囲:0~31

6 「OK」をクリック

OK キャンセル



設定範囲が足りない？

設定範囲は、入力項目の項目数・桁数で自動設定されています。ファイル形式設定の詳細設定で変更できます。

可変長は「1行あたりの項目数」

詳細設定

[ヘッダ]エリアの項目数: 個 自動設定値: 0 個

[行]エリアの1行あたりの項目数: 個 自動設定値: 4 個

[行]エリアの行数: 行 自動設定値: 1 行

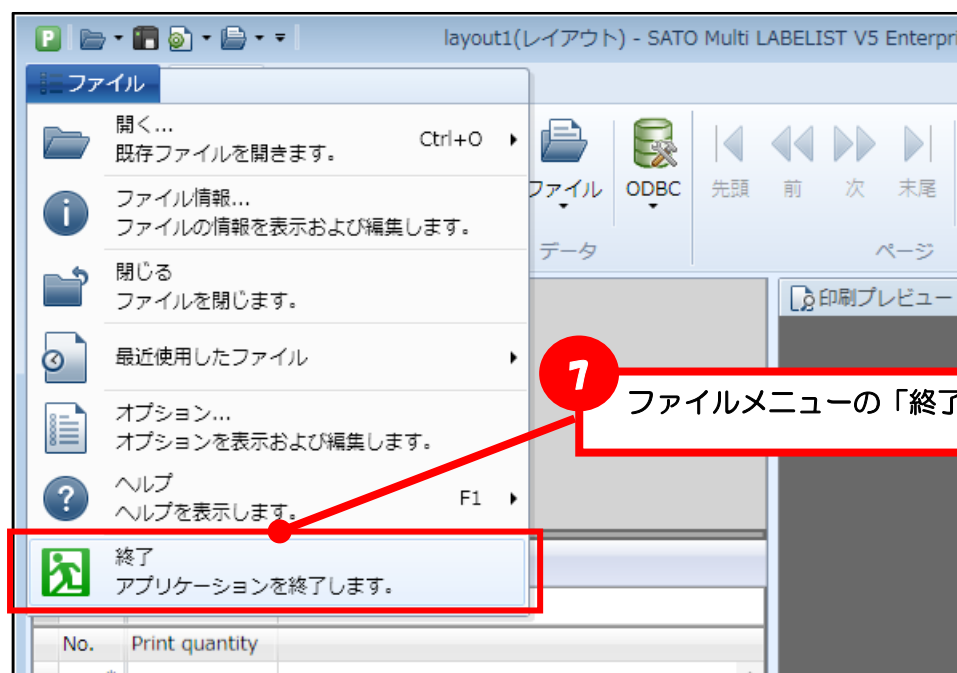
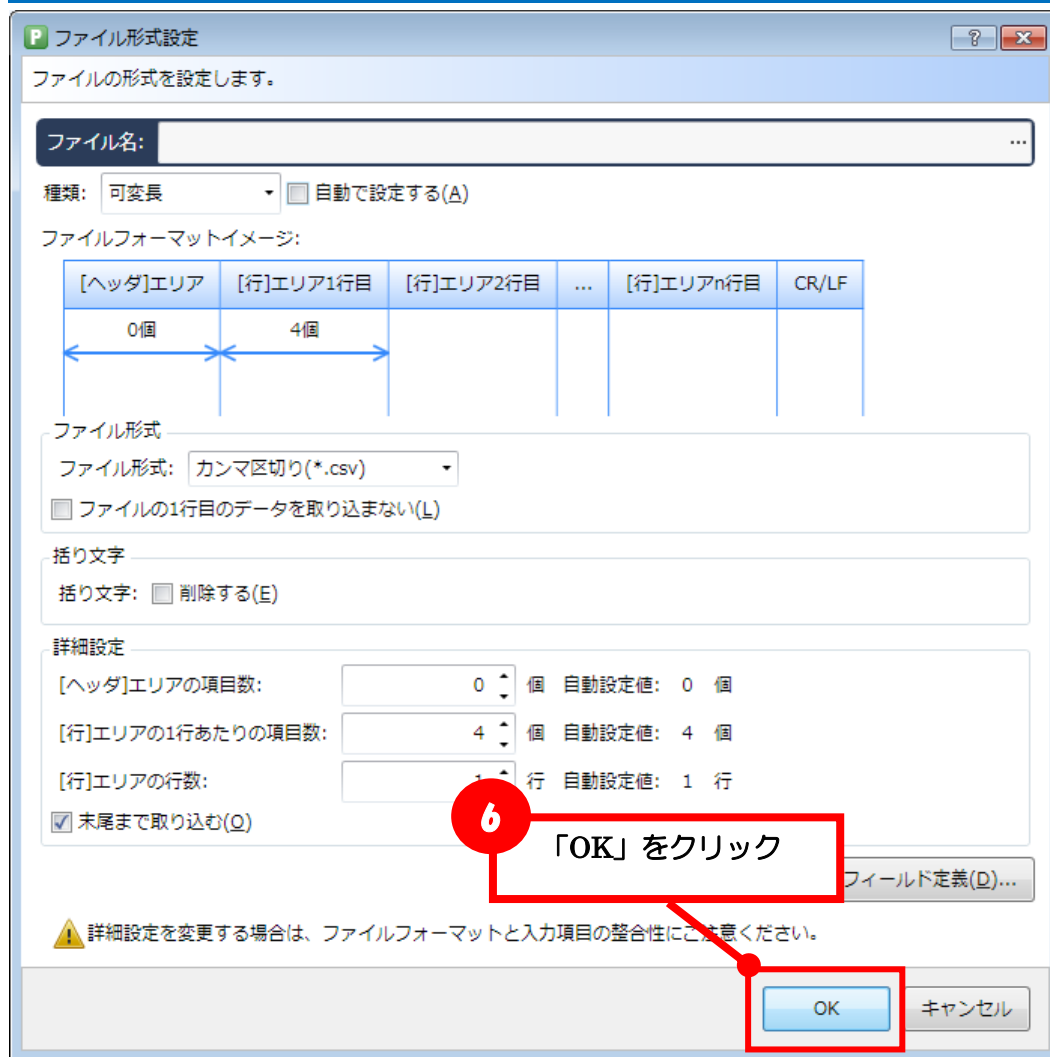
固定長は「1行あたりの長さ」

詳細設定

[ヘッダ]エリアの長さ: バイト 自動設定値: 0 バイト

[行]エリアの1行あたりの長さ: バイト 自動設定値: 31 バイト

[行]エリアの行数: 行 自動設定値: 1 行

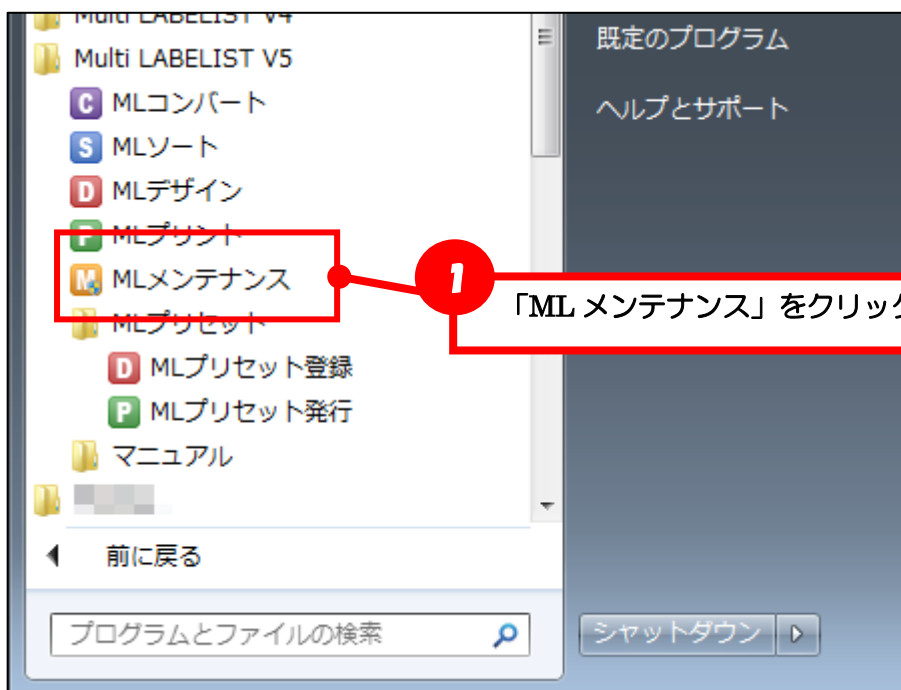


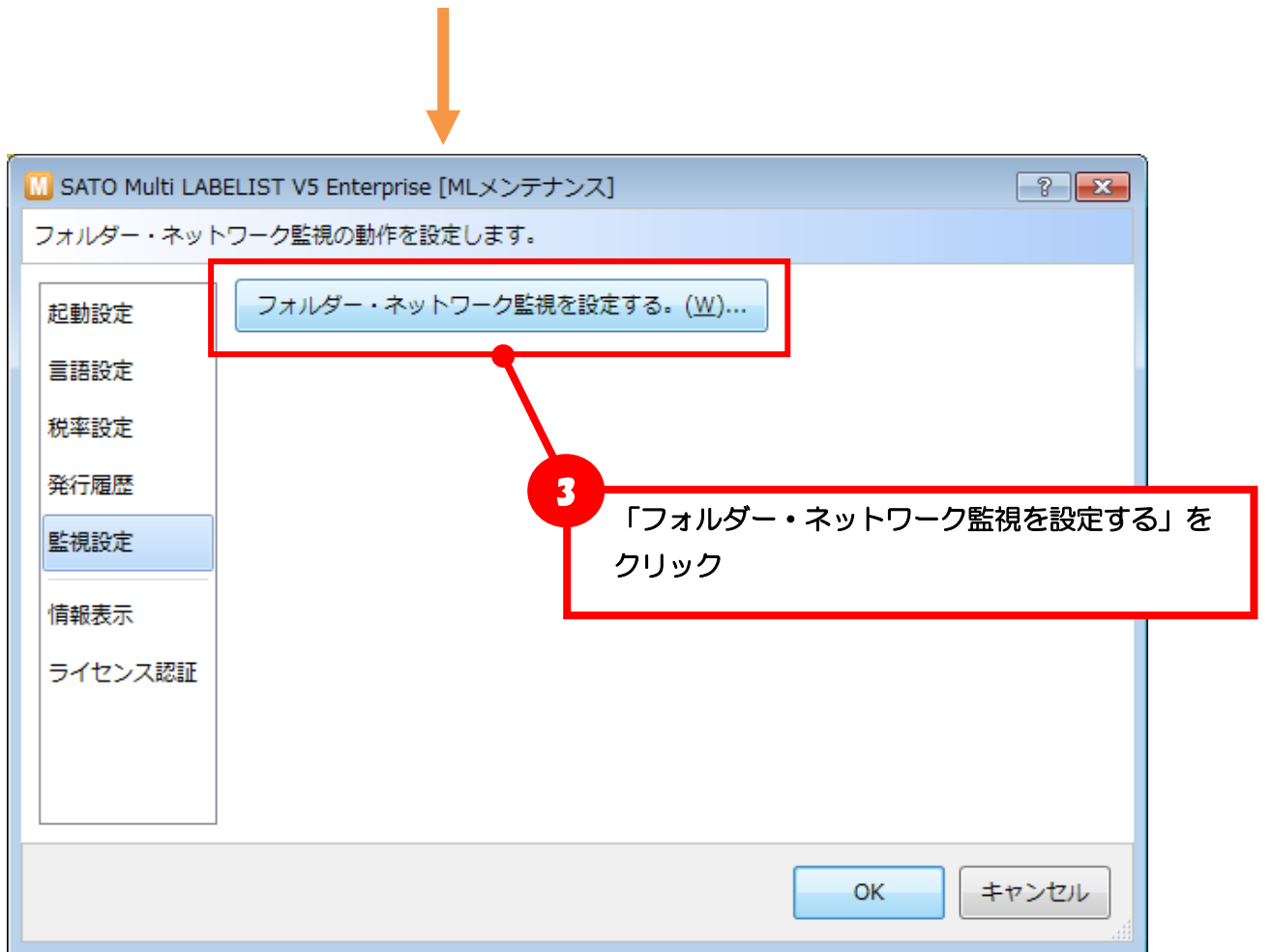
1-4

フォルダ監視発行を設定する

- [設定ツール](#)
- [監視周期](#)
- [インポート・エクスポート](#)

■ 設定ツールを表示する

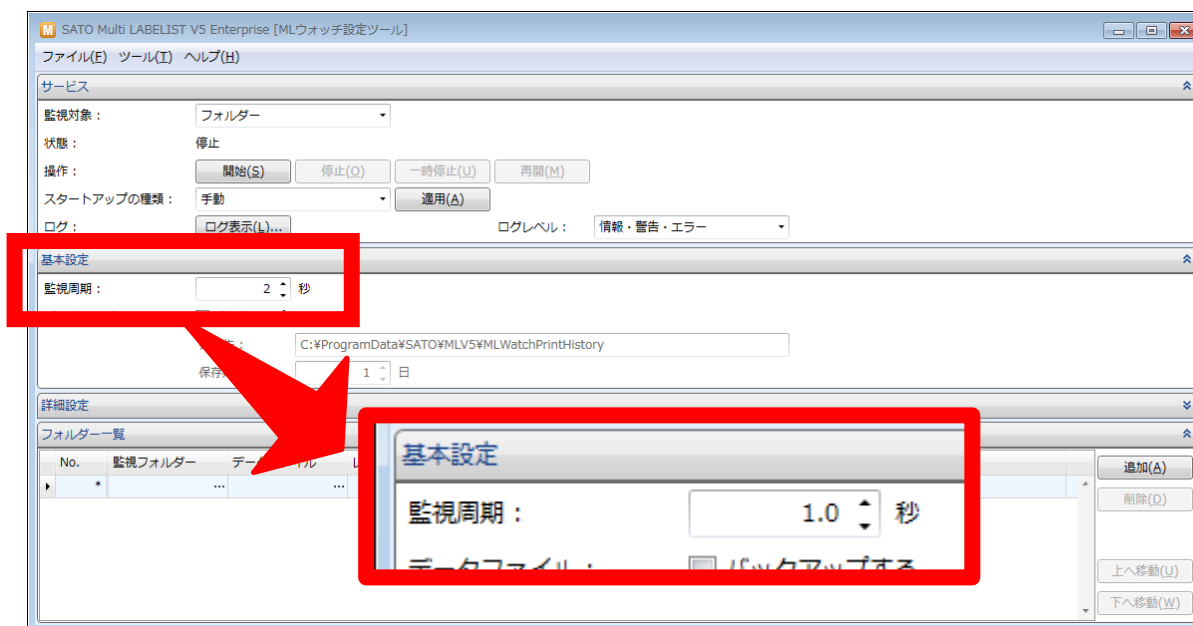




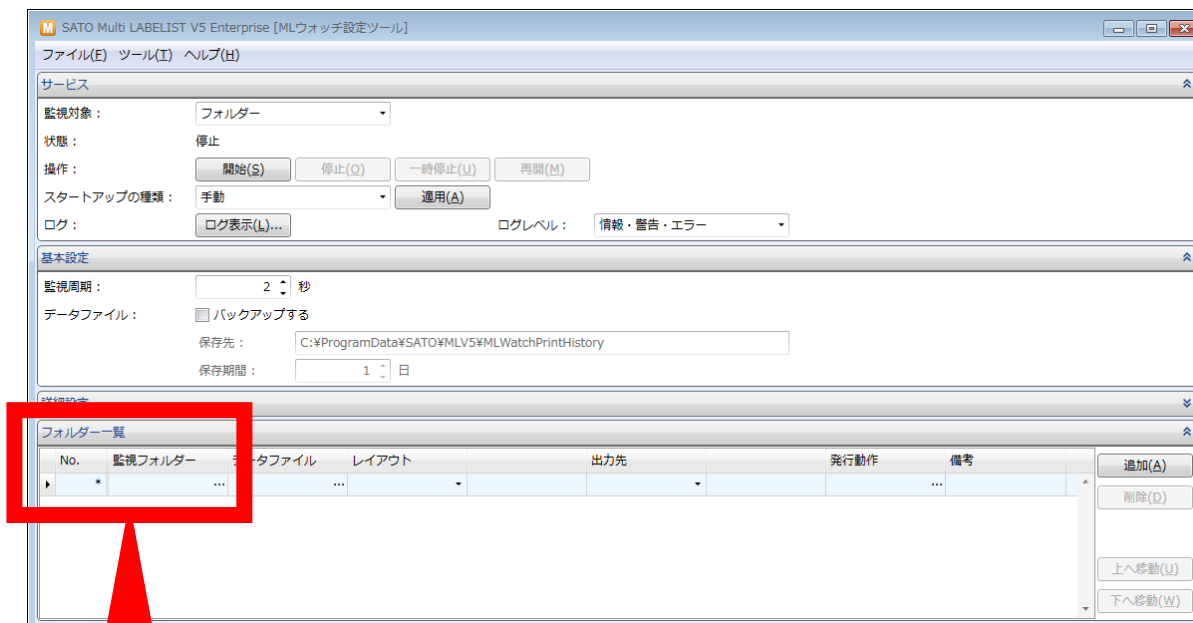
■フォルダ監視の周期を変更する

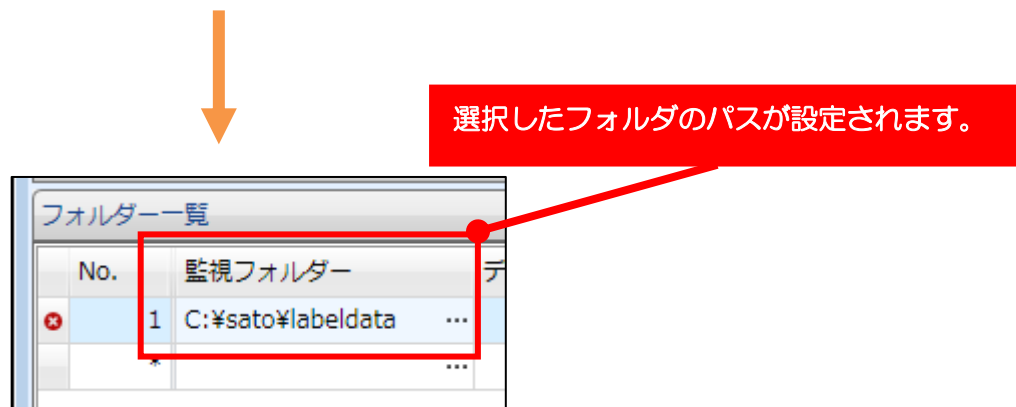
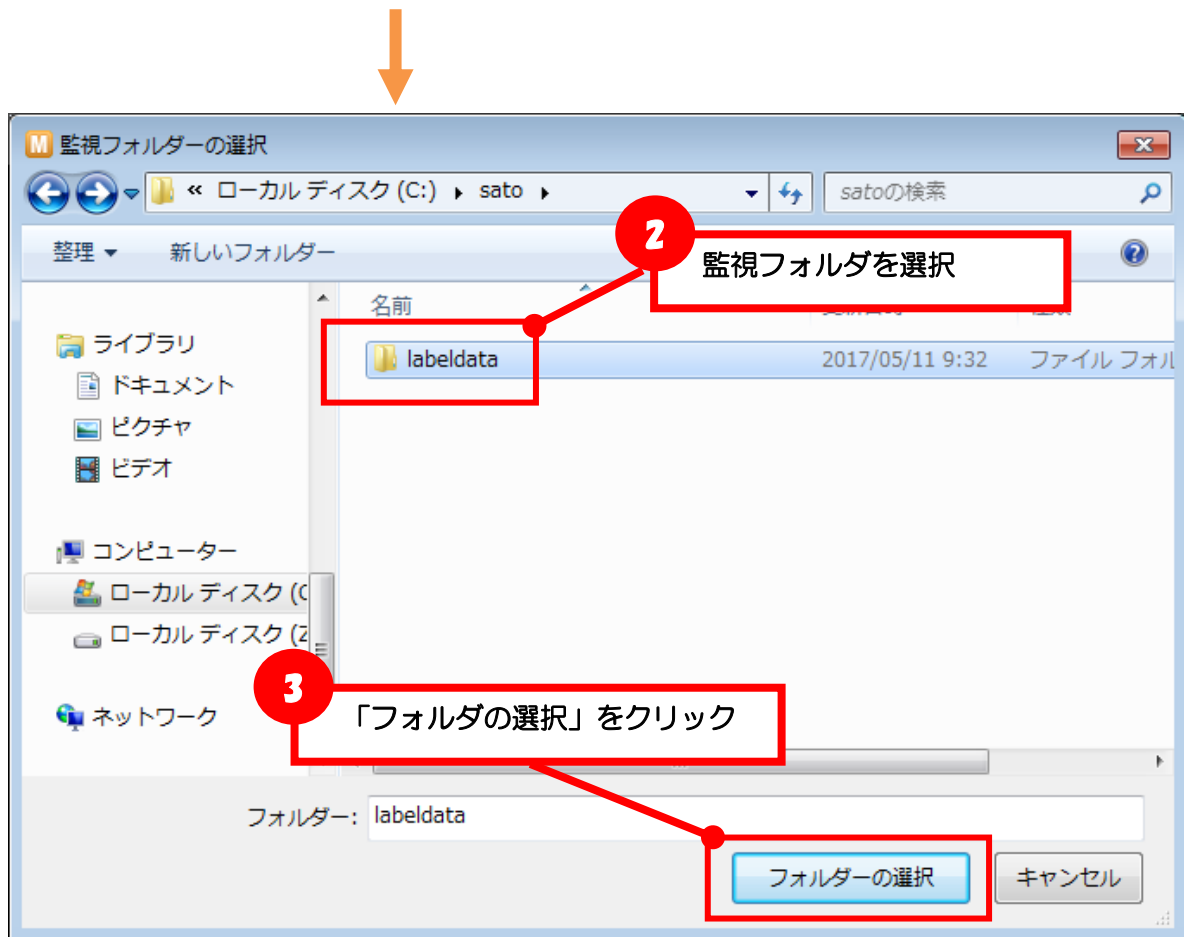
監視フォルダを監視する周期を 0.1 秒単位で指定できます。最大 60 秒まで設定可能です。

1 秒未満に設定すると、CPU の使用率が上がりやすくなります。使用するプリンタ台数、一度に発行する枚数に応じて調整してください。



■監視フォルダを指定する

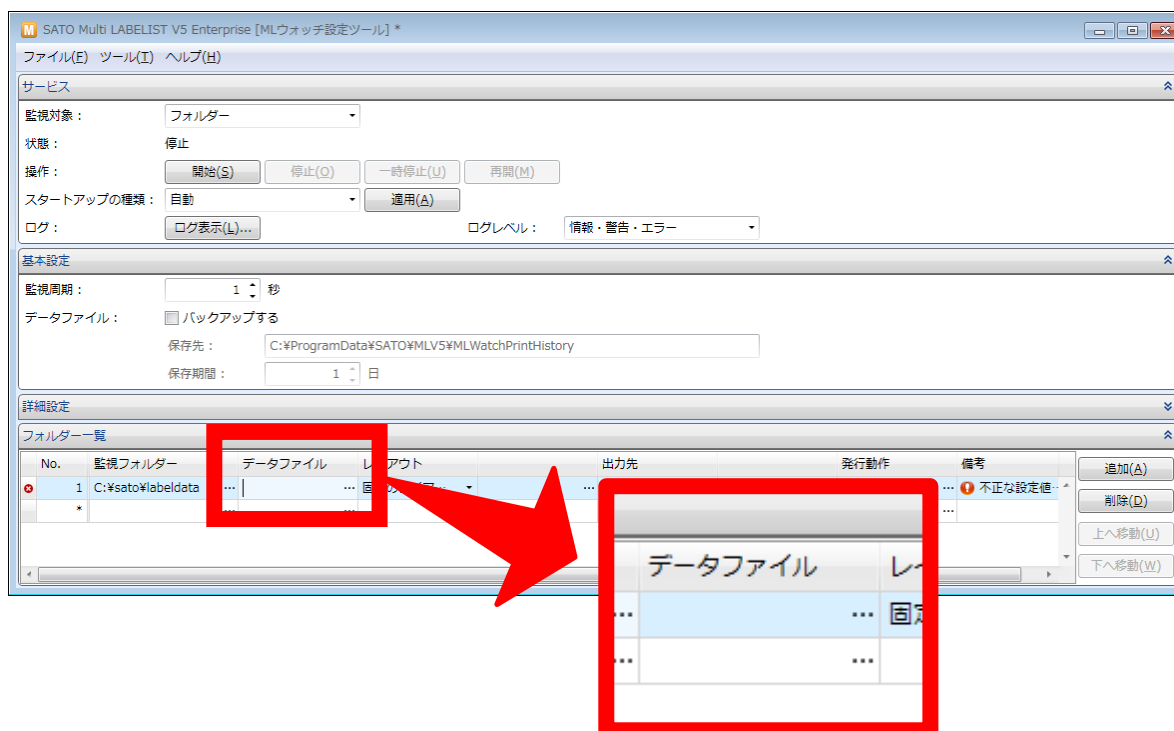




■データファイルを指定する

データファイルのファイル名と拡張子を入力します。

「data.csv」や「label.txt」など固定値に加えて、ワイルドカードを使用して複数のファイルを対象にすることが可能です。



・ワイルドカード

文字	機能
?	文字列の位置と桁数は明確で、文字の種類が特定できない場合に使用します。
*	文字列の中の位置と桁数が未定、文字の種類が特定できない場合に使用します。

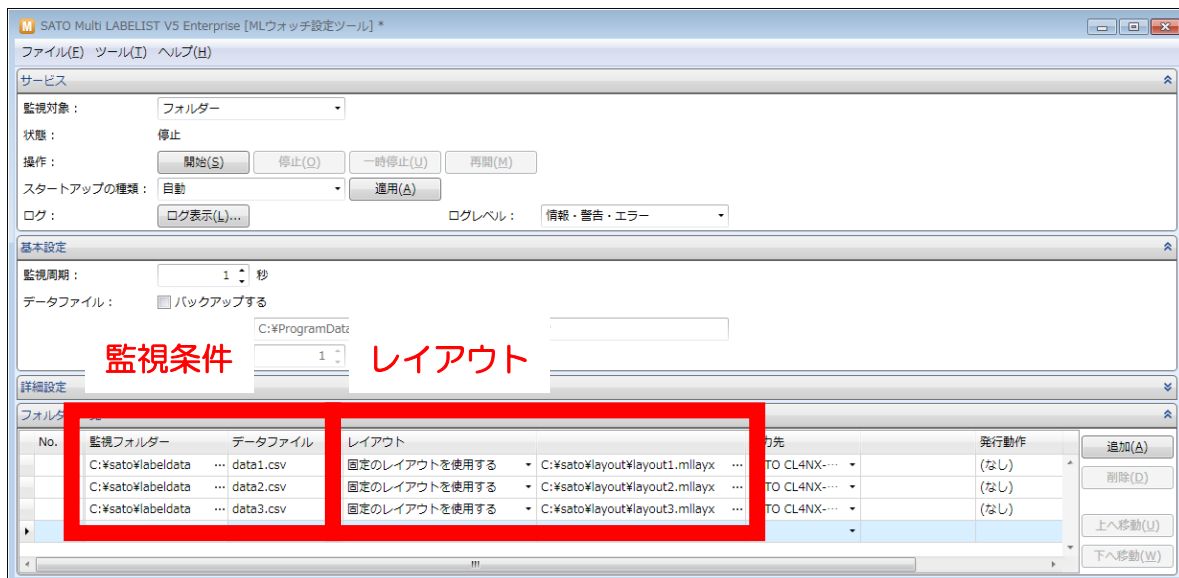
・ワイルドカードの使用例

設定例	説明	対象ファイル名の例
*.csv	拡張子が.csv のファイルすべて	data1.csv、test1.csv など
a-*.txt	ファイル名の先頭が"a-"であり、拡張子が.txt のファイル	a-test.txt、a-001.txt など
data-???.dat	ファイル名が"data-" + 任意の3文字であり、拡張子が.dat のファイル	data-001.dat、
out?????.*	ファイル名が"out" + 任意の4文字であるファイルすべて	data-m83.dat など

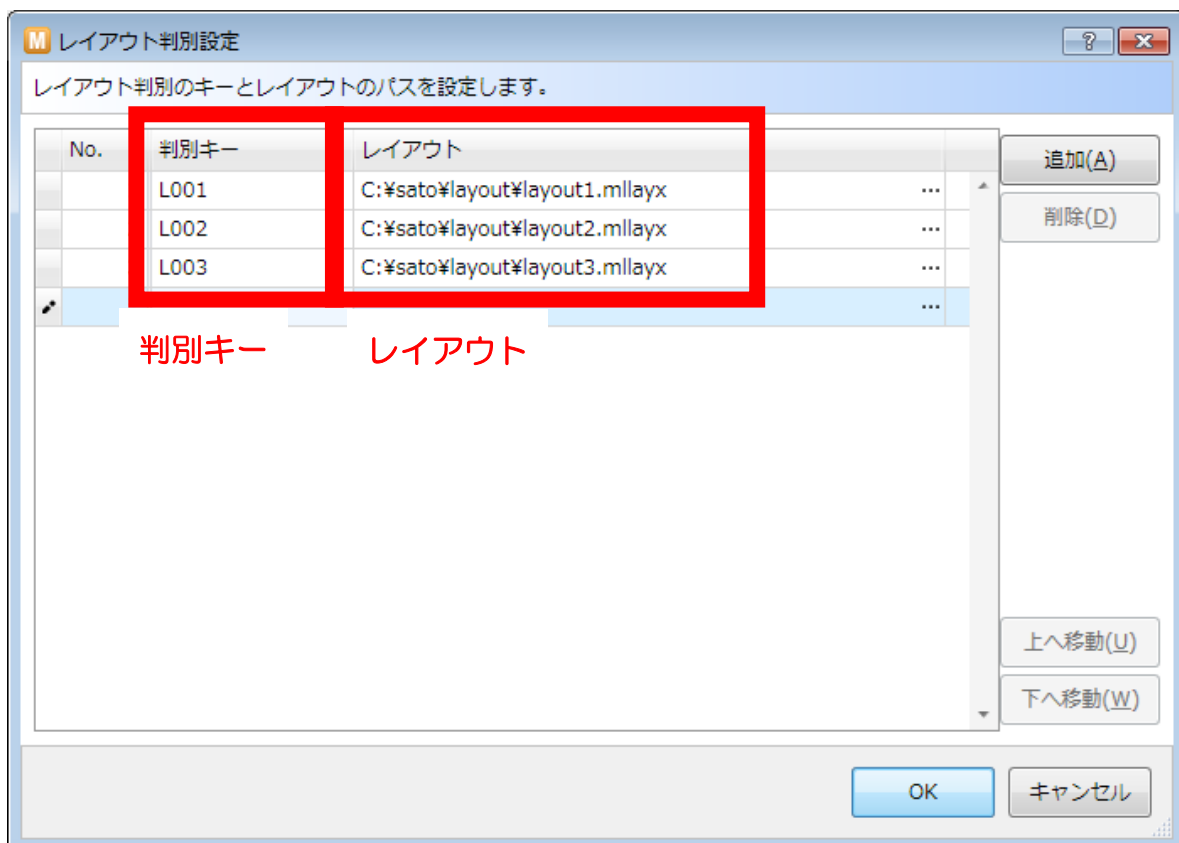
■レイアウトファイルを指定する

発行時に使用するレイアウトファイルは、[監視条件（監視フォルダ・データファイル）](#)で指定する方法と、[データファイルの1レコード毎にデータで指定する方法](#)があります。

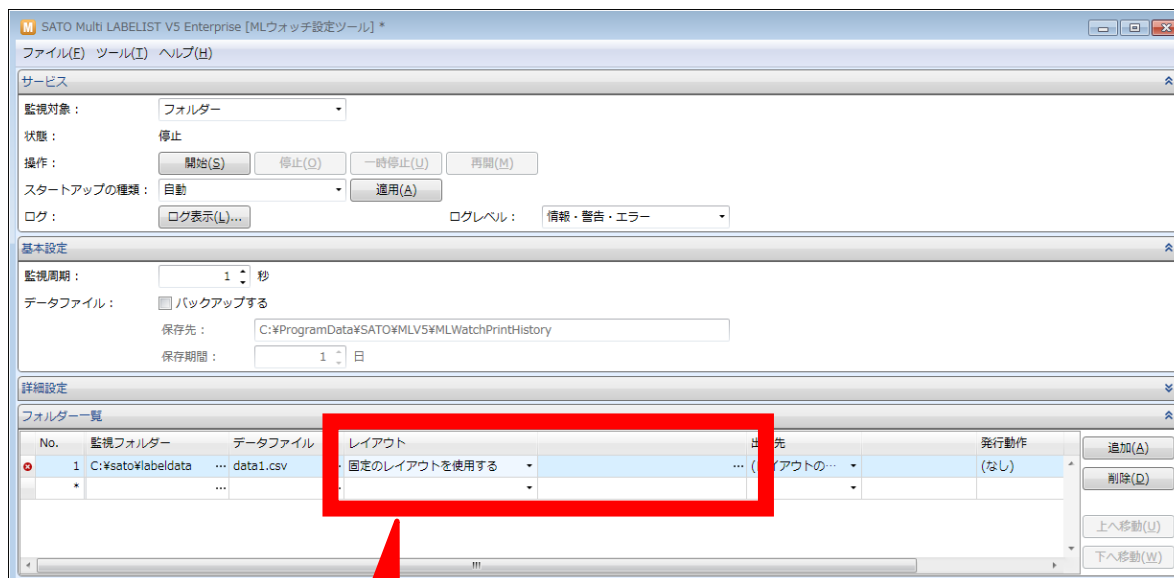
監視条件で指定する場合は、フォルダやデータファイル名に対してレイアウトを紐付けて利用します。



データで指定する場合は、レイアウト判別設定の判別キーに対してレイアウトを紐付けて利用します。

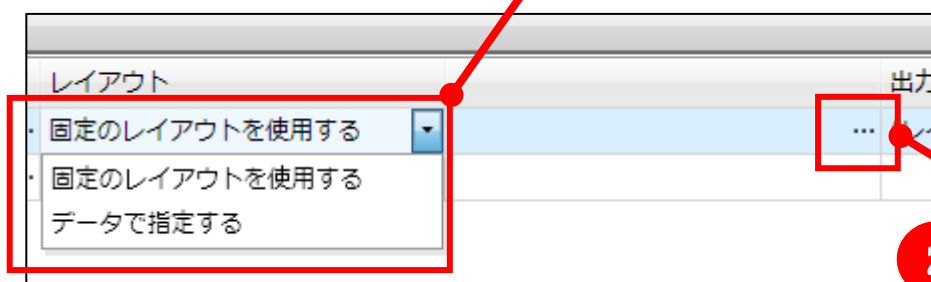


・監視条件でレイアウトを指定する



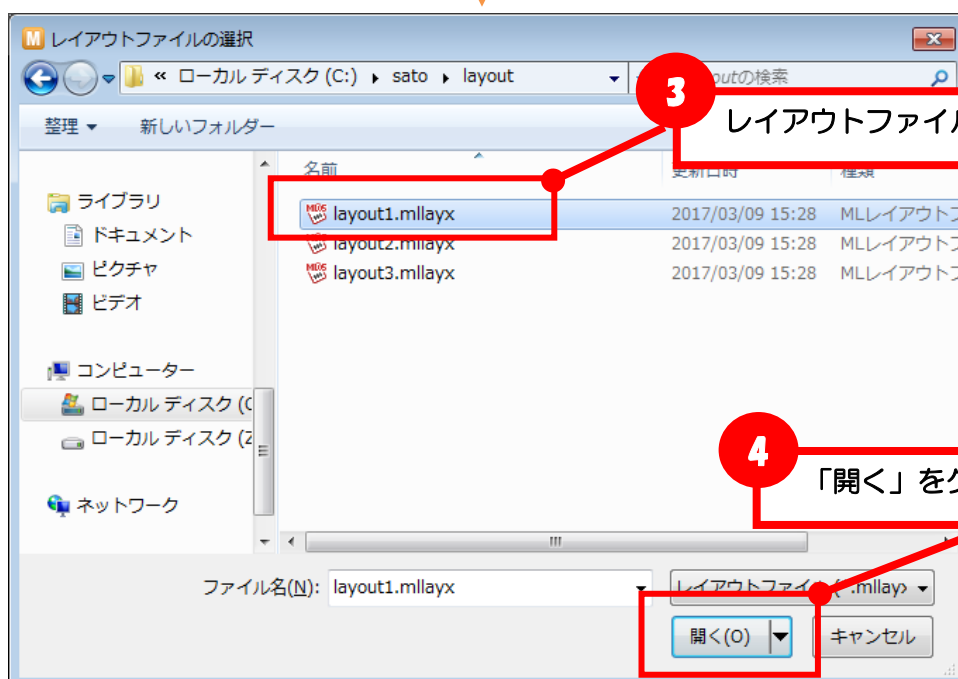
1

「固定のレイアウトを使用する」を選択



2

「…」をクリック



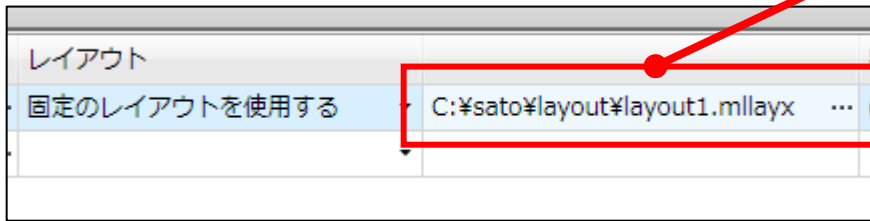
3

レイアウトファイルを選択

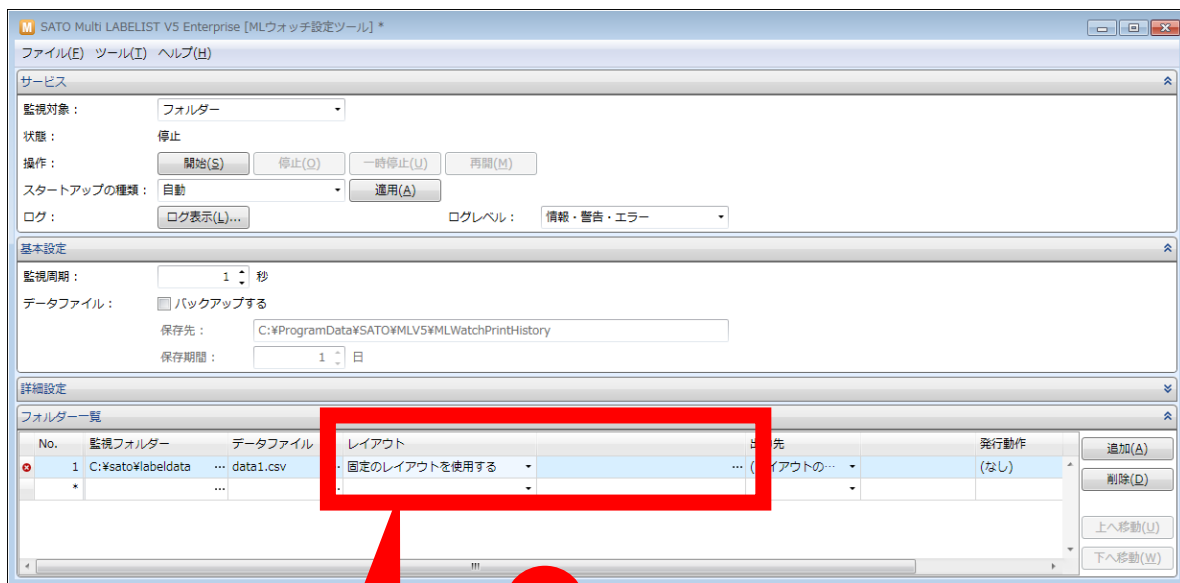
4

「開く」をクリック

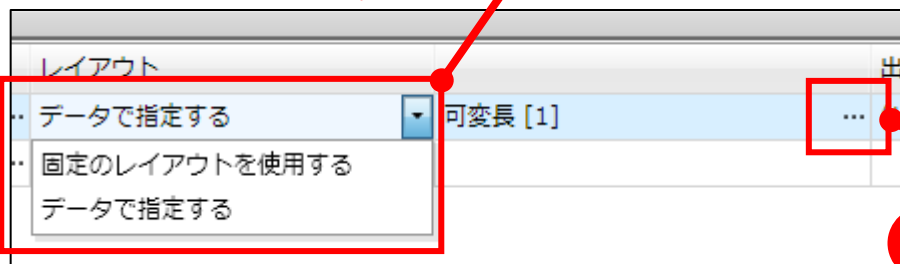
選択したレイアウトファイルのパスが設定されます。



• データでレイアウトを指定する



1 「データで指定する」を選択



2 「…」をクリック

M 判別フィールド設定

データファイルの形式と判別フィールドを設定します。

種類: 可変長

ファイル形式
 ファイル形式: カンマ区切り(*.csv)
 ファイルの1行目のデータを取り込まない(L)

括り文字
 括り文字: 削除する(E)

文字コード
 文字コード: ANSI

レイアウト判別項目
 項目番号: 2

OK キャンセル

3 レイアウト判別キーの項目番号を入力

4 「OK」をクリック

固定長の場合は、
開始位置と終了位置を指定します。

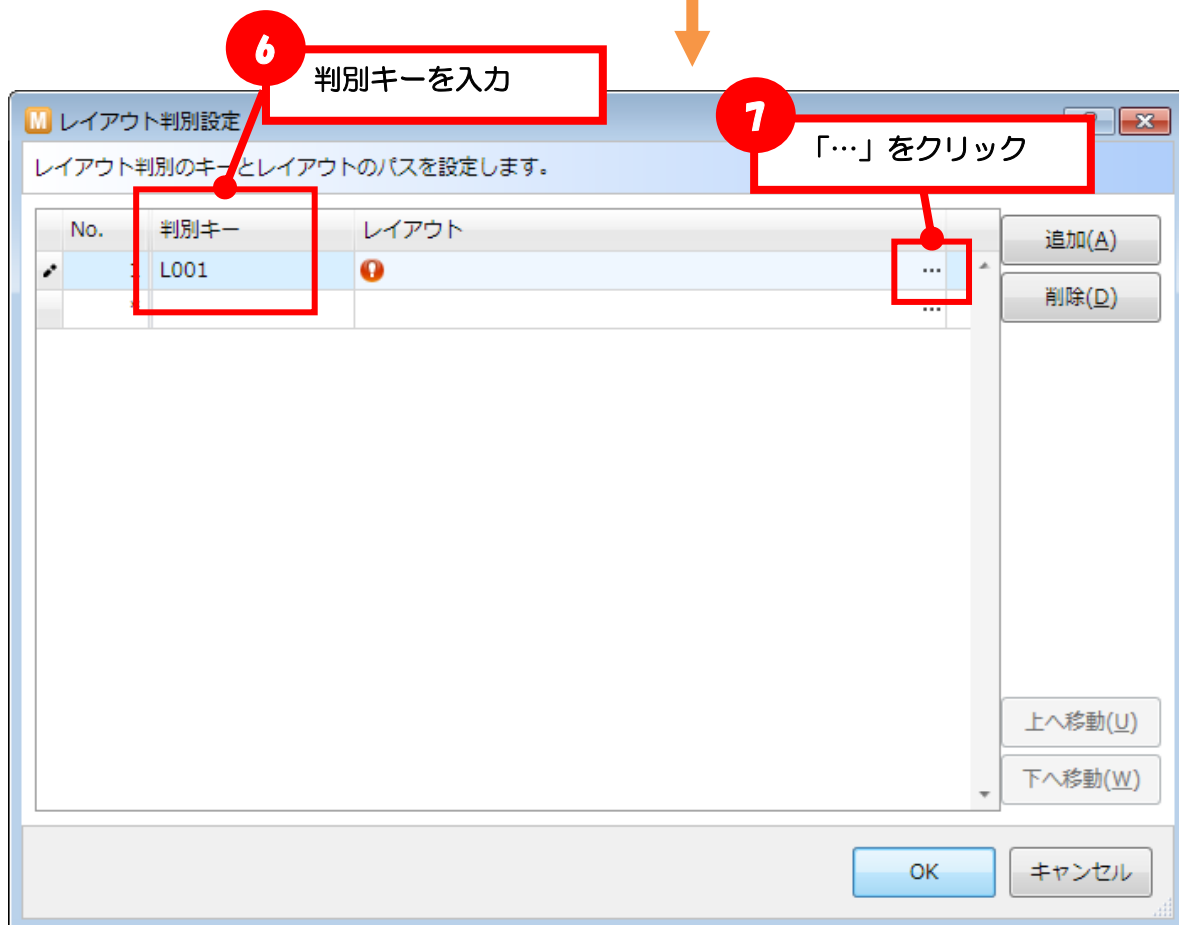
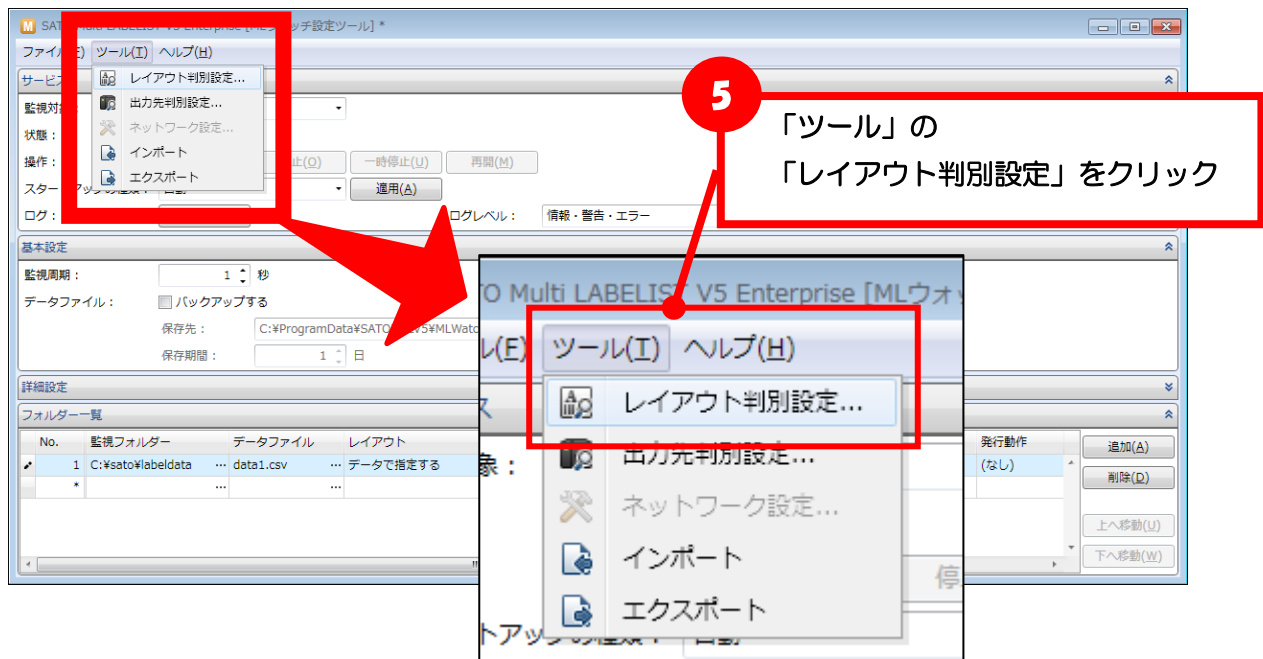
レイアウト判別項目

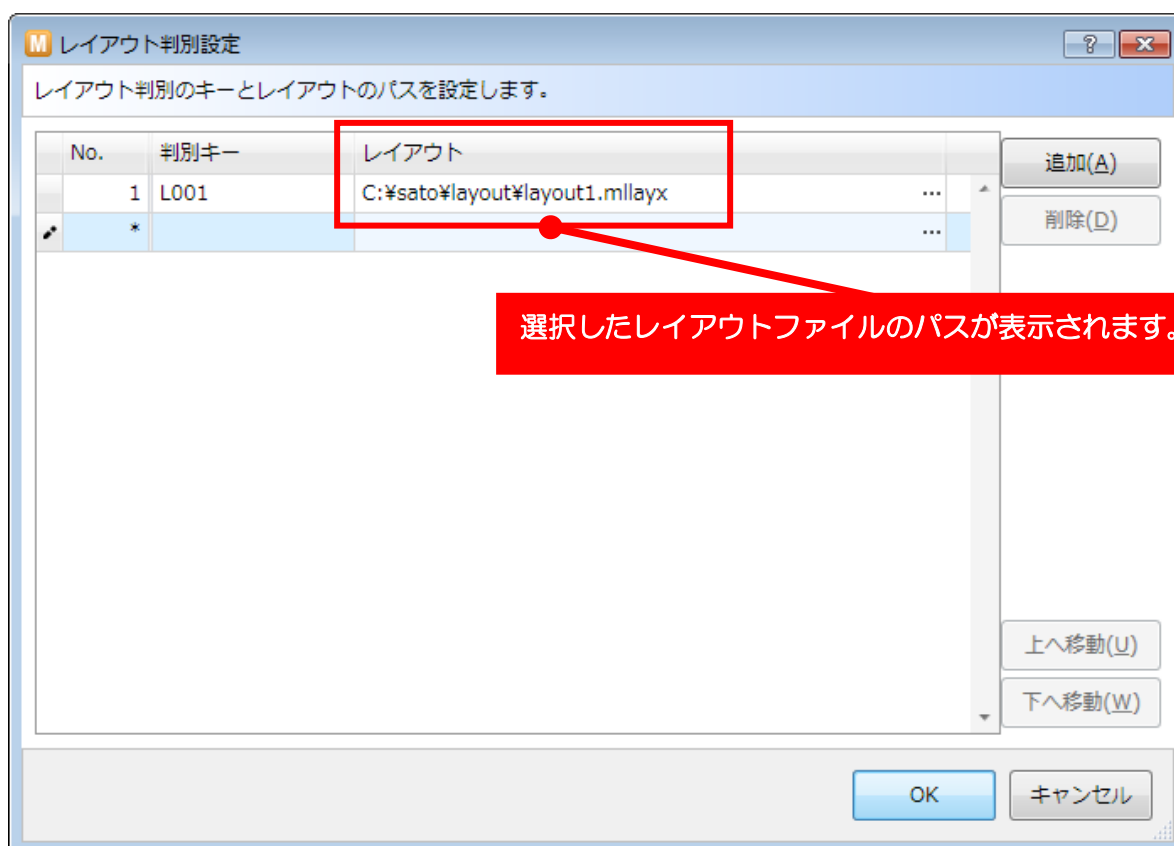
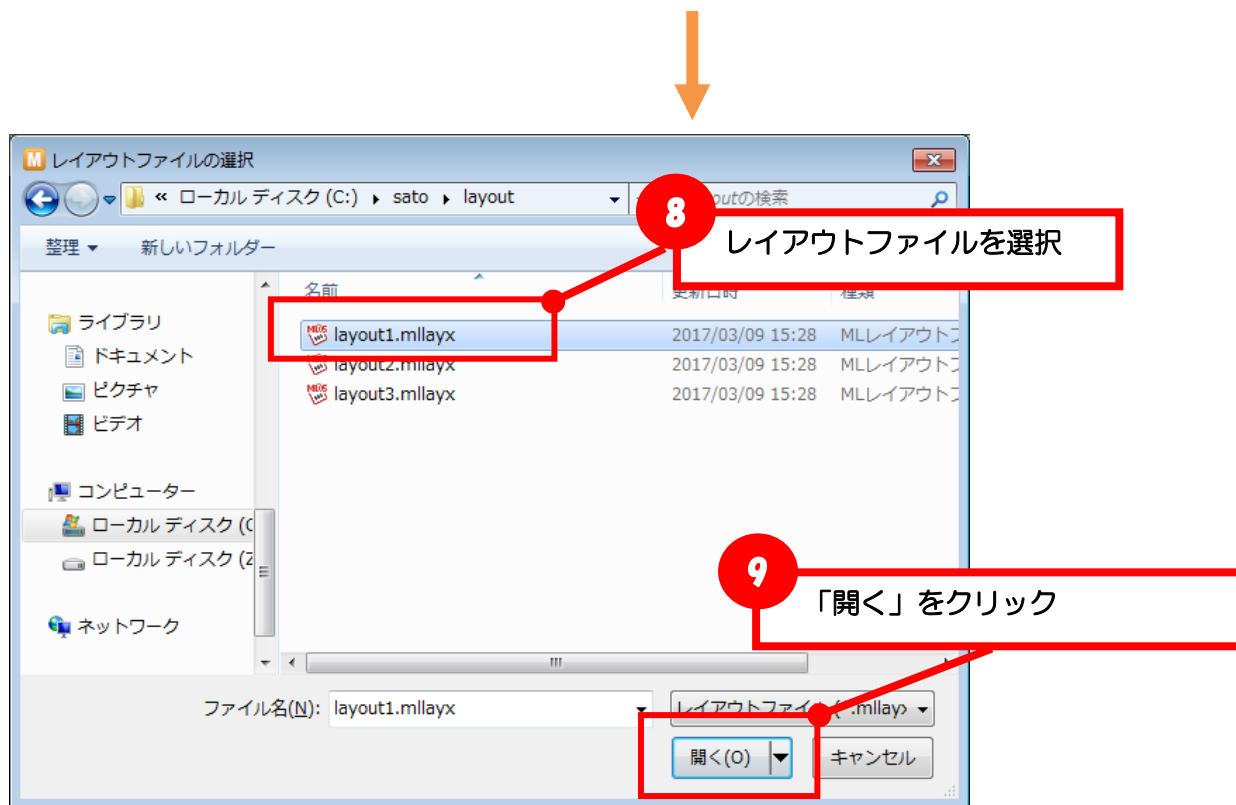
開始位置: 1

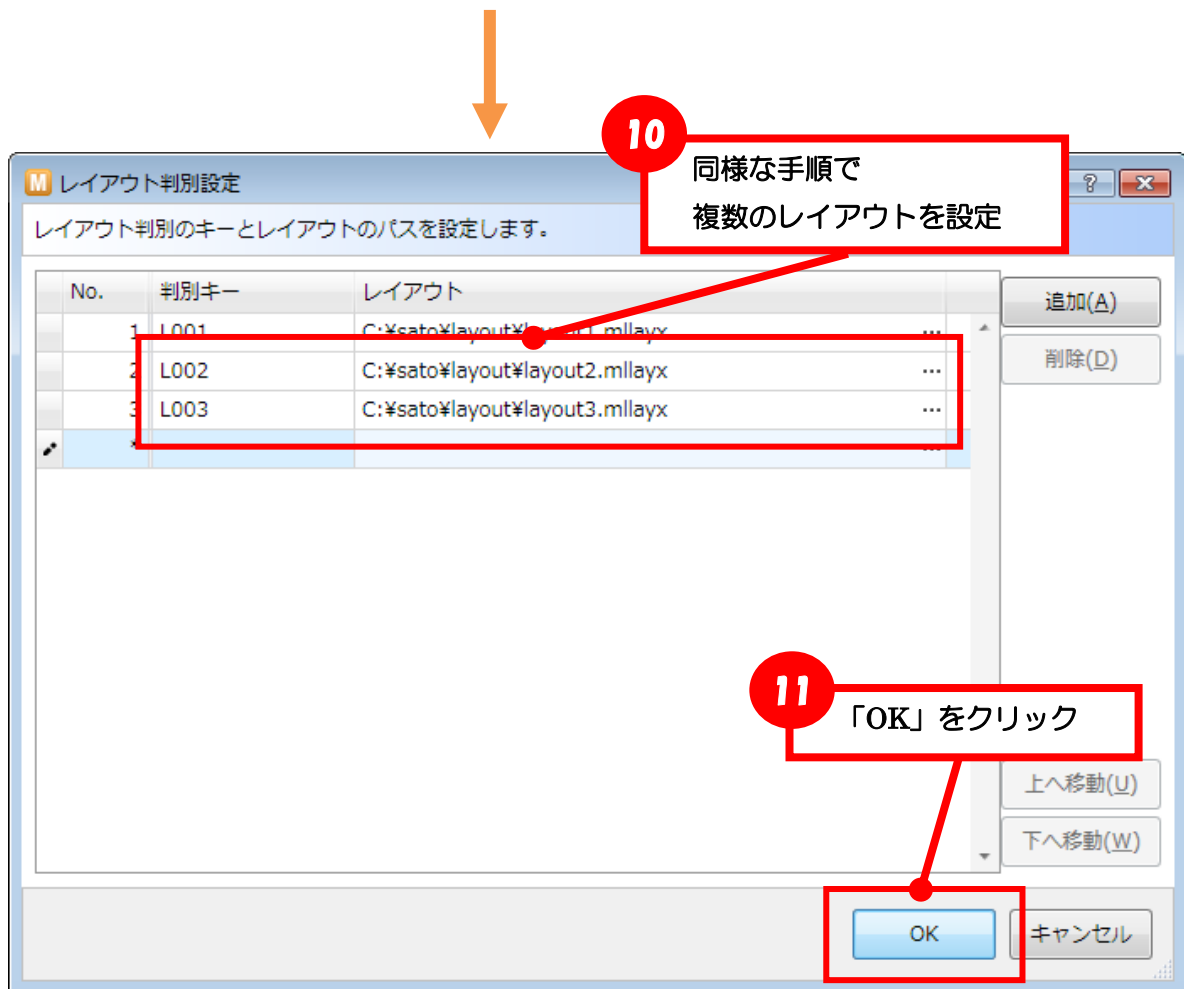
終了位置: 4

レイアウト		出力
データで指定する	可変長 [2]	... (レ)
データで指定する	固定長 [1 - 4]	... (レ)

設定した内容が表示されます。







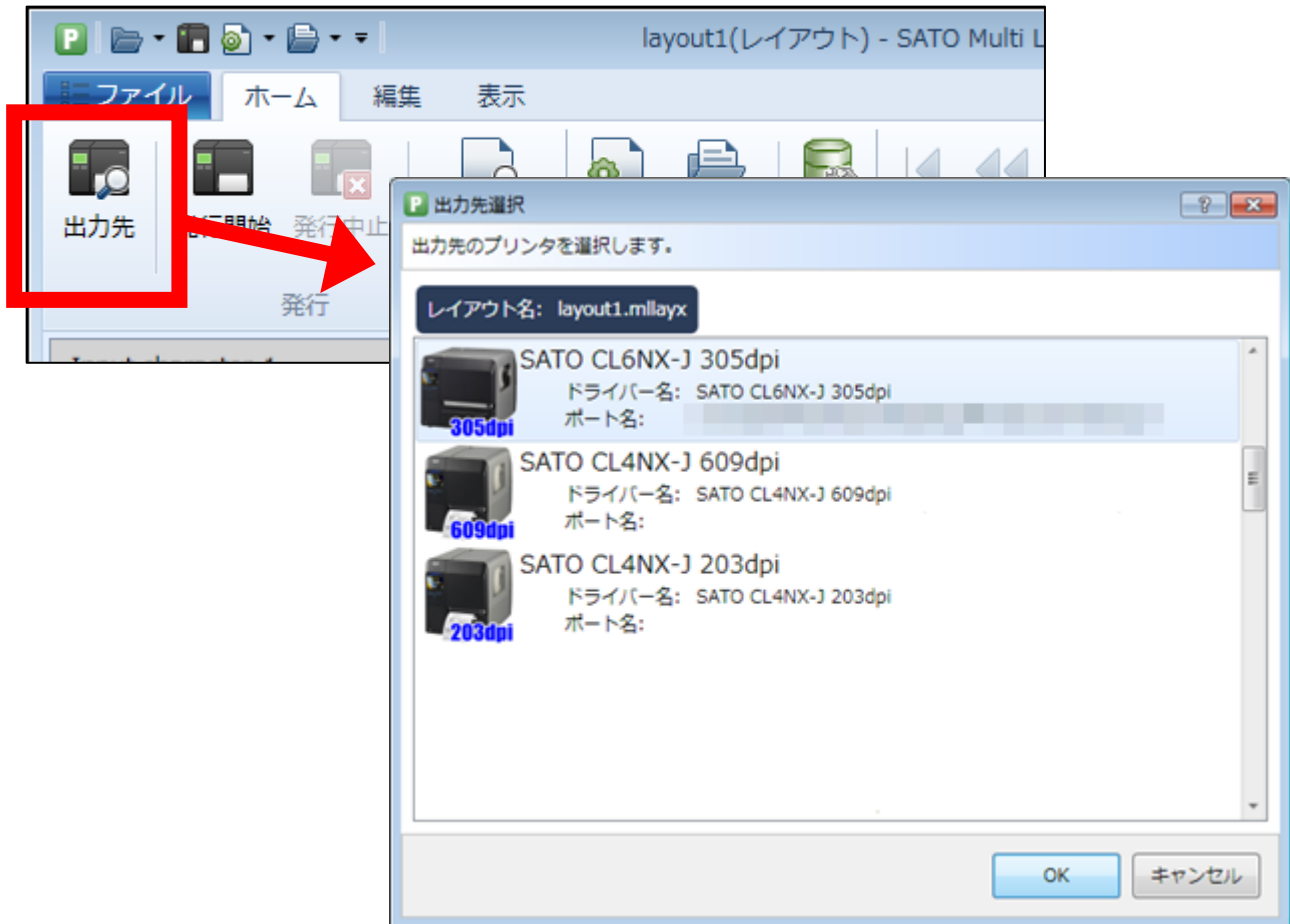
判別フィールドに入力されたデータと判別キーを比較して、該当するレイアウトファイルを使用してラベル発行を行います。合致する判別キーがない場合は、レイアウト判別エラーとなり発行がキャンセルされ、次のレコードにスキップします。

[出力先もデータファイルで指定することができます。](#)

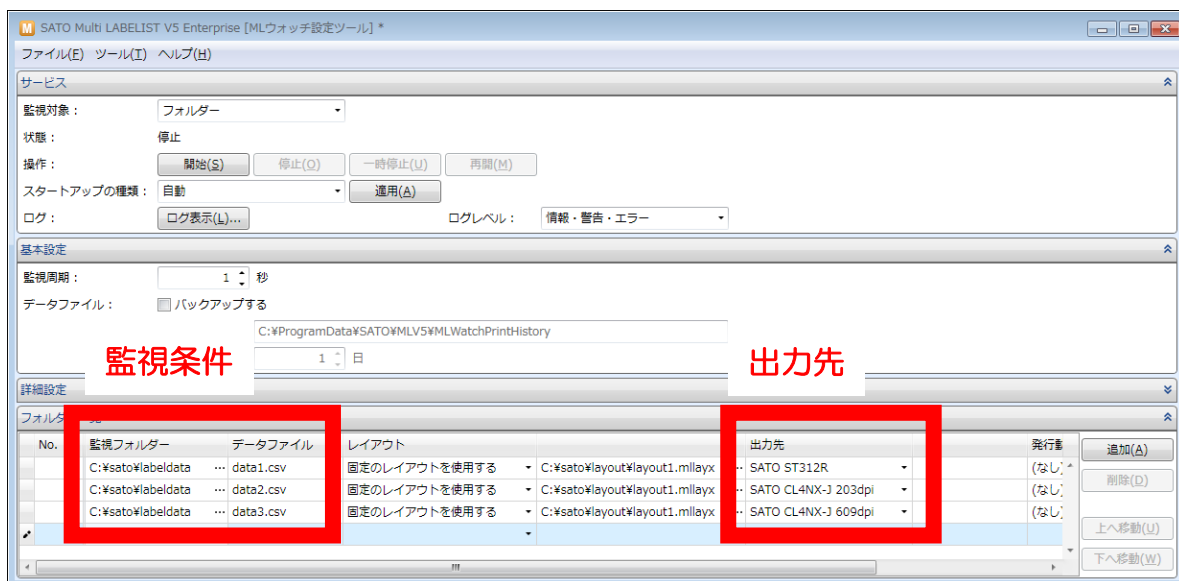
■出力先を指定する

出力先のプリンタは、[レイアウトファイルで指定する方法](#)、[監視条件（監視フォルダ・データファイル）で指定する方法](#)、[データファイルの1レコード毎にデータで指定する方法](#)があります。

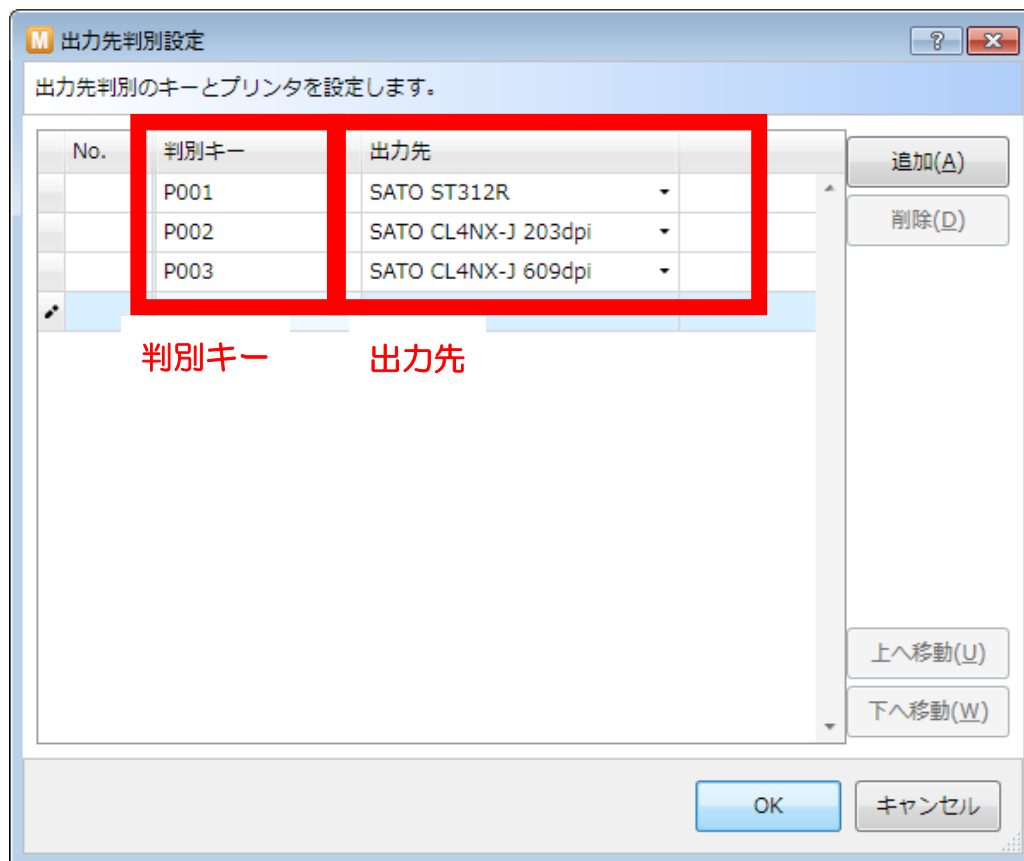
レイアウトファイルで指定する場合は、レイアウトファイルの出力先設定が必要です。



監視条件で指定する場合は、フォルダやデータファイル名に対して出力先を紐付けて利用します。

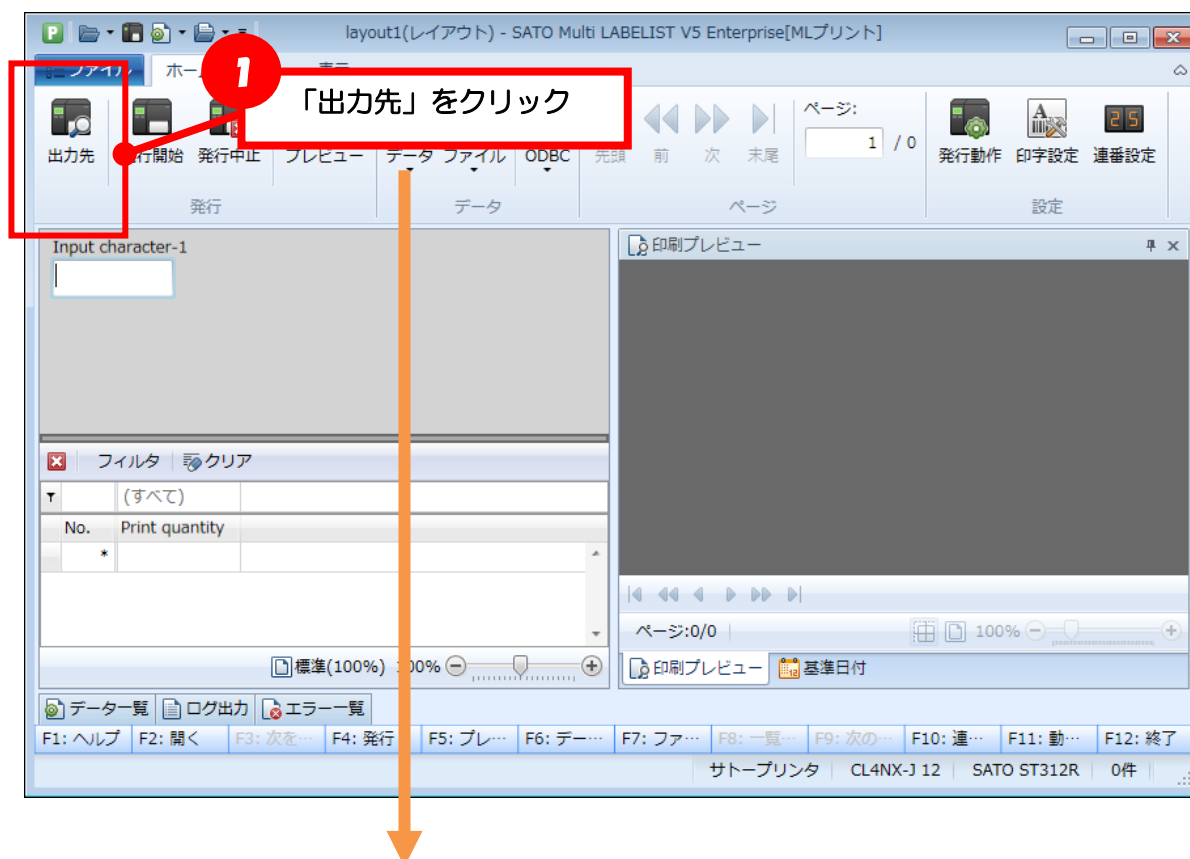


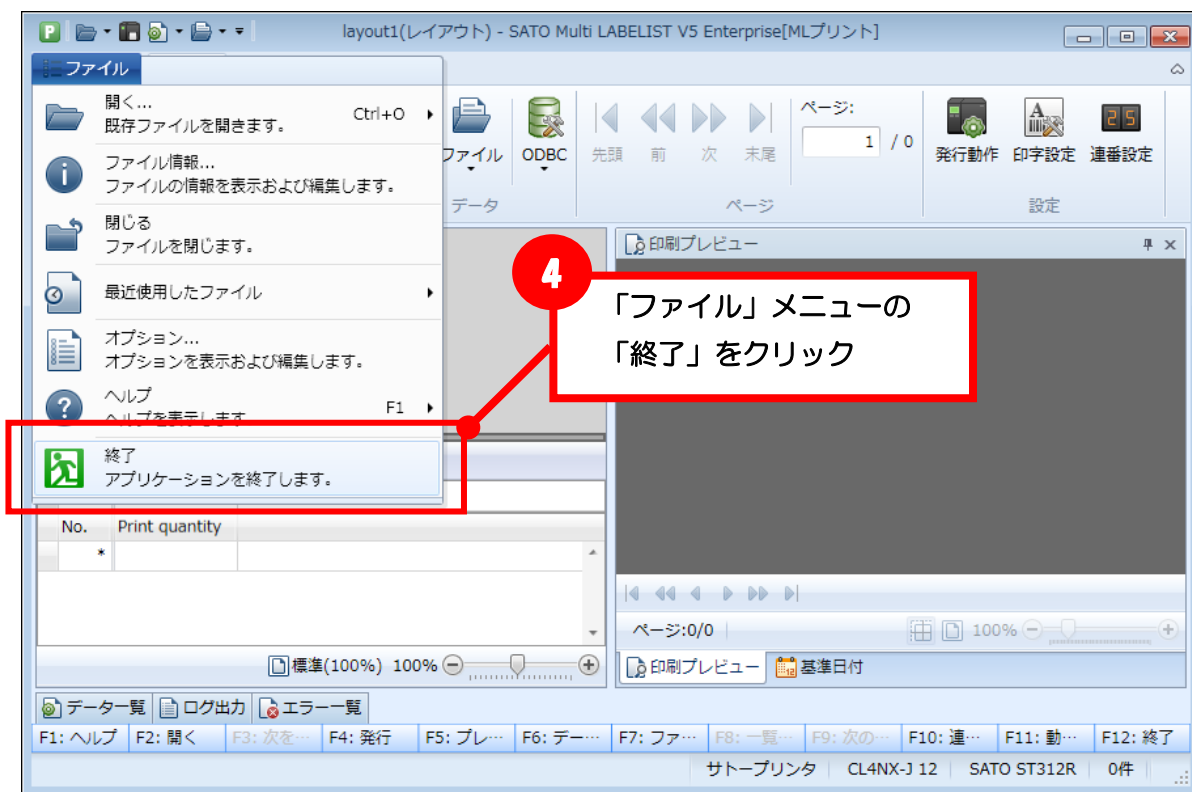
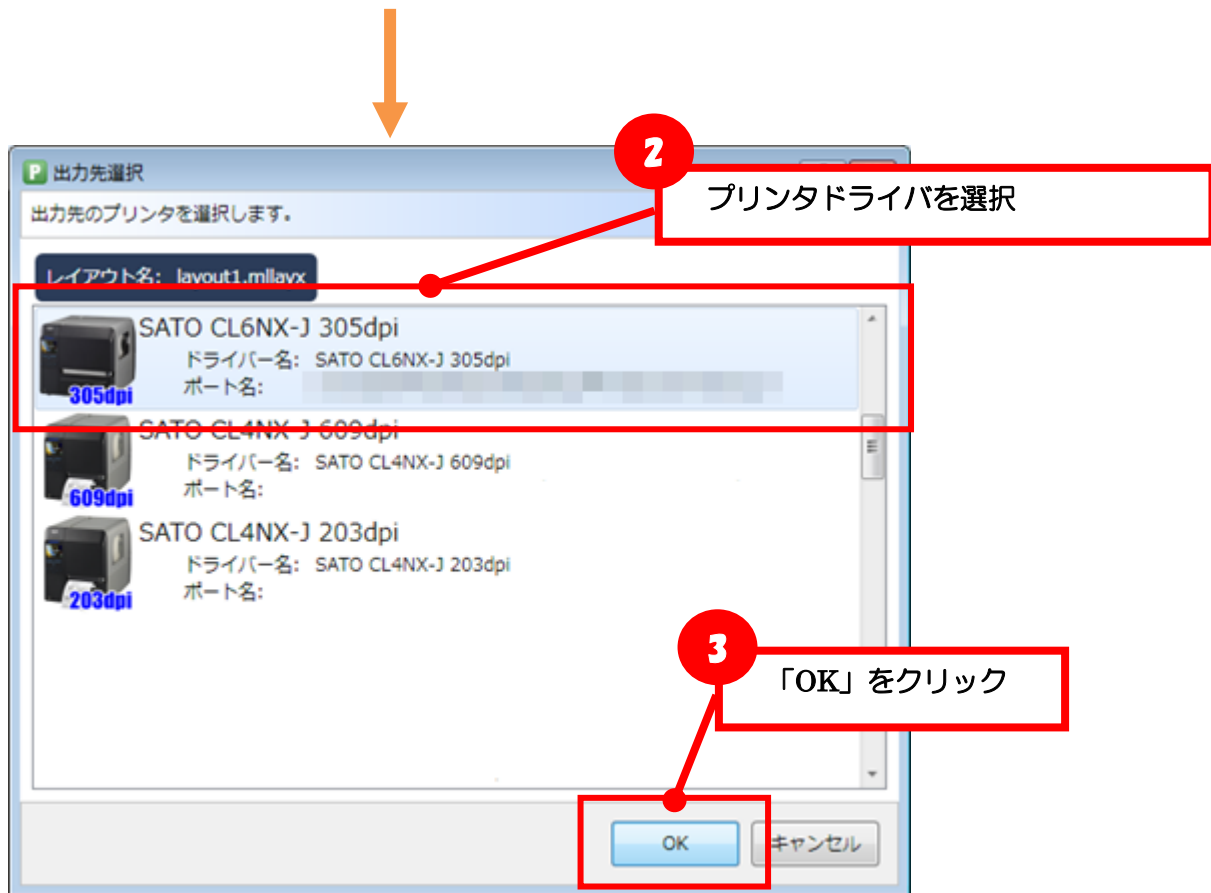
データで指定する場合は、出力先判別設定の判別キーに対して出力先を紐付けて利用します。



- レイアウトファイルで出力先を指定する

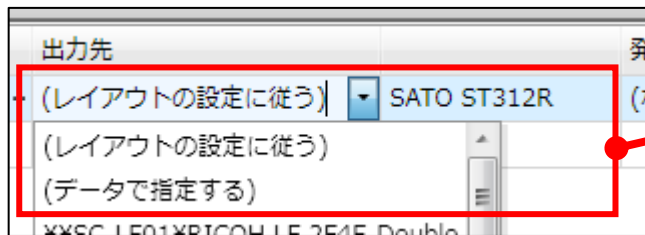
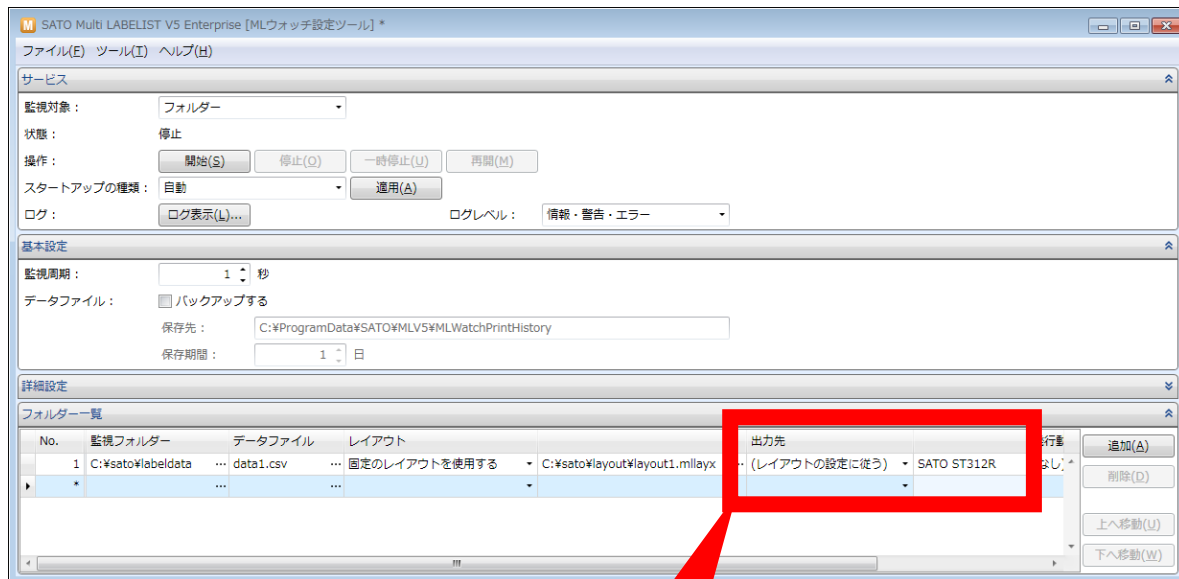
ML プリントまたは ML デザインでレイアウトを開きます。





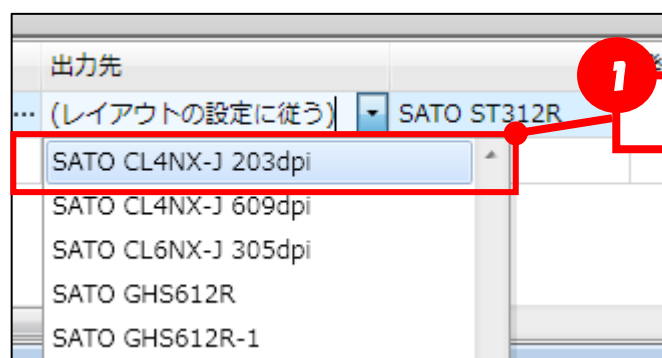
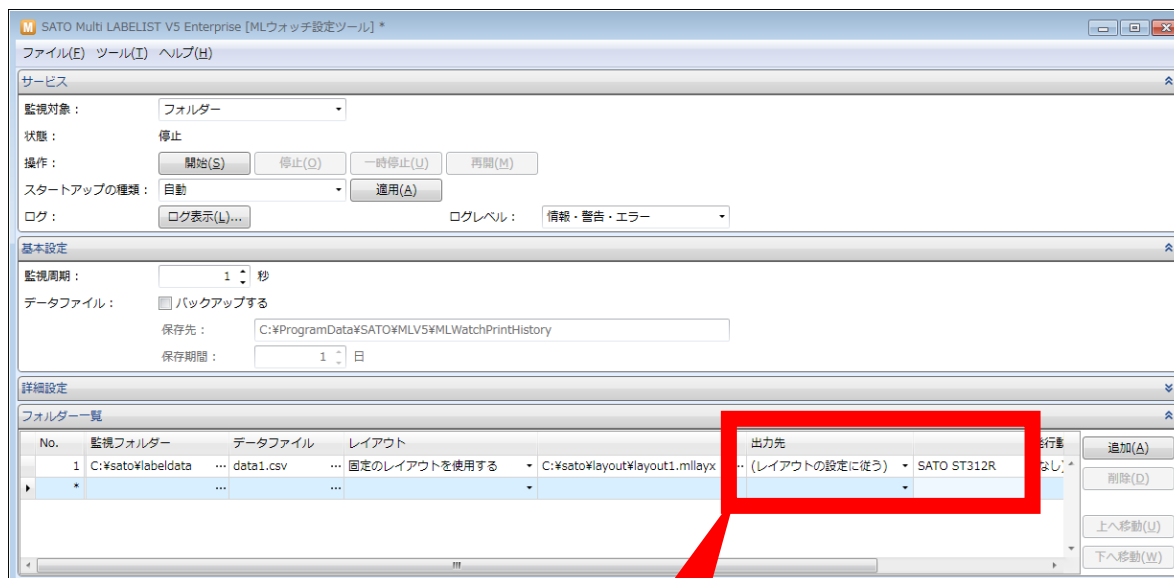


フォルダ監視設定ツールを設定します。

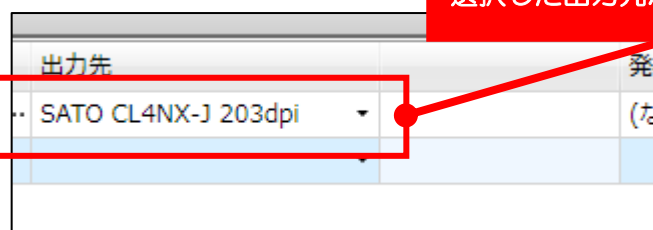


「レイアウトの設定に従う」を選択すると、レイアウトファイルで設定した出力先が表示されます。

• 監視条件で出力先を指定する

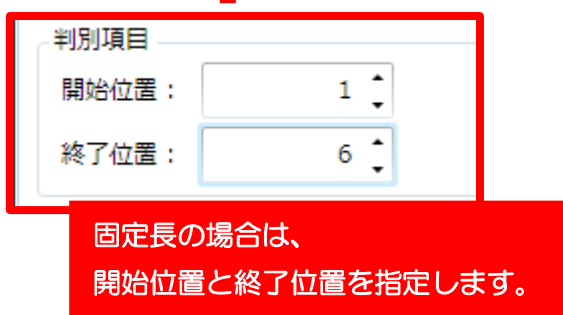
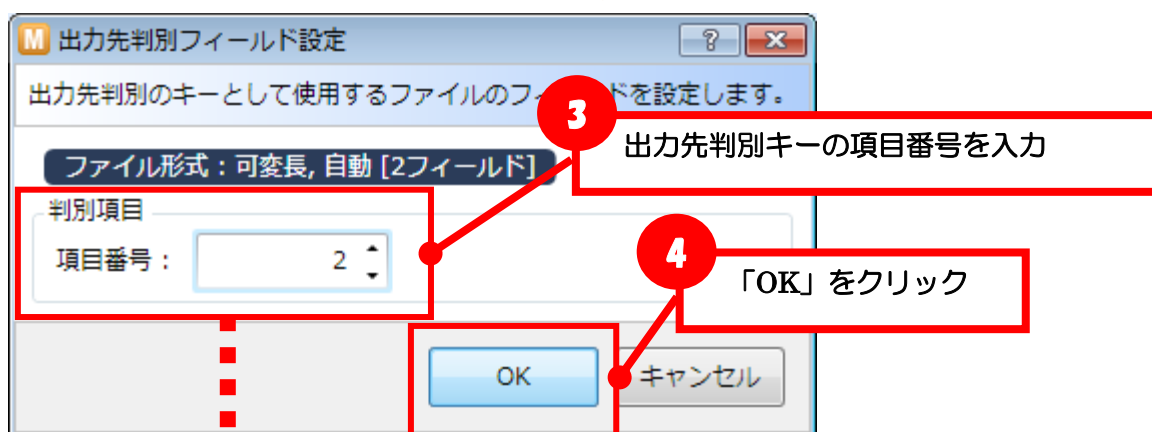
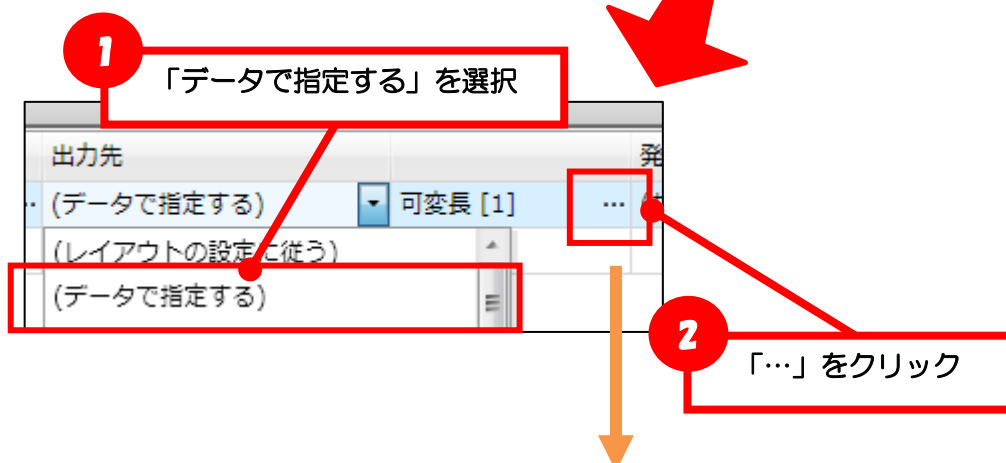
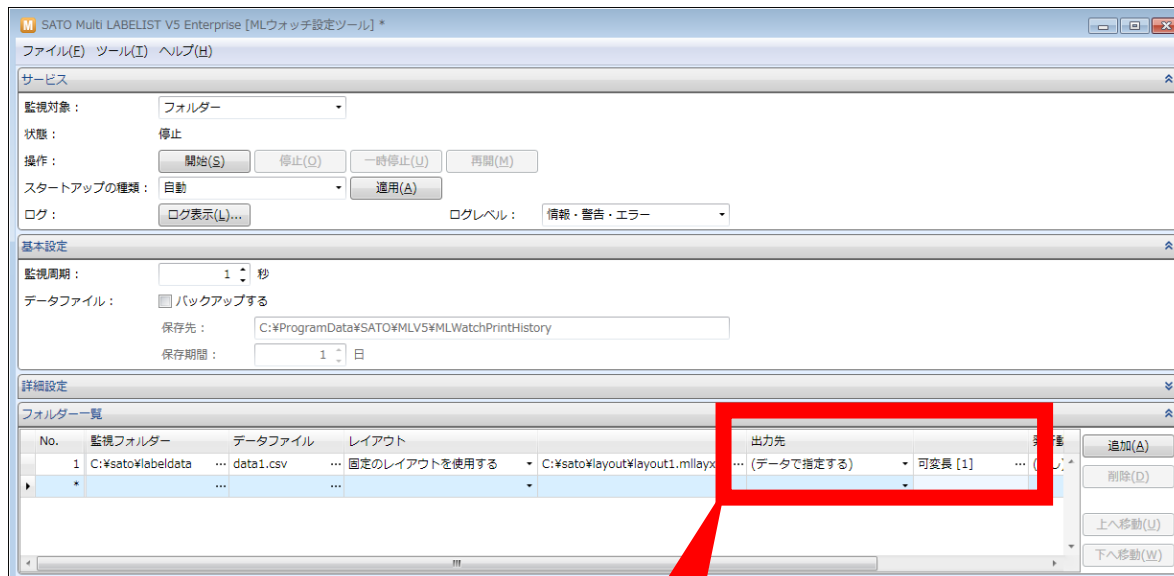


出力先のプリンタドライバを選択



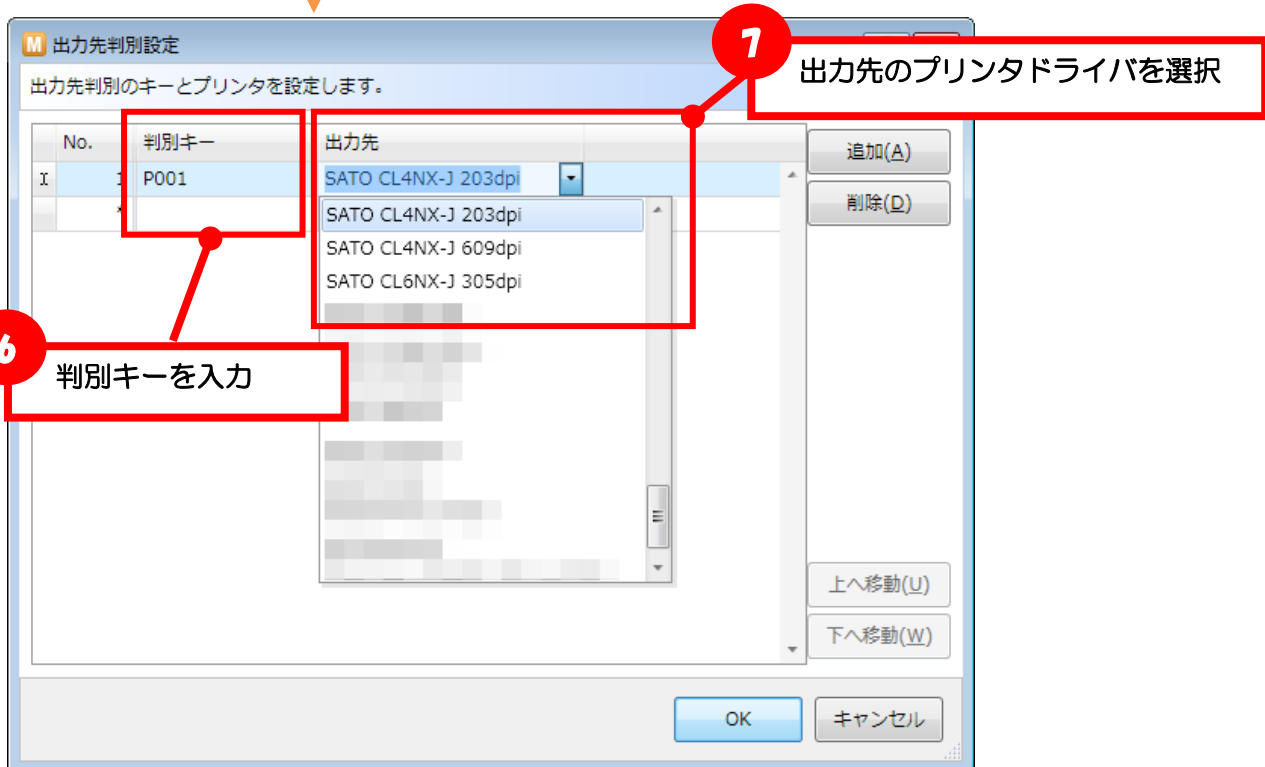
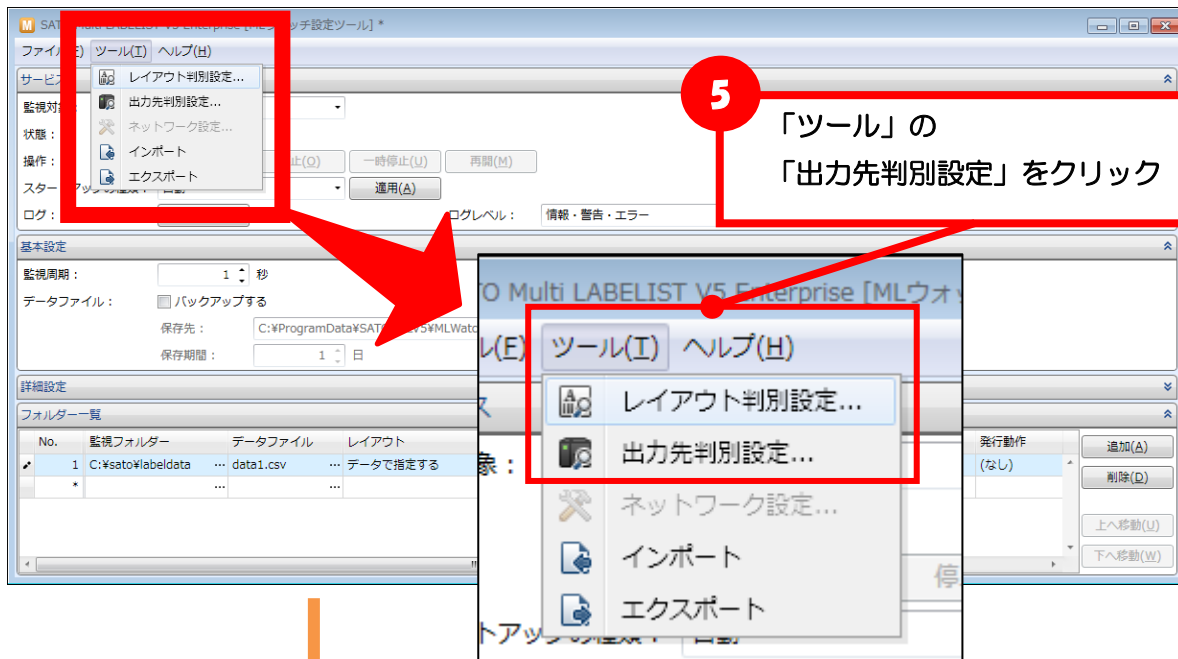
選択した出力先が設定されます。

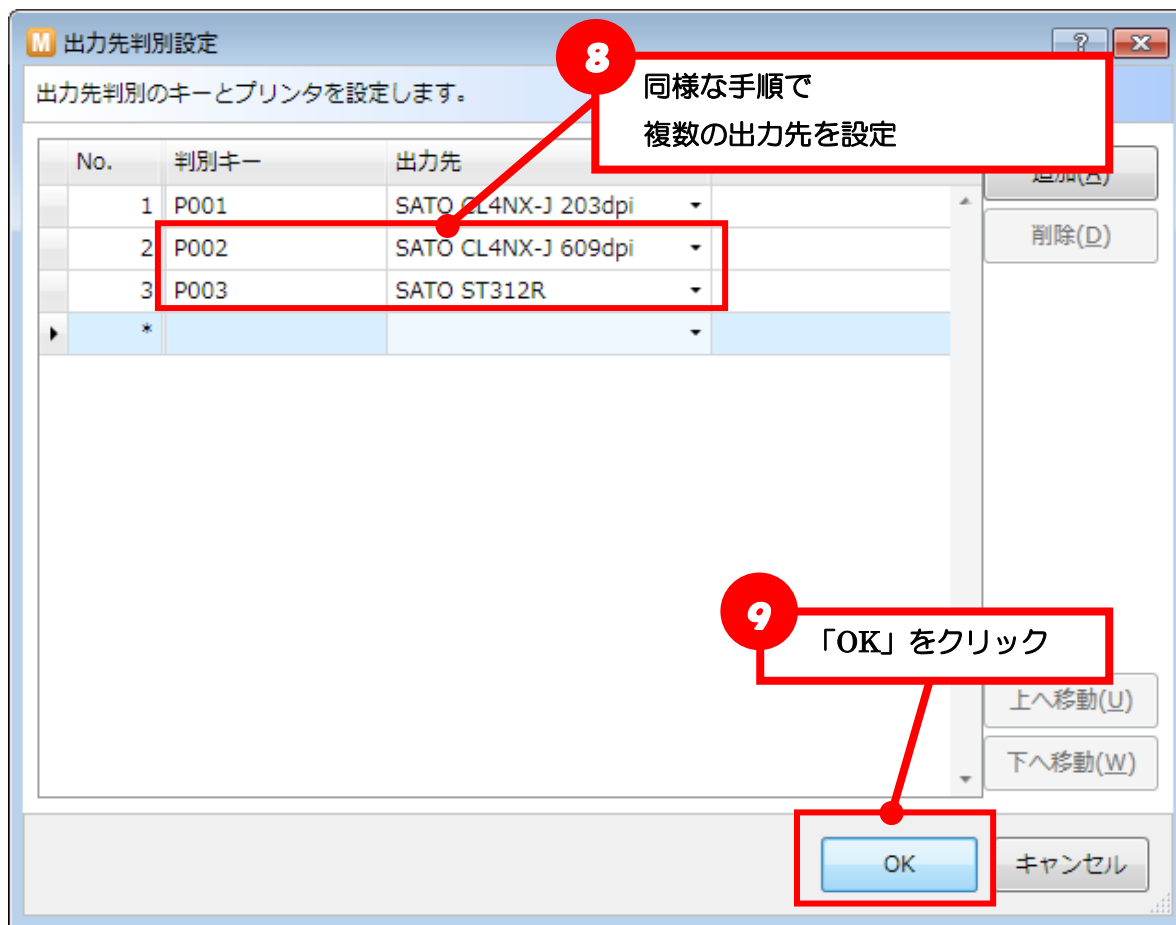
・データで出力先を指定する（レイアウトが固定の場合）



出力先	
.. (データで指定する)	可変長 [2] ...
.. (データで指定する)	固定長 [1 - 6] ...

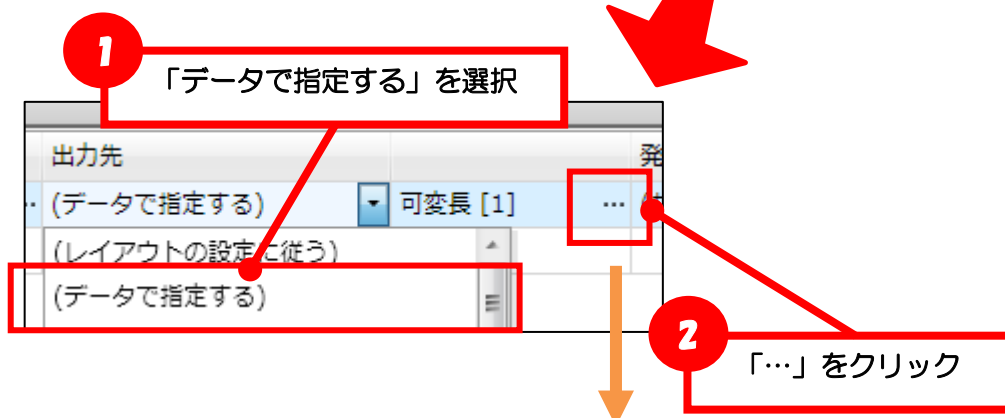
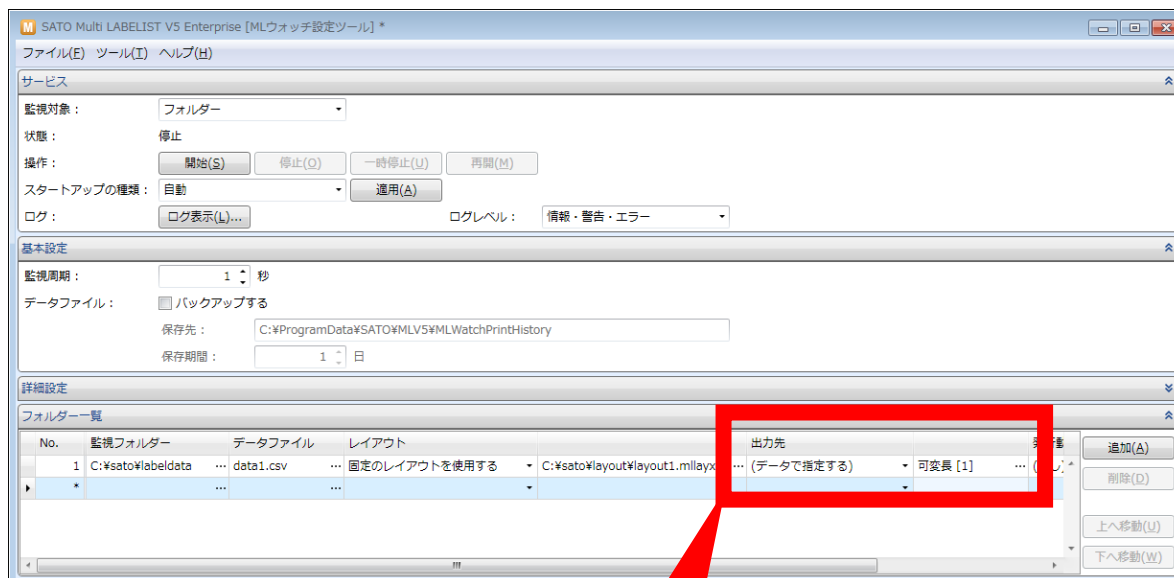
設定した内容が表示されます。

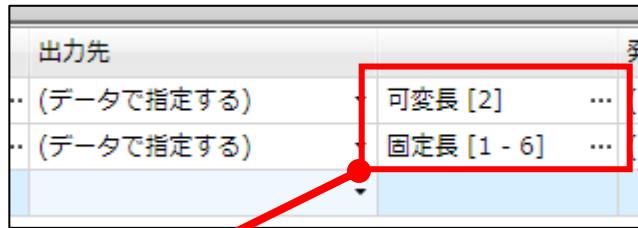




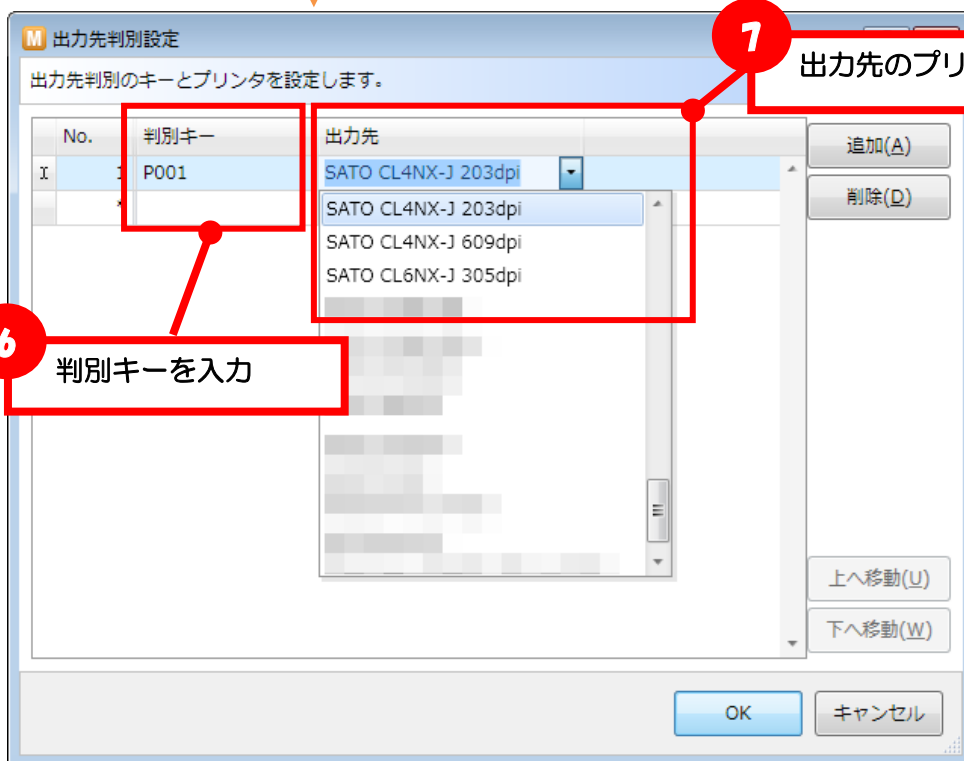
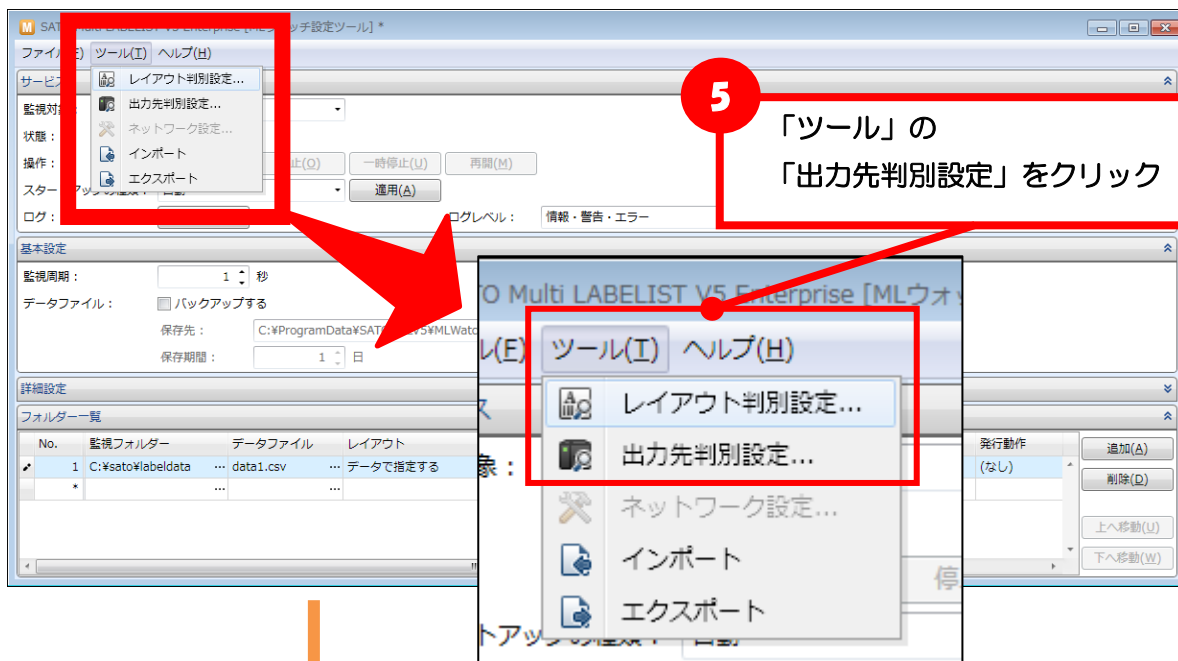
判別フィールドに入力されたデータと判別キーを比較して、該当する出力先にラベル発行を行います。合致する判別キーがない場合は、出力先判別エラーとなり発行がキャンセルされ、次のレコードにスキップします。

・データで出力先を指定する（レイアウトが「データで指定する」場合）





設定した内容が表示されます。

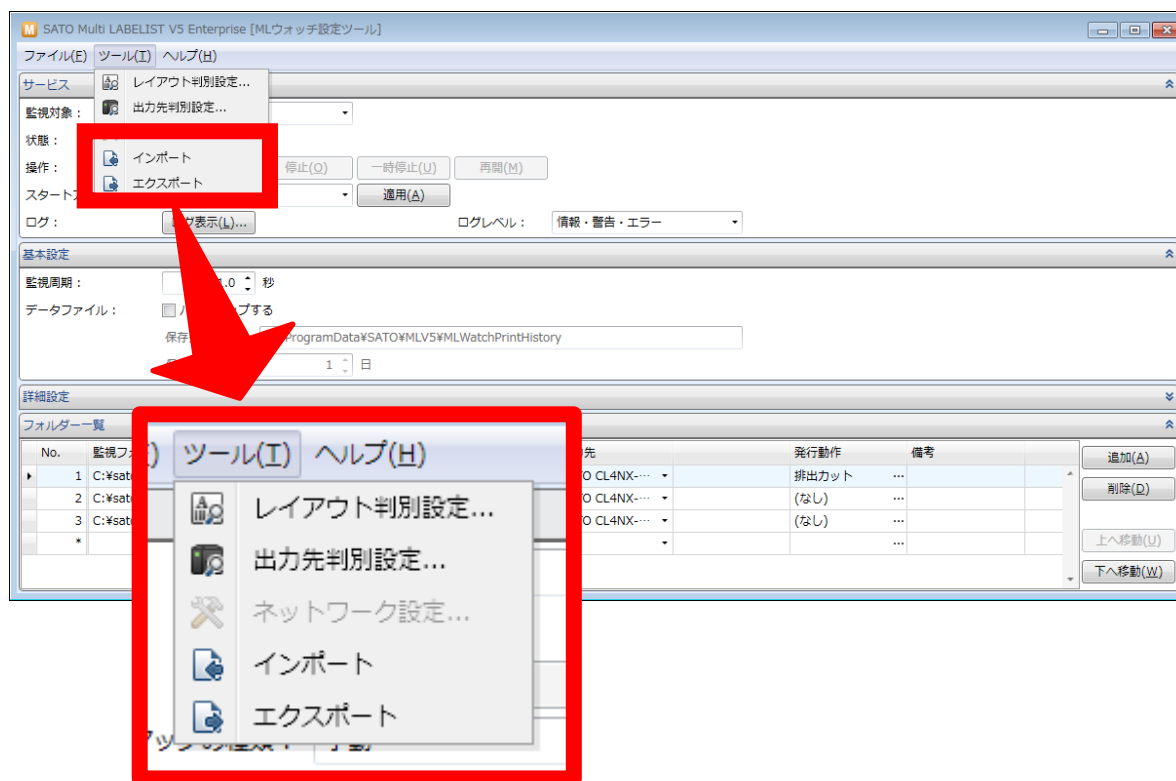




判別フィールドに入力されたデータと判別キーを比較して、該当する出力先にラベル発行を行います。合致する判別キーがない場合は、出力先判別エラーとなり発行がキャンセルされ、次のレコードにスキップします。

■設定値のインポート・エクスポートする

設定ツールで設定した値を、ファイルから読込（インポート）・ファイルへ保存（エクスポート）することができます。パソコンの入替えや複数のパソコンで同じ設定値を利用する場合に活用できます。



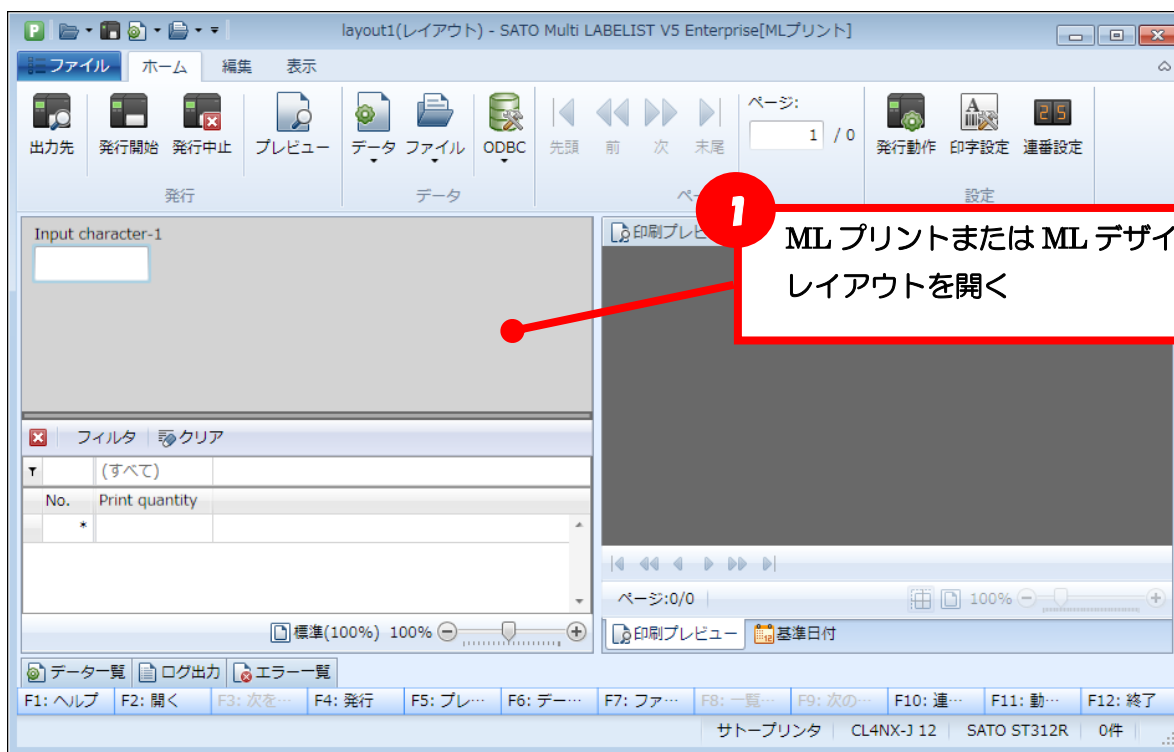
1-5

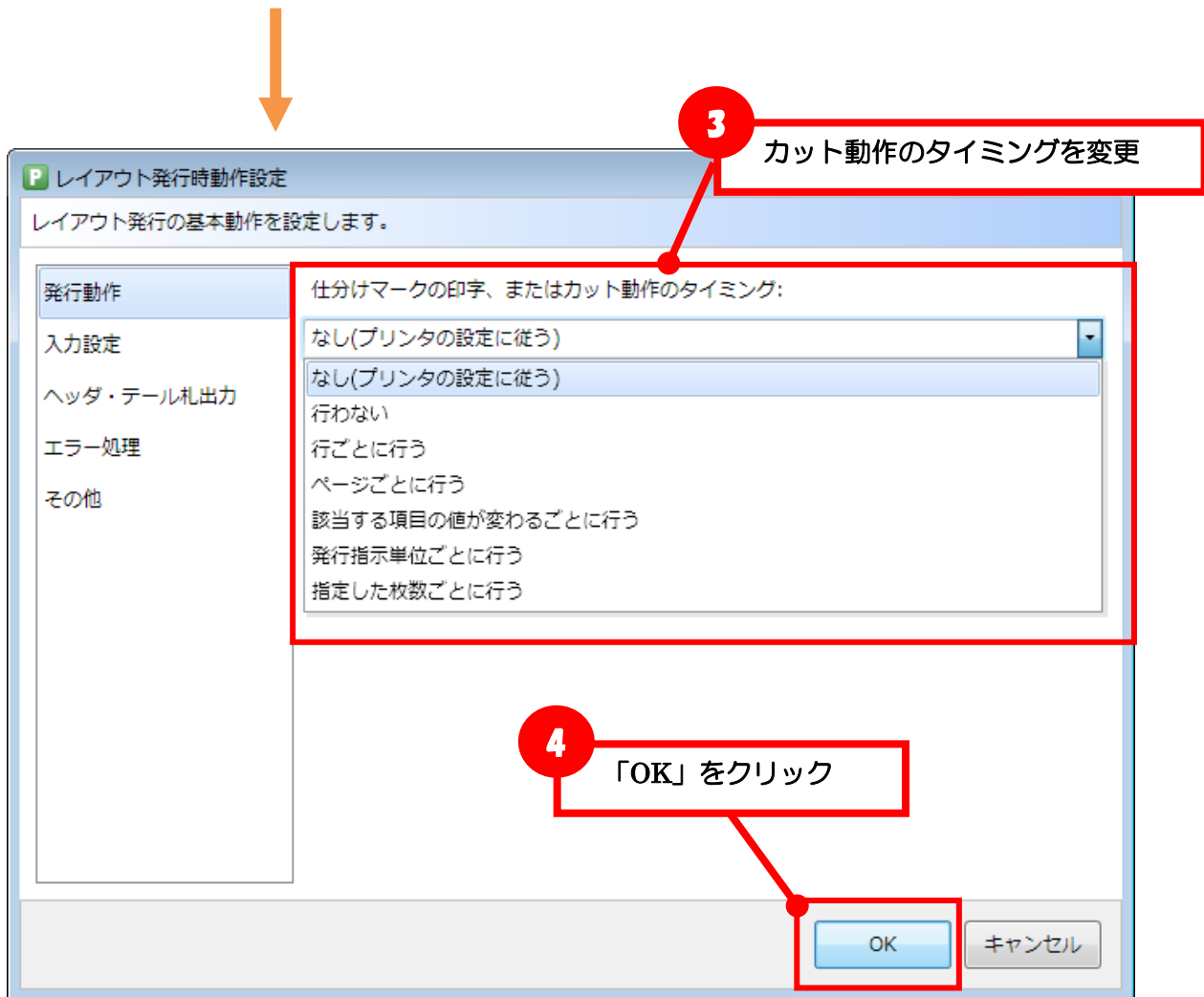
フォルダ監視発行を活用する

■ファイル単位カット ■固定発行枚数 ■ログ ■バックアップ ■セットファイル

■レコード単位でカットする

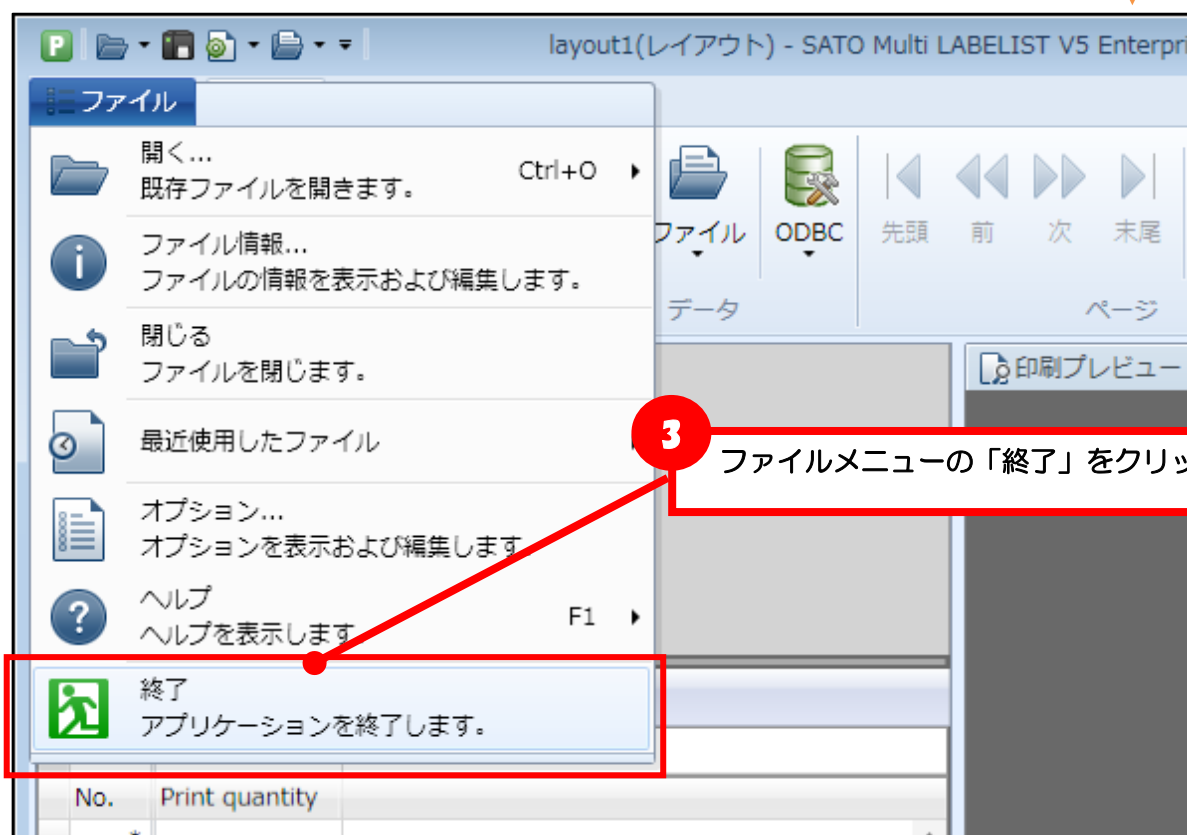
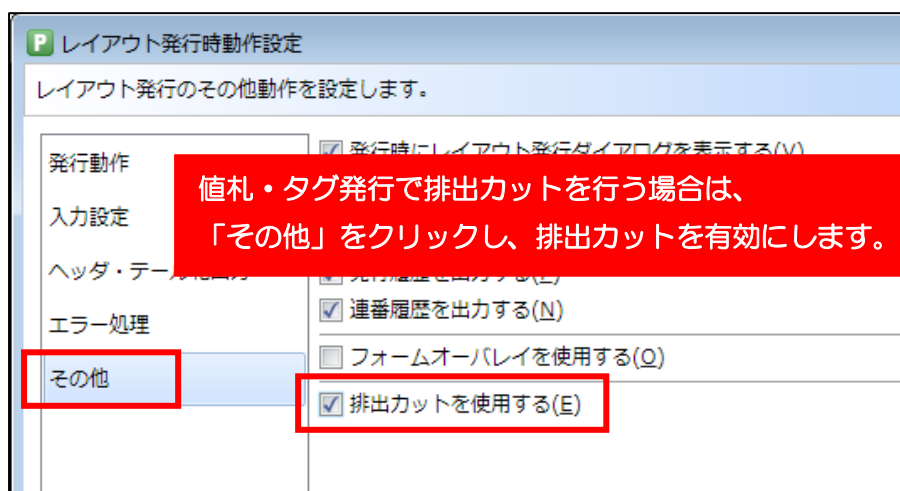
1 レコード毎のカット方法はレイアウトファイルの発行動作設定で行います。





カット動作のタイミング設定

設定	設定
なし	プリンタの動作モードが連続発行の場合はカットしません。カッタの場合は1枚ごとにカットします。
行わない	カットしません。
行ごとに行う	レコード単位でカットします。 「発行枚数」で指定された枚数を発行した後にカットします。
ページごとに行う	
該当する項目の値が変わるごとに行う	
発行指示単位ごとに行う	指定した枚数単位でカットし、端数の最後もカットします。
指定した枚数ごとに行う	

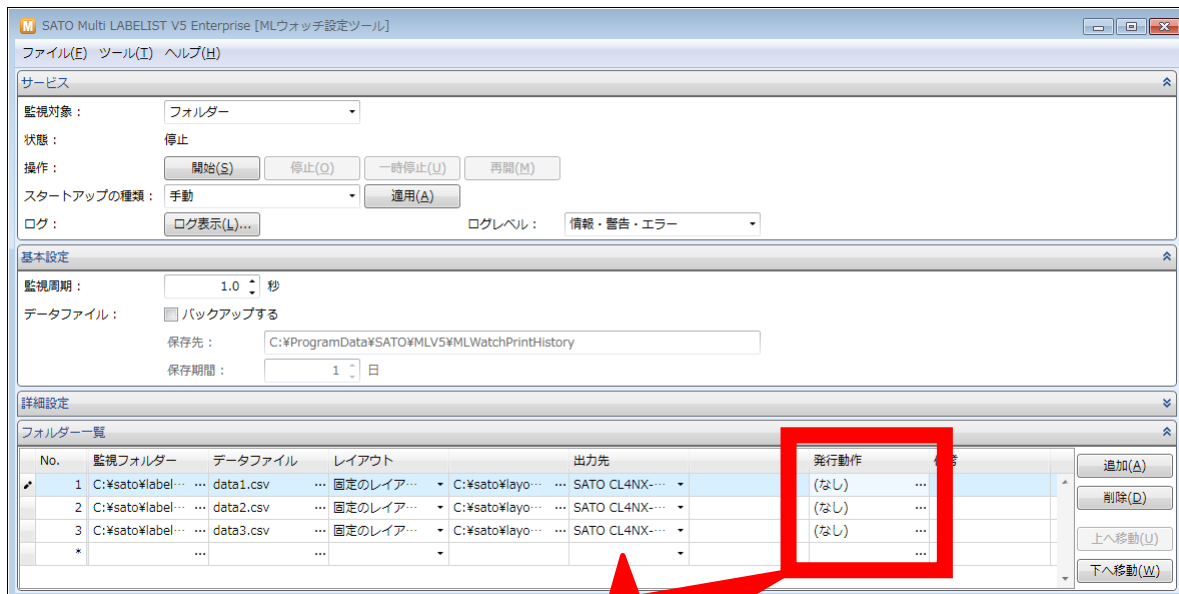


■ファイル単位でカットする

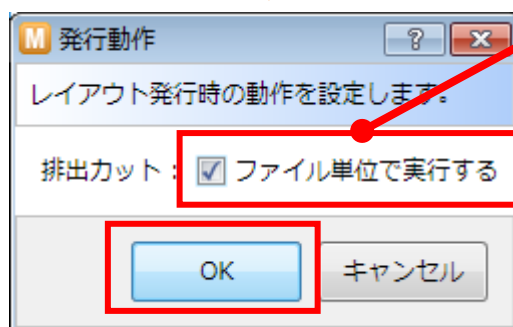
データファイルの最後にカットを行うことができます。

ファイル単位でカットするためには、[レコード単位でカットを行わない設定にしてください。](#)

出力先をデータで指定している場合は、ファイルの末尾のレコードで指定された出力先に対してカットを実行します。複数の出力先でカットを行う場合は、[1レコード毎にカットする](#)をご参照ください。

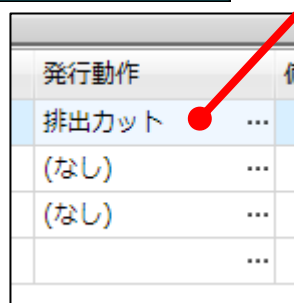


1 設定する行の「発行動作」をクリック



2 排出カットにチェックして、「OK」をクリック

ファイル単位の排出カットが有効になります。



■任意のタイミングでカットする

データファイル内に「EjectCut」だけのレコードを作成すると任意のタイミングでカットできます。任意のタイミングでカットするためには、[レコード単位でカットを行わない設定にしてください。](#)

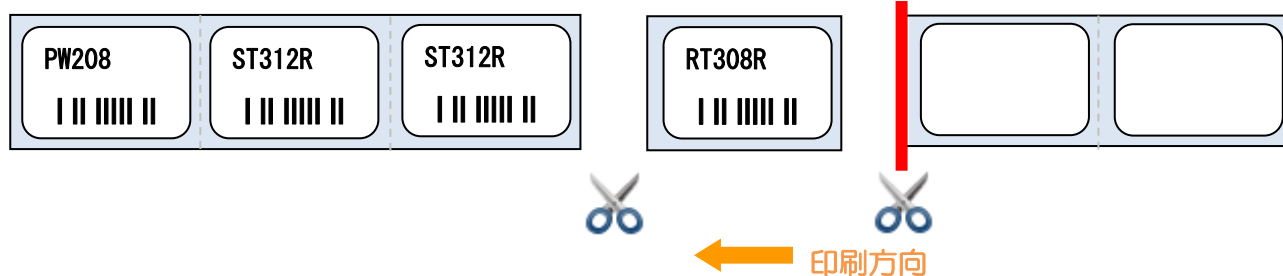
データファイルが固定長の場合、「EjectCut」を指定するレコードもレコード桁数までスペースを補填してください。桁数に満たない場合、桁ずれが発生して以降のデータがエラーになります。

「EjectCut」は一つ前のレコードで指定された出力先に対してカットを行います。複数の出力先に対してカットを行う場合は、出力先毎にデータの末尾に「EjectCut」のレコードを作成するか、データファイルを出力先毎に分けてご利用ください。

データの指定例

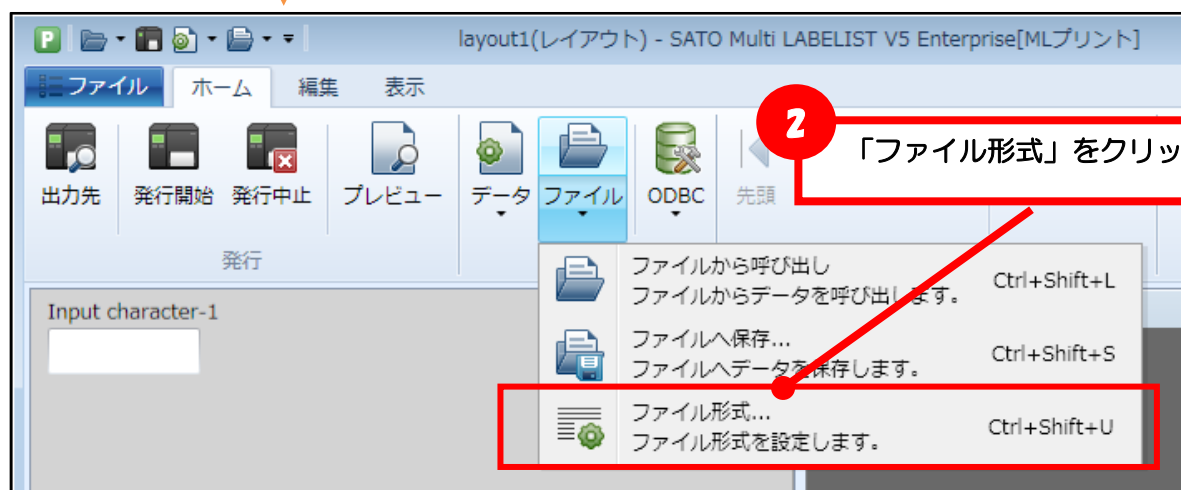
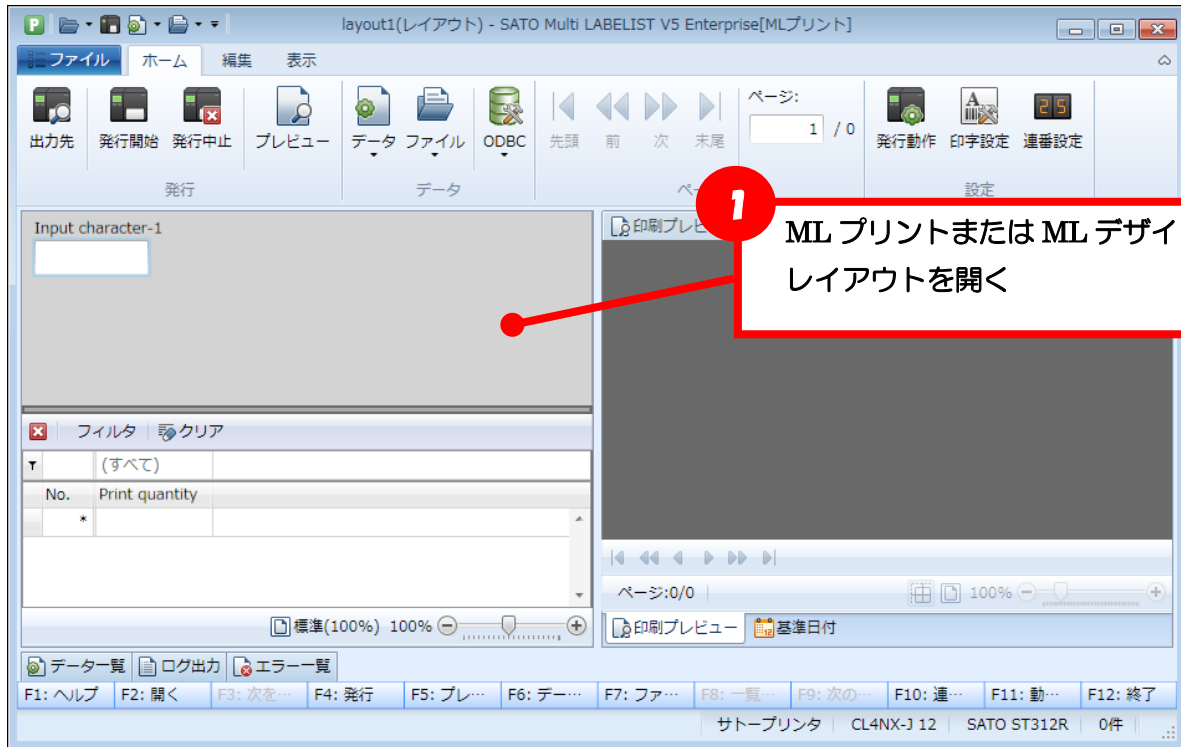
```
"PW208","15000","490310841310","目黒本店","1"
"ST312R","19000","490310041310","目黒本店","2"
EjectCut
"RT308R","9500","490310413108","目黒本店","1"
EjectCut
```

発行イメージ



■発行枚数が未指定のデータを発行する

上位のアプリケーションでデータ内に発行枚数を出力できない場合に、1レコード毎に1枚発行する機能が利用できます。設定は設定ツールではなくMLプリントまたはMLデザインのファイル形式設定で行います。



↓

3 「フィールド定義」をクリック

フィールド定義(D)...

OK キャンセル

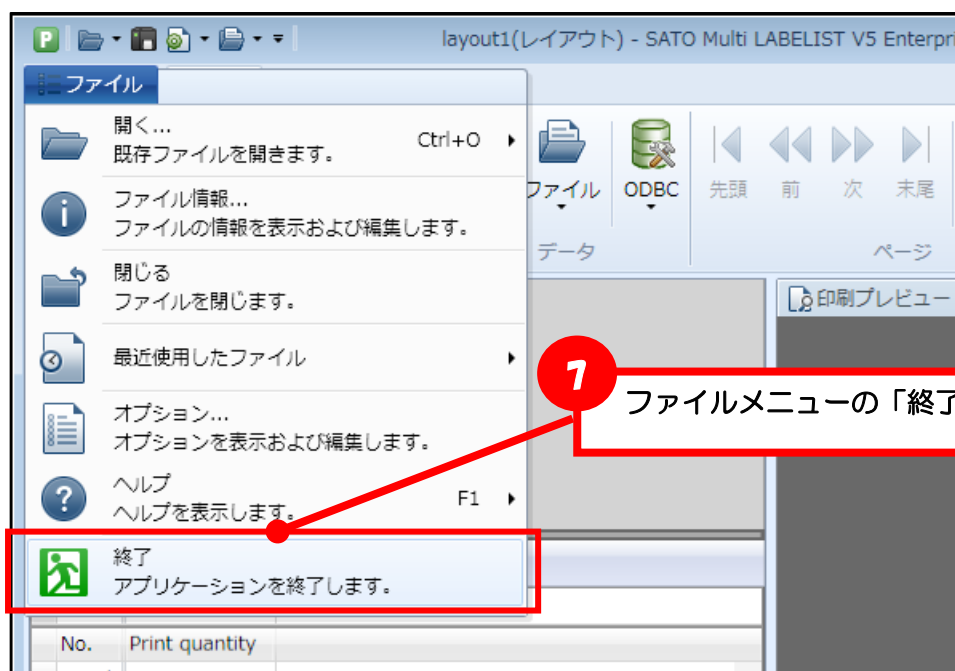
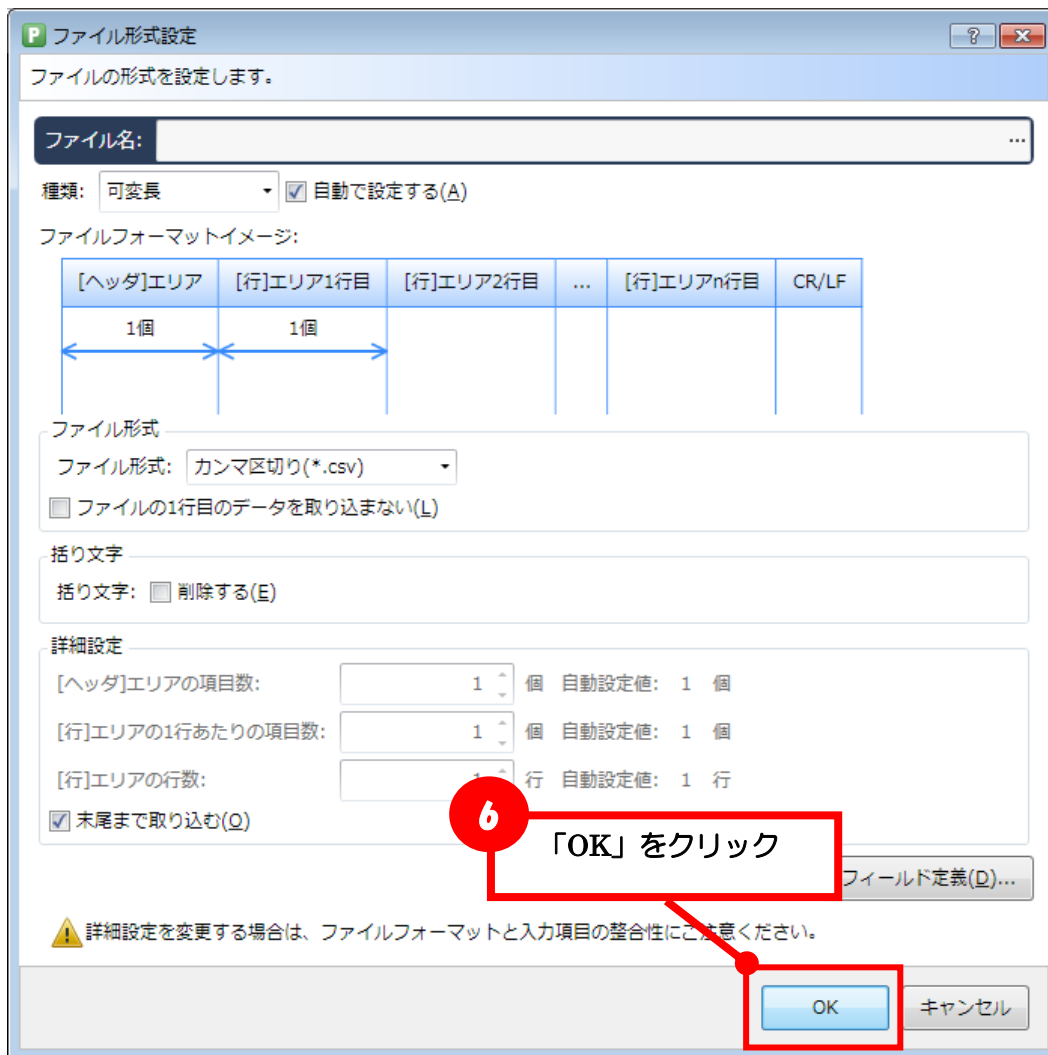
↓

4 入力項目「発行枚数」を変更、
可変長の場合は項目番号を「0」
固定長の場合は開始・終了位置を「0」

No.	区分	入力項目	項目番号	詳細
1	ヘッダ	品名	1	設定範囲:0~3
2	ヘッダ	品番	2	設定範囲:0~3
I 4	行	発行枚数	0	設定範囲:0~1

5 「OK」をクリック

OK キャンセル



■複数のプリンタに出力する

フォルダ監視発行は複数のプリンタに対して出力する場合、発行データでレコード単位で指定するか、監視条件（ファイル名またはフォルダ）でファイル単位で指定することが可能です。

• [1ファイルに複数の出力先を指定する](#)

出力先をデータファイルのレコード単位で自由に指定できるため、複数のプリンタを順番に指定して、プリンタに効率よく出力することができます。

• [1ファイルで1つの出力先を指定する](#)

データファイルのレコード内に出力先を判別するデータを指定できない場合に、監視設定でデータファイルのファイル名やフォルダを出力先ごとに設定することで、複数のプリンタに出力できます。

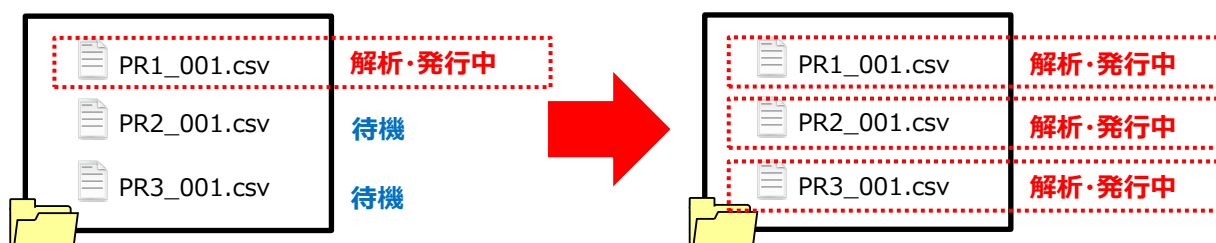
ファイル名で出力先を分ける

No.	監視フォルダ	データファイル	レイアウト	出力先
1	C:%sato%watch	PR1*.csv	固定のレイア…	C:%sato%layo… SATO CL4NX 203dpi
2	C:%sato%watch	PR2*.csv	固定のレイア…	C:%sato%layo… SATO ST312R

フォルダで出力先を分ける

No.	監視フォルダ	データファイル	レイアウト	出力先
1	C:%sato%watch%PR1	.csv	固定のレイア…	C:%sato%layo… SATO CL4NX 203dpi
2	C:%sato%watch%PR2	.csv	固定のレイア…	C:%sato%layo… SATO ST312R

発行枚数や発行頻度が高い場合、1つのデータファイルが処理されている間は、他のプリンタは待機状態になります。速度が求められる場合は「マルチスレッド」を有効にすると、複数のデータファイルが同時に処理されるようになります。**カラープリンタレイアウト使用時は利用できません。**

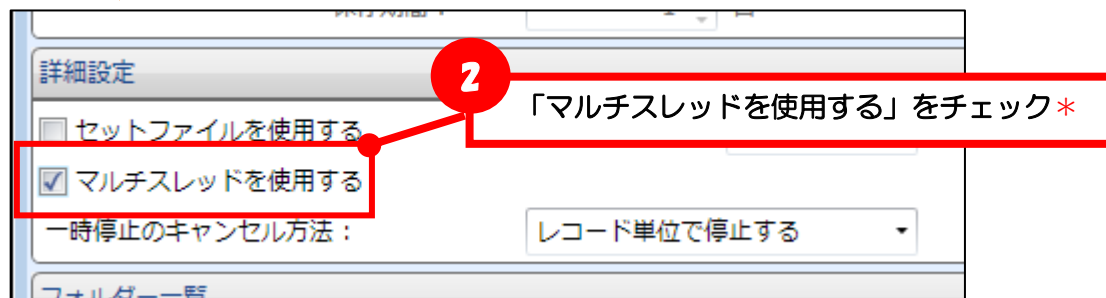
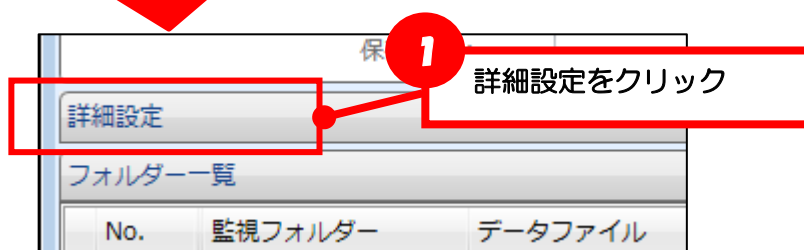
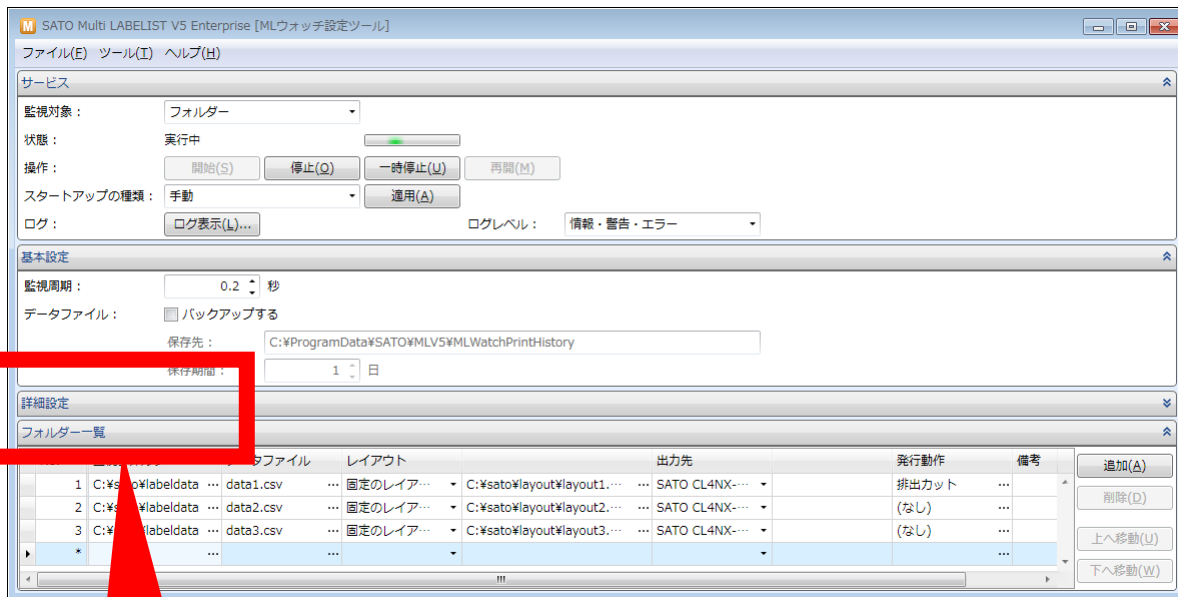


・設定可能なプリンタ台数

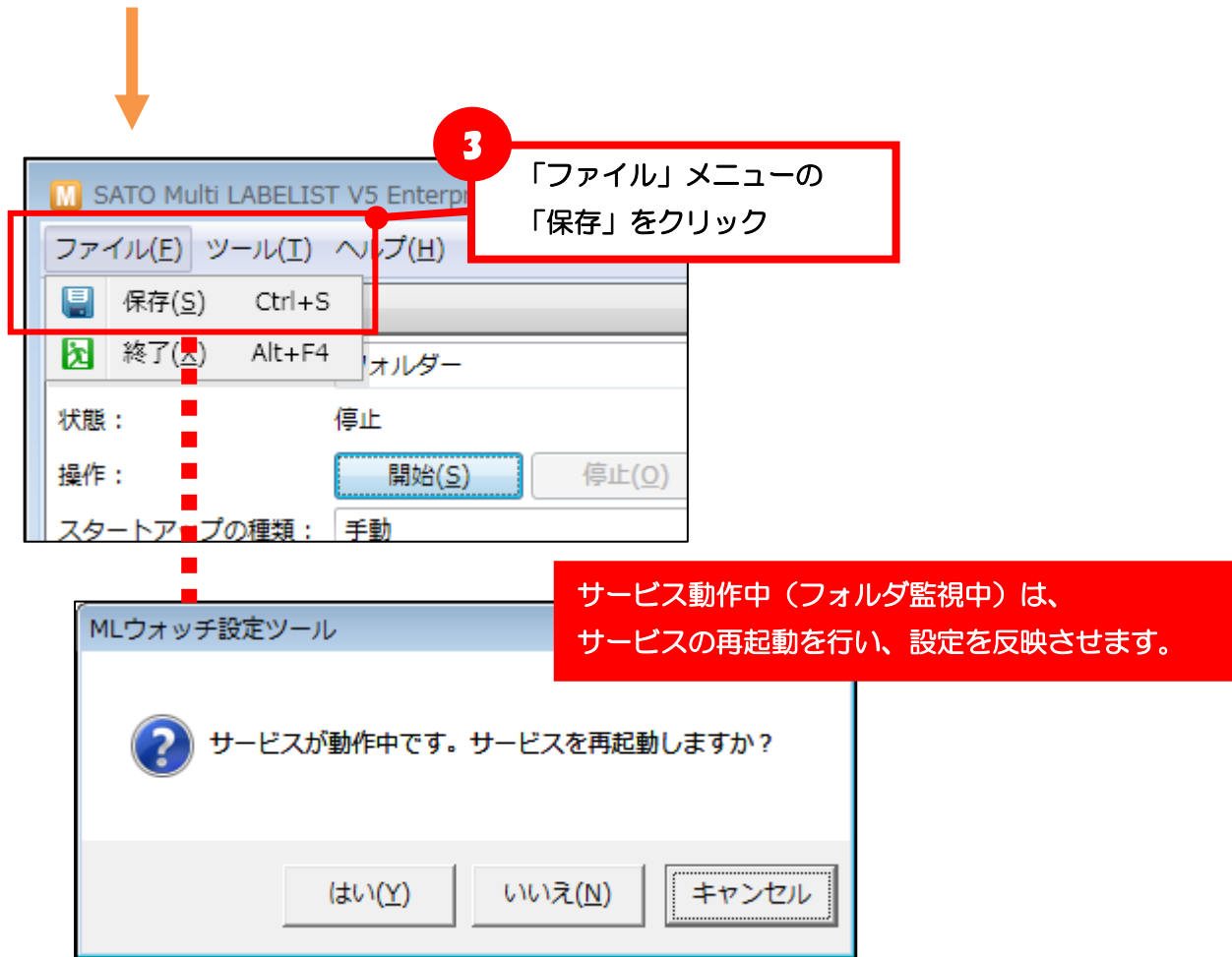
データファイル	指定方法	最大プリンタ台数	
		シングルスレッド	マルチスレッド
1 ファイルに複数の出力先を指定する	レコード	30 (50 *)	-
1 ファイルで 1 つの出力先を指定する	ファイル	100	10 (50 *)
	フォルダ	100	10 (50 *)

*Enterprise 版のみ

・マルチスレッドを有効にする



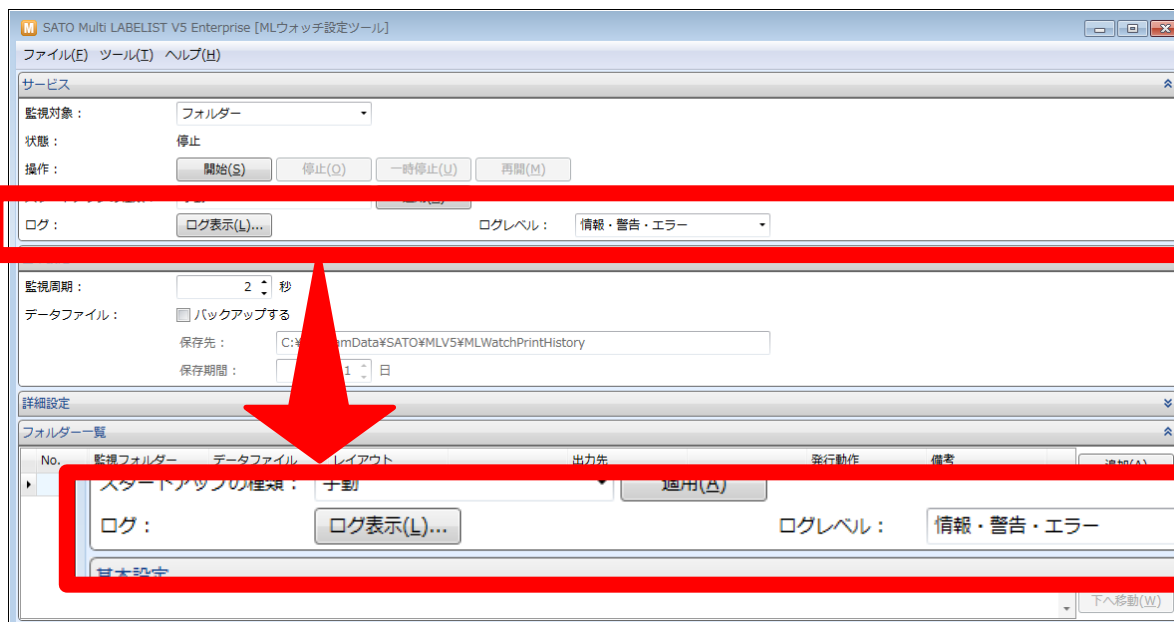
* カラープリンタレイアウト使用時は利用できません。



■ログを表示する

サービスの起動・停止やデータファイルのレコード毎の発効結果がログとして保存されます。出力されたログの内容は「ログ表示」を押すことで、Windows のイベントビューアの「アプリケーションとサービス ログ」が表示され、ログを確認できます。また、ログの出力内容は「ログレベル」で変更することができます。

ログの詳細は「[ログの出力内容](#)」をご参照ください。

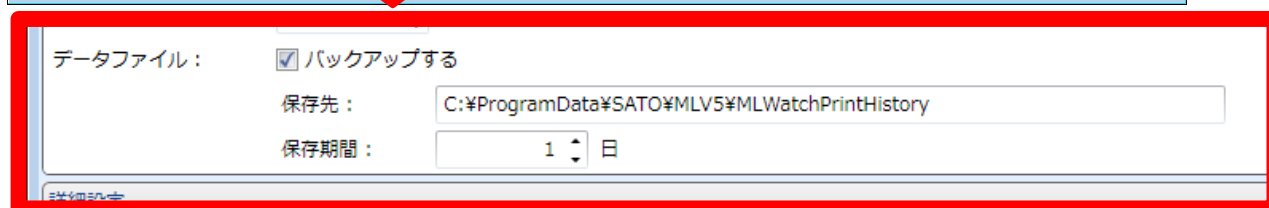
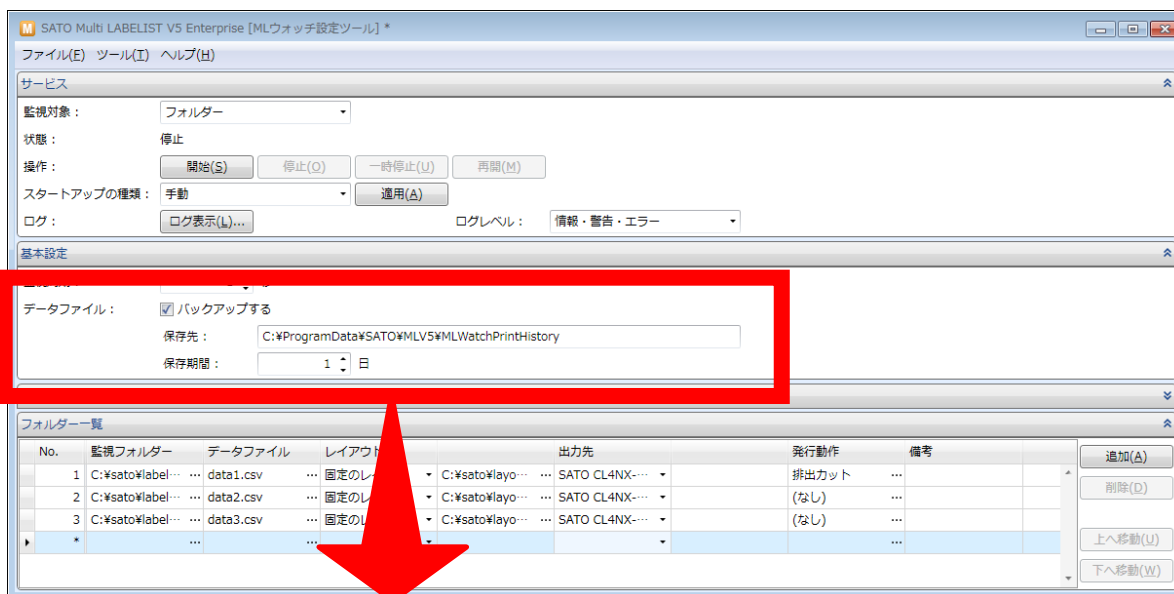


■データファイルをバックアップする

発行で使用したデータファイルは、取込・解析・発行が完了すると削除されます。

バックアップを有効にすることで、「保存先」に表示されたフォルダに、「保存期間」で指定した日数までファイルを保存します。（保存先は変更できません。）

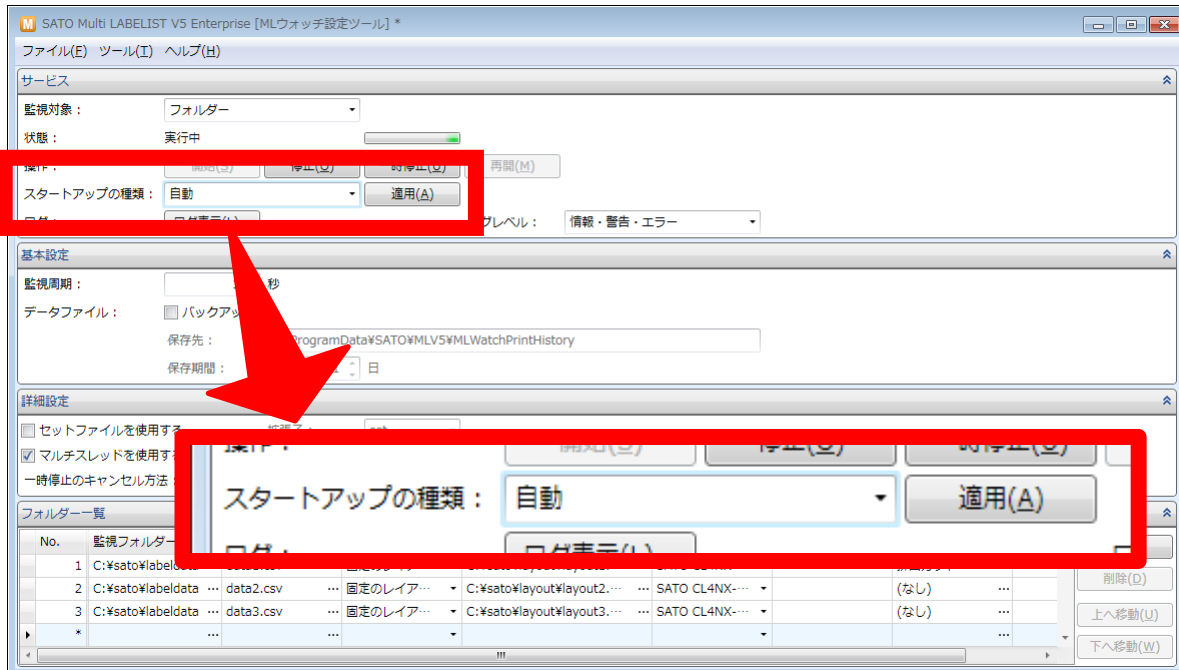
バックアップされるファイル名は、「データファイルの解析日時」と「データファイル名」から自動的に設定されます。指定された保存期間が過ぎると自動で削除されます。



■OS 起動時の動作を設定する

フォルダ監視発行は Windows サービスとして常駐します。

スタートアップの種類を変更することで、OS 起動時の動作を設定できます。



スタートアップの種類	設定時の動作
自動	OS 起動時にフォルダ監視機能を開始します。
手動	「開始」ボタンを押した時のみ起動します。自動的に開始されません。
無効	フォルダ監視発行機能を利用しません。「開始」ボタンを押しても起動ができなくなります。

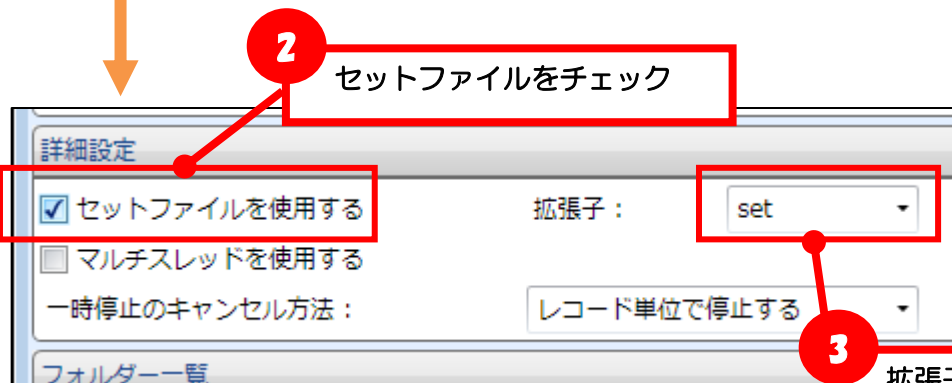
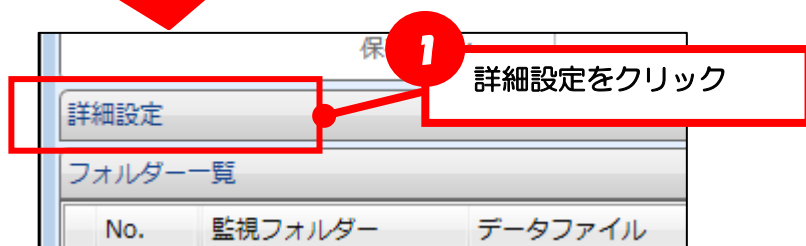
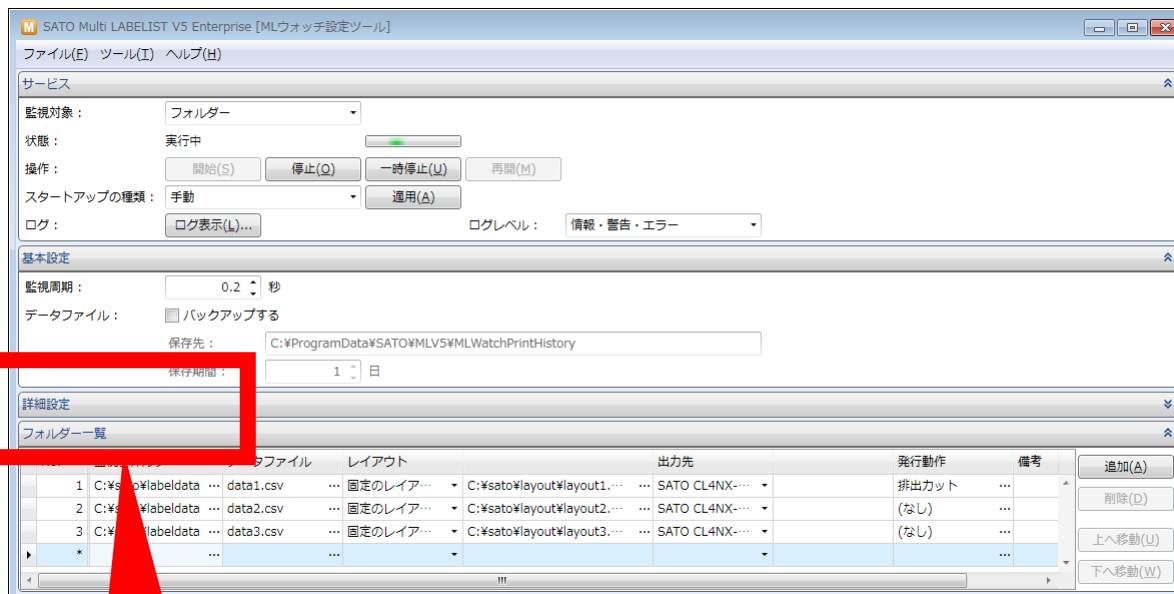
※OS 起動時に自動的に開始されない場合

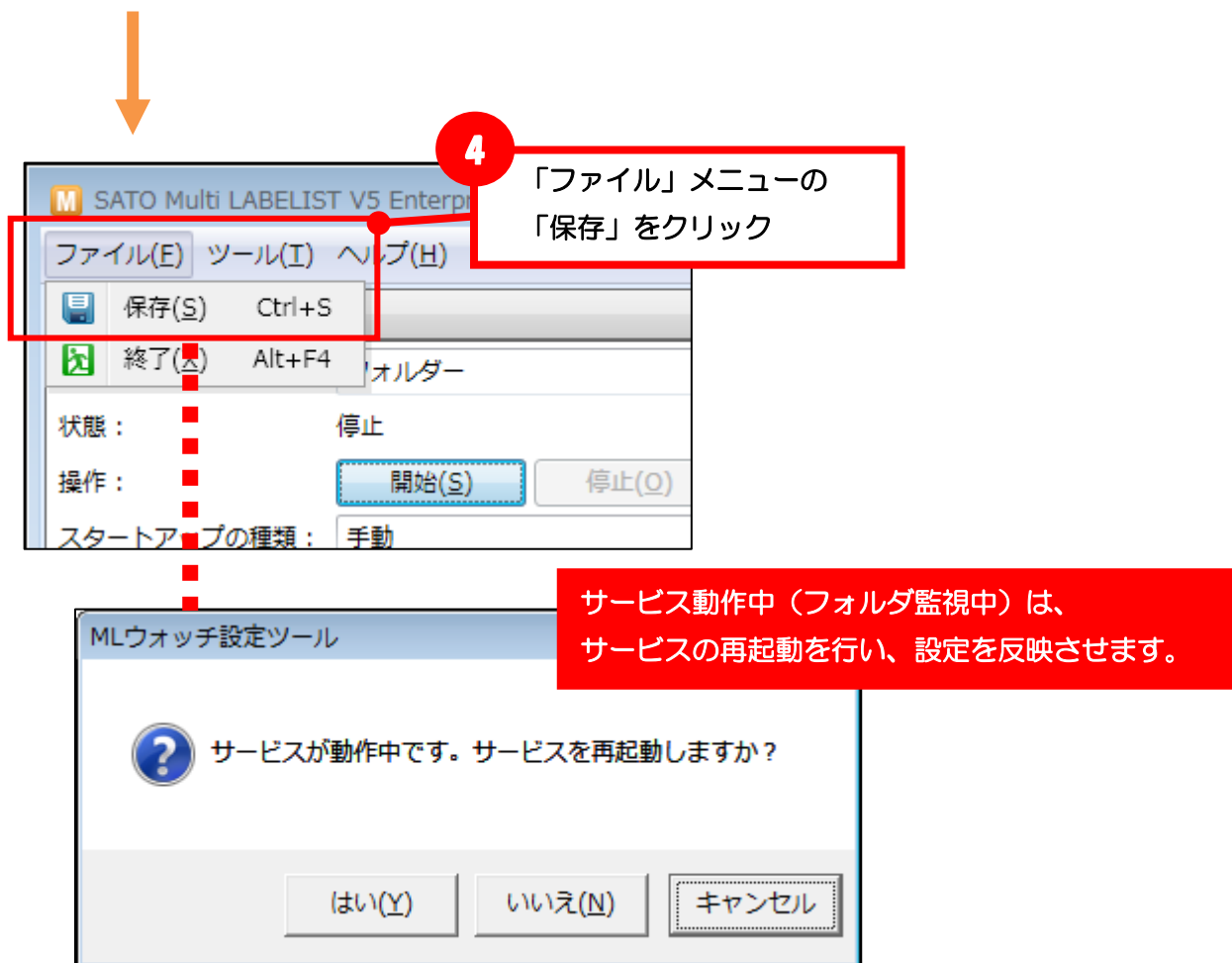
Windows Server 2008 R2 で「自動」に設定しても、OS の起動タイミングによって、フォルダ監視が開始されないことが確認されています。「自動」で起動に失敗する場合は、コントロールパネルから管理ツールサービスを選択し、「SATO MLV5 MLWatch」のプロパティにて、スタートアップの種類を「自動（遅延開始）」に変更してください。



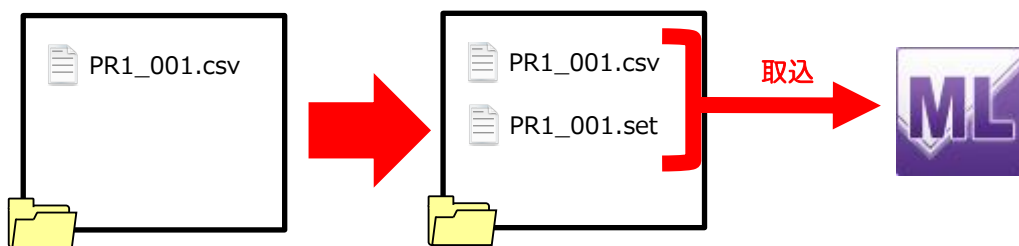
■セットファイルでデータ作成完了を監視する

データファイルが、追加で書き込みされる場合や、作成中・転送中にファイルが取り込まれるのを防ぐ場合は、データ作成完了を示すセットファイルを活用します。





データファイルのみでは発行されず、セットファイルが配置された場合に、同じ名前のデータファイルを取り込んで発行します。



第2章

補足情報

2-1

ログの出力内容

■ログ名とイベントソース ■開始・終了 ■起動 ■監視 ■発行履歴

■ログ名とイベントソース名

イベントログ名：SATO MLV5 MLWatch	
イベントソース名	内容
SATO MLV5 MLWatch	サービス状態遷移(開始、停止など)
SATO MLV5 MLWatch Folder	フォルダ監視中の動作ログ
SATO MLV5 MLWatch Folder PrintHistory	フォルダ監視の発行履歴

■サービス開始・終了ログ (SATO MLV5 MLWatch)

#	メッセージ	補足情報	レベル
1	SATO MLV5 MLWatch を開始しました。	ログレベル設定に関係なく出力	-
2	SATO MLV5 MLWatch は正常に停止しました。	ログレベル設定に関係なく出力	-
3	SATO MLV5 MLWatch の開始に失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)		-

■アプリケーション起動ログ (SATO MLV5 MLWatch)

#	メッセージ	レベル
1	ライセンス認証に失敗しました。起動用のアダプタをセットしてください。	警告
設定ファイルエラー：設定ファイルが壊れている可能性があります。弊社の担当販売員までお問合せください。		
2	アプリケーション起動時の共通設定ファイルの読み込みに失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー
3	アプリケーション起動時のアプリケーション管理の生成に失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー
4	アプリケーション起動時の保守設定ファイルの読み込みに失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー
5	アプリケーション起動時の保守設定ファイルが存在しません。	エラー
6	ML ウォッチ構成ファイルの設定が不正です。 (設定値不正内容)	エラー
7	ML ウォッチ構成ファイルの読み込みに失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー
8	アプリケーション起動時の ML ウォッチ設定ファイルの設定が不正です。 (設定値不正内容)	エラー
9	アプリケーション起動時の ML ウォッチ設定ファイルの読み込みに失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー
10	アプリケーション起動時のインシデント管理の生成に失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー
11	アプリケーション起動時のフォルダ監視管理の生成に失敗しました。 例外メッセージ：(例外メッセージ)	エラー

#	メッセージ	レベル
12	アプリケーション起動時のウィンドウ管理の生成に失敗しました。 例外メッセージ：（例外メッセージ）	エラー
サービス再起動エラー：特定条件によりサービスが停止した際に記録されます。自動で再起動します。		
13	ML ウォッチのハンドル数が規定値に達したため、ML ウォッチのサービスを終了します。	エラー
14	システムのメモリ使用率が規定値に達したため、ML ウォッチのサービスを終了します。	エラー
例外エラー：通常は発生しません。弊社の担当販売員までお問合せください。		
15	予期せぬインシデントが発生しました。 （例外メッセージ）	エラー

■フォルダ監視ログ (SATO MLV5 MLWatch Folder)

#	メッセージ	レベル
詳細		
1	監視実行中のフォルダのデータファイルのバックアップに失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	バックアップフォルダにデータファイルをコピーする際にエラーが発生しています。セキュリティソフトでリアルタイムにファイルアクセスが監視されている場合は、例外設定にバックアップフォルダ*を登録してください。 * C:\ProgramData\SATO\MLV5\MLWatchPrintHistory	
2	監視実行中のフォルダのバックアップファイルの削除に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） バックアップファイル：（ファイルパス） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	バックアップフォルダからデータファイルを削除する際にエラーが発生しています。ファイルがロックされていない、Windows サービスにバックアップフォルダ*でファイルを削除する権限があるかご確認ください。 * C:\ProgramData\SATO\MLV5\MLWatchPrintHistory	
3	監視実行中のフォルダ番号のバックアップファイルの削除対象ファイルの取得に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	バックアップフォルダからファイル情報の取得でエラーが発生しています。Windows サービスにバックアップフォルダ*でファイルを削除する権限があるかご確認ください。 * C:\ProgramData\SATO\MLV5\MLWatchPrintHistory	
4	監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、レイアウト判別データに合致する判別キーが見つかりませんでした。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） レコード番号：（レコード番号） レイアウト判別データ：（レイアウト判別データ）	警告
	レイアウト判別の項目に指定されたデータが、判別キーと一致しません。正しいデータが指定されているかデータ	

#	メッセージ	レベル
詳細		
	ファイルを確認してください。	
5	<p>監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、レイアウト判別結果のレイアウトファイルの読み込みに失敗しました。</p> <p>フォルダ番号：（フォルダ番号）</p> <p>データファイル：（ファイルパス）</p> <p>レコード番号：（レコード番号）</p> <p>レイアウトパス：（レイアウトパス）</p> <p>エラーメッセージ：（エラーメッセージ）</p>	警告
	レイアウト判別で設定されているレイアウトファイルのパスにファイルが存在しているか、読み取りが可能か確認してください。	
6	<p>監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、出力先判別データに合致する判別キーが見つかりませんでした。</p> <p>フォルダ番号：（フォルダ番号）</p> <p>データファイル：（ファイルパス）</p> <p>レコード番号：（レコード番号）</p> <p>出力先判別データ：（出力先判別データ）</p>	警告
	出力先判別の項目に指定されたデータが、判別キーと一致しません。正しいデータが指定されているかデータファイルを確認してください。	
7	<p>監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、出力先判別結果のプリンタキャプションが存在しません。</p> <p>フォルダ番号：（フォルダ番号）</p> <p>データファイル：（ファイルパス）</p> <p>レコード番号：（レコード番号）</p> <p>プリンタキャプション：（プリンタキャプション）</p>	警告
	出力先判別で設定されている出力先（プリンタドライバ）が存在しているか、利用可能な状態か確認してください。	
8	<p>監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、データファイルの書式が ML ファイルの設定と一致していません。</p> <p>フォルダ番号：（フォルダ番号）</p> <p>データファイル：（ファイルパス）</p> <p>レコード番号：（レコード番号）</p> <p>レイアウトパス：（レイアウトパス）</p> <p>エラーメッセージ：（エラーメッセージ）</p>	警告
	取り込んだデータファイルのファイル書式が設定と異なります。レイアウトファイルが固定の場合はレイアウトファイルのファイル形式設定をご確認ください。レイアウトファイルをデータで指定する場合は、ML メンテナンスの監視設定をご確認ください。	
9	<p>監視実行中のフォルダ番号のデータファイルの解析に失敗しました。</p> <p>フォルダ番号：（フォルダ番号）</p> <p>データファイル：（ファイルパス）</p>	警告

#	メッセージ	レベル
	詳細	
	レコード番号：（レコード番号） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	
	データファイルの解析でエラーが発生しています。データファイルがロックされていないか確認してください。セキュリティソフトでリアルタイムにファイルアクセスが監視されている場合は、例外設定に該当の監視フォルダを登録してください。	
10	監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、固定出力先のプリンタキャプションが存在しません。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） レコード番号：（レコード番号） プリンタキャプション：（プリンタキャプション）	警告
	監視設定で設定した出力先（プリンタドライバ）が存在しません。再度設定を行ってください。	
11	監視実行中のフォルダのデータファイルの解析時に、ML ファイルに設定されているプリンタキャプションが存在しません。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） レコード番号：（レコード番号） レイアウトファイル：（レイアウトパス） プリンタキャプション：（プリンタキャプション）	警告
	監視設定で設定したレイアウトファイルに設定されている出力先（プリンタドライバ）が存在しません。再度設定を行ってください。	
12	監視実行中のフォルダのデータファイルの移動に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	データファイルを一時ファイルへ移動する際にエラーが発生しています。セキュリティソフトでリアルタイムにファイルアクセスが監視されている場合は、例外設定に監視フォルダと M ウォッチ*を登録してください。 *C:\Program Files\SATO\MLV5\MLWatch.exe	
13	監視実行中のフォルダのセットファイルの削除に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） セットファイル：（セットファイルパス） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	セットファイルの削除でエラーが発生しています。Windows サービスにセットファイルを削除する権限があるかご確認ください。セキュリティソフトでリアルタイムにファイルアクセスが監視されている場合は、例外設定に監視フォルダを登録してください。	
14	監視実行中のフォルダでアプリケーション起動時と異なる出力先プリンタキャプションが指定されています。	警告

#	メッセージ	レベル
	詳細	
	フォルダ番号：（フォルダ番号） レイアウトファイル：（レイアウトパス） 起動時プリンタキャプション：（起動時プリンタキャプション） 実行時プリンタキャプション：（実行時プリンタキャプション）	
	フォルダ監視実行中に監視設定を変更した場合は、サービスを再起動してください。	
15	監視実行中のフォルダのデータファイルの更新日時を取得に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	データファイルの情報の取得でエラーが発生しています。Windows サービスにデータファイルの情報を取得する権限があるかご確認ください。セキュリティソフトでリアルタイムにファイルアクセスが監視されている場合は、例外設定に監視フォルダを登録してください。	
16	監視実行中のフォルダのファイル検索に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	監視フォルダからファイル情報の取得でエラーが発生しています。Windows サービスに監視フォルダの情報を取得する権限があるかご確認ください。	
17	監視実行中のフォルダのファイル検索でセットファイルの配置有無の確認に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） 例外メッセージ：（例外メッセージ）	警告
	監視フォルダからファイル情報の取得でエラーが発生しています。Windows サービスに監視フォルダの情報を取得する権限があるかご確認ください。	
18	監視実行中のフォルダの設定値が不正です。 フォルダ番号：（フォルダ番号） （設定値不正内容）	警告
	監視設定の内容に誤りがあります。設定を再度ご確認ください。	
19	監視実行中のフォルダのデータファイルの印刷時に、カラープリンタレイアウトが指定されていません。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） レコード番号：（レコード番号） レイアウトファイル：（レイアウトパス）	警告
	カラープリンタレイアウトの発行は Standard 版、Lite 版では利用できません。Plus 版、または Enterprise 版が必要です。	
20	監視実行中のフォルダのデータファイルの印刷時に、アプリケーション起動時と異なる出力先プリンタキャプションが指定されています。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス）	警告

#	メッセージ	レベル
	詳細	
	レコード番号：（レコード番号） レイアウトファイル：（レイアウトパス） 起動時プリンタキャプション：（起動時プリンタキャプション） 実行時プリンタキャプション：（実行時プリンタキャプション） フォルダ監視実行中に監視設定を変更した場合は、サービスを再起動してください。	
21	監視実行中のフォルダのデータファイルの印刷時に、（操作内容）に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） レコード番号：（レコード番号） レイアウトファイル：（レイアウトパス） プリンタキャプション：（プリンタキャプション） エラーコード：（MLComponent 戻り値） メッセージ：（MLComponent 戻り値に対応するメッセージ） 例外エラーです。（操作内容）に該当する内容で対応が不明な場合は、弊社の担当販売員へご連絡ください。	警告
22	監視実行中のフォルダの発行履歴の出力に失敗しました。 フォルダ番号：（フォルダ番号） データファイル：（ファイルパス） レコード番号：（レコード番号） レイアウトファイル：（レイアウトパス） プリンタキャプション：（プリンタキャプション） 例外メッセージ：（例外メッセージ） イベントログに発行履歴ログを出力する際にエラーが発生しています。イベントビューアでログ「SATO MLV5 MLWatch」が存在しているか、イベントログへのアクセス権に制限がないか確認してください。	警告

■発行履歴ログ(SATO MLV5 MLWatch Folder PrintHistory)

メッセージ	レベル
1[TAB]2[TAB]3[TAB]4[TAB]5[TAB]6[TAB]7[TAB]8[TAB]8...	情報
1 = 発行した日付(yyyy/MM/dd) 2 = 発行した時刻(HH:mm:ss) 3 = レイアウトファイルフルパス 4 = 発行枚数 5 = データファイルフルパス 6 = データファイルレコード番号 7 = 発行時のシステム日付 8 = 任意入力項目*	

*ML デザインの入力項目オブジェクトの設定で、履歴保存対象が「有効」になっている項目の入力値です。

複数項目の場合は末尾にタブ区切りで連結して出力します。

2-2

注意事項

■カラープリンタ印刷

■Windows 8 以降の 64 ビット OS でカラープリンタレイアウトが印刷できない。

イベントログに下記のエラーが記録されます。

Windows の不具合であることが確認されています。修正パッチを適用してください。

<https://support.microsoft.com/en-us/help/2954953/>

エラーコード : 202

メッセージ : 予期しないエラーが発生しました。

例外メッセージ : System.Printing.PrintQueueException: PrintTicket プロバイダーで、プリンターへのバインドに失敗しました。Win32 エラー: -2147467231

■発行枚数計算を利用する場合

入力項目「発行枚数」の枚数計算を有効にして、計算式に「発行枚数」を利用しない場合は、ファイル形式設定のフィールド定義で「発行枚数」を 0 以外の未使用の項目番号（可変長）、開始位置・終了位置（固定長）に設定してください。0 に設定すると発行枚数が 1 枚固定で発行されます。